

元遞信管理局事務引繼方要領

- 第一 事務ノ引繼キハ郵便及電信局監督事務實施ノ日ヨリ十五日以内ニ之ヲ完了スヘシ若シ其期限内ニ完了シ能ハサルトキハ事由ヲ詳記シ上申スヘシ
- 第二 其局ヨリノ何上中等ニシテ未済事件及本省ヨリノ違又ハ本省主務局ヨリノ通牒或ハ其局ノ見込ニ因リ著手中又ハ下調中ニ係ルモノハ措置ノ意見ヲ詳記シ上申スヘシ
- 其一等郵便及電信局擔任條件ニ屬スルモノハ前項ノ手續ヲナシ各管區毎ニ區分シ之ヲ其一等局ニ引繼クヘシ
- 第三 部下各局所ヨリノ願何上中ニ係ル未済又ハ著手中ノ事件ニシテ一等局ノ擔任條件ニ屬スルモノハ各管區毎ニ區分シ各意見ヲ附シ目錄ヲ製シ之ヲ其一等局ニ引繼キ其旨届出ツヘシ其擔任外ニ屬スルモノハ前項ノ手續ヲナシ之ヲ本省ニ差出スヘシ
- 第四 左ニ記載スルモノハ之ヲ各管區毎ニ區分調製シ其一等局ニ引繼キ其旨届出ルモノトス
  - 一 郵便電信局郵便局電信局郵便受取所郵便貯金預所切手賣下所ノ原簿
  - 二 同上ノ各局所員名簿及履歷
  - 三 郵便小線路調査原簿
  - 四 各局長身許保證ニ屬スル書類  
但爲替貯金ニ屬スル保證品ハ保證等級金額并保證品種別ヲ明記シタル仕譯書ヲ添フヘシ
  - 五 郵便集配遞送ニ屬スル契約書類
  - 六 郵便線路ニ關スル原簿及線路圖
  - 七 郵便區ニ關スル原簿及集配線路圖
  - 八 銀行等ノ爲替ニ依リ爲替資金及過額金ヲ受授スヘキ局名書并其爲替手数料ノ割合書
- 九 無爲替局所ノ貯金預リ金及拂戻資金受授ニ係ル爲替取組局名書
- 第五 編纂済ノ書類及完結假假ノ書類ハ悉皆元遞信管理局所在地ノ一等局ニ引繼キ(一等郵便電信局ケラサル地ハ最近ノ一等郵便電信局長)更ニ該局ニ於テ之ヲ各管區毎ニ區分調製シ其一等局ニ引繼クモノトス
- 第六 爲替貯金ノ計算調査事務ハ一等局事務實施期日ノ前日迄ニ各局所ニ於テ取扱ヒタルモノヲ區切り其殘務ヲ整理シ本務ニ關スル諸帳簿ハ本件整理済直ニ爲替貯金局又ハ同出張所ヘ引繼クヘシ但整理區切り日ノ屬スル月ノ「ヘ」號爲替受拂届書ヲ添附スヘシ
- 第七 既ニ使用済ニ係ル前項ノ諸帳簿其他爲替貯金ニ屬スル計算書類ハ目錄書ヲ添ヘ元管理局所在地ノ一等局(赤間關ハ同地爲替貯金局出張所)ヘ引繼クヘシ

○公達第貳百五十壹號 七月二十五日

元遞信管理局

三等郵便 郵便電信局電信局ヲ除ク

元遞信管理局會計事務引繼キ及殘務整理順序別冊ノ通之ヲ定ム

(別冊) 元遞信管理局會計事務引繼及殘務整理順序

- 第一條 元遞信管理局所管會計事務ハ八月三十一日ヲ以テ打切り其九月一日以後ニ屬スルモノハ所屬一等及二等郵便電信局ニ於テ處理スヘシ  
但九月一日以後八月三十一日以前ニ屬スル整理ノ事務ハ元管理局殘務整理委員ノ名義ヲ以テ所在地郵便電信局ニ於テ繼續執行スヘシ
- 第二條 元管理局所管二十一年度以前ニ屬スル歳入歳出及二十二年度八月以前ニ屬スル歳入歳出ノ決算ハ本年九月三十日限リ整理スヘシ  
但本條殘務整理ニ要スル經費ハ總テ元管理局經費ヨリ支辨スヘシ
- 第三條 元遞信管理局所管各種經費豫算ハ左ノ手續ニヨリ處理スヘシ
- 第一 本局經費三等郵便及電信局經費并各種額外費ノ殘額ハ書式第一號ノ經費減

額概算書ヲ製シ八月十日迄ニ發局遞信大臣ニ上申シ其決算結了ノ上ハ更ニ經費減額報告書ヲ進達スヘシ

第二 一等二等郵便及電信局經費ハ元管理局ニ於テ令達豫算額ノ凡二分ノ一ニ當ル金額ヲ以テ調査書式第二號ヲ製シ八月十日迄ニ所管郵便電信局ニ引繼キ其殘額ハ全ク決算済ノ上書式第三號ノ計算書ヲ以テ全額引繼ヲ完了スヘシ

但第一回ノ引繼高ハ引繼場所毎ニ區別シ其總額ヲ電報上申スヘシ

第三 前項ノ引繼ヲ受ケタル局ニ於テハ第一回ノ引受高ヲ以テ帳簿ニ登記シ九月一日ヨリノ仕拂ニ充テ第二回ノ引繼計算書ニヨリ更ニ之ヲ登記シテ全額豫算ノ引受ヲ完了スルモノトス

第四條 所在地外各郵便及電信局二十二年度經費定額ハ左ノ區別ニ從ヒ元管理局ニ於テ其送金ヲ取扱フヘシ

一 一等二等郵便及電信局經費ハ 八月分迄

一 三等郵便及電信局經費ハ 九月分迄

第五條 一等二等郵便及電信局二十二年度四月ヨリ八月迄ノ經費定額ノ内該各局ニ於テ仕拂殘餘ノ金額ハ元管理局ニ於テ返納告知書ヲ以テ返納セシムヘシ

第六條 一等二等郵便及電信局本年八月以前ニ屬スル歳入歳出整理ノ事務ハ現行會計例規ニ依リ元管理局ニ於テ處分シ其九月一日以後ニ屬スルモノハ總テ改正會計例規ニヨリ各一等二等郵便電信局ニ於テ執行スヘシ

第七條 一等二等郵便及電信局(二等電信局ヲ除ク)二十二年度四月ヨリ八月迄ノ歳入歳出ハ元管理局ニ於テ精算ヲ了シタル上書式第四號計算書ヲ作り左ノ書類ト共ニ該各局ニ引繼クヘシ

但二等電信局ニ屬スルモノハ其監督區々域ニ從ヒ各一等郵便電信局ニ引繼クヘシ

一 郵便切手類及收入金受拂報告表

一 歳入納付書及上納副書

一 納額告知書

一 物品拂下代徴收仕譯書

一 經費勘定表

一 雜部金出納報告表 國庫金出納所送付ノ分

第八條 三等郵便及電信局二十二年度經費ハ本年八月三十一日ノ現計額ヲ以テ第十條ノ帳簿ト共ニ監督區々域ニ隨ヒ各一等郵便電信局ニ引繼クヘシ

但九月分經費ハ八月中ニ於テ悉皆交付ヲ了スヘシ

第九條 前兩條ノ引繼ヲ受ケタル一等二等郵便電信局ニ於テハ改正會計例規及記簿順序ニ依リ其關係アル帳簿ニ登記シ他日全年度ノ決算額ニ合併スヘシ

但引繼ヲ受ケタル局ニ於テ八月以前ニ屬スル二十二年度收支ノ追給(三等郵便及電信局經費臨時投トモ)追徴ヲ要スルモノハ其局令達ノ豫算額ヲ以テ支辨スヘシ

尤モ支辨スルノ能ハサルモノハ上申シテ指揮ヲ乞フヘシ

第十條 二十一年度及二十二年度四月ヨリ八月迄ニ屬スル歳入歳出決算ニ關スル左ノ報告書類ハ元管理局ニ於テ整理スヘシ

二十一年度所屬

一 歳入決算帳

一 現金收入證明書

一 歳入未納及未徴收額事由辨明書

一 官有物貸下及拂下代徴收仕譯書

一 歳出決算帳

一 歳出未精算金精算内譯書

一 歳出精算書

一 歳出豫算減額報告書

- 一切手類受拂報告書
  - 二十二年度所屬
  - 歳入報告書
  - 歳出報告書
  - 收入内譯書
  - 仕拂内譯書
  - 人員表
  - 概算支出仕譯書
  - 科目訂正及戻入金仕譯書
  - 經費受拂報告表
  - 切手類受拂報告表
  - 買戻切手類仕譯表
- 第十一條 二十一二十二兩年度ニ屬スル左ノ帳簿計算表ハ九月三十日限り所在地郵便電信局ニ引繼キ二十一年度ハ全年度決算結了ニ至ル迄二十二年度ハ四月ヨリ八月迄ノ決算結了ニ至ル迄該局ニ於テ繼續登記スヘシ
- 歳入整理簿
  - 歳入調査簿
  - 歳入整理簿計算表
  - 日記簿
  - 原簿
  - 本局經費内譯簿
  - 郵便及電信局經費内譯簿
  - 郵便及電信局經費調査簿
  - 經費承認額整理簿

- 本局經費概算支出金整理簿
  - 郵便及電信局經費概算支出金整理簿
  - 二十一年度三等郵便局經費明細簿
  - 原簿計算表
  - 本局經費内譯簿計算表
  - 郵便及電信局經費内譯簿計算表
  - 本局經費明細簿
  - 現金受拂簿
  - 一時取扱金内譯簿
  - 現金内譯表
  - 郵便切手類受拂簿
  - 郵便及電信局郵便切手類受拂計算簿
  - 本局諸物品現在簿
  - 本局用諸物品受拂簿
  - 郵便及電信用諸物品受拂簿
- 第十二條 第二條及第十條ニ掲クル兩年度決算ノ事務ニシテ九月三十日迄ニ決了セサルモノハ每件其理由書及關係書類ヲ添附シ所在地郵便電信局ニ引繼キ同局ニ於テ繼續整理スヘシ
- 第十三條 所在地郵便電信局ニ於テハ前條殘務整理ノ爲メ特ニ其擔任ヲ定メ之ニ要スル別途費ノ豫算ヲ立テ本省ニ上申シ其裁可ヲ受クヘシ
- 第十四條 三等郵便及電信局ニ屬スル左ノ帳簿ハ一等郵便電信局監督區毎ニ分チ成ルヘク速ニ各局ニ引繼クヘシ
- 一 三等郵便及電信局經費支給原簿
- 但本年九月分經費交付ノ際過不足ヲ差繼タル分ノ異動ヲ記帳シタル現支給

額ヲ以テ引繼クヘシ

一 二十二年度三等郵便及電信局經費明細簿  
但本年九月分經費ノ交付ヲ了リタルモノヲ記帳シタル上之ニ基キ三等郵便及電信局經費支出調書ニ轉載シテ明細簿ニ代ヘ引繼クヘシ

一 三等郵便及電信局諸物品所在簿  
但本年八月三十一日迄受渡シタルモノヲ記帳ノ上書式第五號ノ備品目錄ニ轉載シテ引繼クヘシ

第十五條 元管理局ニ於テ八月三十一日前ニ受付ケタル各部局ノ金錢切手類物品ノ請求書ニシテ同日迄ニ交付未済ニ係ルモノハ速カニ各一等郵便電信局ニ引繼クヘシ

第十六條 郵便爲替資金及郵便貯金ノ現在金ハ爲替貯金局長ノ指定ニ從ヒ之ヲ處理スヘシ

第十七條 一時取扱金ノ内官舎宿代等ハ八月三十一日迄ニ會計局ヘ納付シ其他臨時寄托ニ係ルモノハ成ルヘク同日迄ニ其處分ヲ結了スヘシ

第十八條 電信建築繰替資金ハ八月三十一日ヲ以テ區切り元管理局ニ於テ決算ノ上本省ヘ返納スヘシ  
但八月三十一日現在ノ繰替金ハ更ニ電信建築長所在ノ局ニ交付スル資金ヲ以テ拂替ノ處分ヲナスヘシ

第十九條 郵便切手額ハ八月三十一日ヲ以テ區切り所在地郵便電信局ニ引繼クヘシ

第二十條 郵便電信用第二種第三種ノ諸物品ハ一等郵便電信局監督區々域ニ分チ豫メ需用ノ高チ量リ八月三十一日前之ヲ各局ニ分付シ同日現在ノ殘品及第一種物品ハ滙テ所在地一等郵便電信局(赤間關ハ山口局ヘ)ニ引繼クヘシ

第二十一條 電信建築用諸物品ハ八月三十一日ヲ以テ打切り別ニ定ムル手續ニ依リ引繼クヘシ

第二十二條 元管理局所屬地所建物及器具器械消耗品ハ九月三十日ノ現在高チ以テ所在地一等郵便電信局ニ引繼クヘシ  
但器具器械消耗品ノ内管理局専用ニ屬スルモノハ引繼キ前豫メ本省ニ稟議シ其指揮ヲ受クヘシ

第二十三條 一二等郵便局及電信局所屬ノ財產ハ監督區々域ニ隨ヒ各一等郵便電信局ニ引繼クヘシ

第二十四條 元管理局保存ノ仕拂切符ハ九月三十日迄其儘使用シ同日ノ殘册(一册ノ内幾分ヲ使用シタルモノハ使用済ノ分ト共ニ所在地郵便電信局ヘ引繼モノトス)ハ所在金庫ヘ返付スヘシ

第二十五條 三等郵便及電信局々舎等特ニ其局長ニ貸與ノモノハ廉限リ其事由ヲ詳記シ之ニ契約書ヲ添ヘ所管一等郵便電信局ヘ引繼クヘシ

第二十六條 府縣約束郵便稅ハ其約束高徵收高未徵收高ヲ記シタル仕譯書ヲ作り監督區域ニ隨ヒ各一等郵便電信局ニ引繼クヘシ

第二十七條 前各條ニヨリ引繼タルモノハ其時々書類及帳簿目錄寫ヲ添ヘ兩局長連署届出ヘシ

第二十八條 前各條ノ外引繼キ順序及書式等ハ明治十七年舊驛遞局丁第四十五號達ニ準據スヘシ

(第一號書式)

某遞信管理局何年度何々經費豫算減額概算書

科 目	現 豫 算 高	決 算 ス へ キ 高	差 引 減 額 ス
項 目	円	円	円
節 目			
節			

合計			

右上申候也

年月日

遞信大臣宛

元某遞信管理局長姓名印

(第二號書式)

某遞信管理局所管何年度郵便及電信局經費豫算第一回引繼調查

科目	局名	項目	節	目	某局					計
					円	円	円	円	円	
合計										

右之通及引繼候也

年月日

某郵便電信局長宛

元某遞信管理局長姓名印

(第三號書式)

某遞信管理局所管何年度某局經費豫算第二回引繼調查

科目	項目	節	目	現豫算		精算		引繼	
				高	低	高	低	第一回	今回
合計									

右及引繼候也

年月日

某郵便電信局長宛

元某遞信管理局長姓名印

(第四號甲書式)

(一二等郵便及電信局分)

某遞信管理局所管何年度某局經費精算額計算書

科目	項目	節	目	金額	額

合計	
----	--

右及引繼候也  
年 月 日

某郵便電信局長宛

元某遞信管理局長姓名印

(第四號乙書式)

某遞信管理局所管何年度電信局經費精算額計算書

科目	局名						計
	某局	某局	某局	某局	某局	某局	
項目	円	円	円	円	円	円	円
節							
合計							

右及引繼候也  
年 月 日

某郵便電信局長宛

元某遞信管理局長姓名印

(第五號書式)

(此目録ハ所在原簿ノ現在高ヨリ移載スルモノナレハ返納ノ限ハ不用ノ如クナレトモ引受局ニ於テハ之ヲ保存シ改正會計例規ノ備品目録トナス爲メ之ヲ設ク)

某局備品目録

品目	受		返納	
	個數	年月日及事由	個數	年月日及事由
時計	二	何年何月何日渡		
何々	一			

○公達第貳百五拾貳號 七月二十五日

一等郵便電信局 三等郵便電信局

三等郵便電信局三等郵便局經費ハ本年十月分以降一等郵便電信局ニ於テ支給セシム但受渡順序ハ明治二十一年公達第十三號三等郵便電信局經費受渡規則ニ依ルヘシ  
○公達第貳百五拾三號 七月二十五日  
元遞信管理局 電信建築官

今般遞信管理局被廢候ニ付テハ電信建築ニ係ル事務ハ左ノ手續ニ據リ引繼クヘシ  
元遞信管理局電信建築事務引繼手續

第一 電信建築事務ノ引繼ハ來ル九月十五日迄ニ之ヲ完了スヘシ若シ該日限内ニ完了シ能ハサルトキハ其事由ヲ具シ上申スヘシ  
第二 其局ヨリノ何上中等ニシテ未済事件及本省ヨリノ達又ハ本省各局其他ヨリノ通牒或ハ其局ノ見込ニ因リ着手申又ハ下調中ニ係ルモノハ措置ノ意見ヲ詳記シ上申スヘシ

第三 電信建築官ノ願何上申ニ係ル未済又ハ取調中ノ事件及電信建築官ノ進退配置電信柱敷地手當等ニ關スル書類ハ目録ヲ製シ之ヲ工務局長ニ引繼クヘシ  
但本文未済及取調中ニ係ルモノハ意見ヲ附シ引繼クヘシ

第四 左ニ記載スルモノハ之ヲ電信建築區毎ニ區分調製シ其區電信建築長ニ引繼其旨届出ヘシ

- 一本省ヨリノ令達何上申及本省各局其他ノ往復書類
- 一電信建築事務ニ關スル諸規則報告書及届書類
- 一電信線路及同明細表
- 一電信建築技術上ニ係ル書類及繪圖類
- 一電信建築用器械物品及同出納書類
- 一電信建築工夫ニ關スル書類

第五 電信建築ニ關スル八月末日マテニ屬スル經費整理方ハ公達第貳百五拾壹號元

第六 八月三十一日電信建築上ニ係ル一切ノ費途(俸給及諸給旅費電信線路工費同材料費電信柱敷地手當)殘額別表ノ通概算ヲ以テ取調八月十日マテニ發局減額方申出ヘシ

第七 前項經費決算濟ノ上ハ殘額調書式ニ準シ過不足計算書取調剩餘ハ減額不足ハ増額方申出ヘシ

第八 電信建築上ニ係ル工事及經費豫算其他會計上ノ諸報告諸計算書帳簿等ハ目錄ヲ添ヘ電信建築區電信建築長ヘ引繼クヘシ

某遞信管理局明治二十二年度電線建築經費豫算殘額調

(二管理區以上併管ノ局ニ於テハ電信建築官旅費及電線建築費ニ限リ一管理區毎ニ區分別冊ニ調製スヘシ)

電信建築技術官俸給

技師計	金額	何程	何程	金額	何程	何程	金額	何程	何程	金額	何程	何程
技師計	金額	何程	何程	金額	何程	何程	金額	何程	何程	金額	何程	何程

電信建築技術官旅費		電線建築費		尋常保守費		工費		材料費		電柱何本代		諸材料費		運搬費		雜費		小計	
豫算	金額	何程	何程	豫算	金額	何程	何程	豫算	金額	何程	何程	豫算	金額	何程	何程	豫算	金額	何程	何程
支拂	金額	何程	何程	支拂	金額	何程	何程	支拂	金額	何程	何程	支拂	金額	何程	何程	支拂	金額	何程	何程
差引	金額	何程	何程	差引	金額	何程	何程	差引	金額	何程	何程	差引	金額	何程	何程	差引	金額	何程	何程
豫算殘額	金額	何程	何程	豫算殘額	金額	何程	何程	豫算殘額	金額	何程	何程	豫算殘額	金額	何程	何程	豫算殘額	金額	何程	何程

豫管金額ノ豫テ申牒シアル電線建築經費豫算明細書内譯ニ記載ノ金額ニ對シ増減アラハ此所ニ本文豫算額小計ハ最初申牒額金何程ノ處何月何日第何號令達ニ依リ金何程増額又ハ減額ニ依リ如此トカ又ハ本文豫算額小計ハ最初申牒高金何程ノ處何々ニ依リ某所某所間改築カ増架カヘ金何程流用減額如此ト歟其増減ノ事故及金額ヲ備考ニ記載スヘシ以下準之

本省ヨリ同送器械物品費ハ記載ニ及ハス以下準之

某所某所間修築費

建柱架線費

工 材 内 運 雜		電 柱 何 本		諸 材 料		雜 費		小 計	
工 費	材 費	内 費	運 費	雜 費	諸 費	電 費	柱 費	何 費	本 費
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
程	程	程	程	程	程	程	程	程	程
支	支	支	支	支	支	支	支	支	支
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
程	程	程	程	程	程	程	程	程	程
差	差	差	差	差	差	差	差	差	差
引	引	引	引	引	引	引	引	引	引
豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫
算	算	算	算	算	算	算	算	算	算
殘	殘	殘	殘	殘	殘	殘	殘	殘	殘
額	額	額	額	額	額	額	額	額	額

本工事ノ成否ト本費豫算額支拂額差引豫算殘額トノ割合并ニ豫算殘額ノ處分見込ヲモ此所ニ記載スヘシ例之ニ本工事既ニ落成費用モ悉皆支拂濟ニ付本費差引豫算殘額ハ全ク支拂殘ニシテ尋常保守若クハ何々費ヘ流用ノ見込ナリシ分ニ候ト歟(本工事未タ著手中ニ付本費豫算殘額ハ本工事ノ爲メ追テ支出スヘキ見込ナリシ分ニ候ト歟又ハ(本工事ハ既ニ落成シタルモ本費支拂未濟ノ分アルヲ以テ本費差引豫算殘額ハ追テ支出スヘキ見込ナリシ分ナリ)トカ記載スヘシ以下建柱架線費及丹攀注入費ハ何レモ做之

前同所間修築  
丹攀注入費

工 材 内 運 雜  
費 費 費 費 費 費 費 費 費 費  
金 金 金 金 金 金 金 金 金 金  
何 何 何 何 何 何 何 何 何 何  
程 程 程 程 程 程 程 程 程 程  
金 金 金 金 金 金 金 金 金 金  
何 何 何 何 何 何 何 何 何 何  
程 程 程 程 程 程 程 程 程 程  
金 金 金 金 金 金 金 金 金 金  
何 何 何 何 何 何 何 何 何 何  
程 程 程 程 程 程 程 程 程 程

工 材 内 運 雜		電 柱 何 本		諸 材 料		雜 費		小 計	
工 費	材 費	内 費	運 費	雜 費	諸 費	電 費	柱 費	何 費	本 費
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
程	程	程	程	程	程	程	程	程	程
支	支	支	支	支	支	支	支	支	支
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
程	程	程	程	程	程	程	程	程	程
差	差	差	差	差	差	差	差	差	差
引	引	引	引	引	引	引	引	引	引
豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫	豫
算	算	算	算	算	算	算	算	算	算
殘	殘	殘	殘	殘	殘	殘	殘	殘	殘
額	額	額	額	額	額	額	額	額	額

某所某所間改築  
建柱架線費  
(修築ノ建柱架線費ニ準シ記載スヘシ)  
前同所間改築  
丹攀注入費  
(修築ノ丹攀注入費ニ準シ記載スヘシ)  
前同所間改築  
舊線取外費  
(修築ノ丹攀注入費ニ準シ記載スヘシ)  
某通信管理區電線建築費合計(尋常保守及改修築費ノ合計ト知ルヘシ)

電信柱敷地手當

工 材 内 運 雜  
費 費 費 費 費 費 費 費 費 費  
金 金 金 金 金 金 金 金 金 金  
何 何 何 何 何 何 何 何 何 何  
程 程 程 程 程 程 程 程 程 程  
金 金 金 金 金 金 金 金 金 金  
何 何 何 何 何 何 何 何 何 何  
程 程 程 程 程 程 程 程 程 程  
金 金 金 金 金 金 金 金 金 金  
何 何 何 何 何 何 何 何 何 何  
程 程 程 程 程 程 程 程 程 程



豫算額	支拂額	豫算殘額
金	何	何

但何府縣明治何年分金何程何府縣何年度分何程合本文支拂ノ通り支出ニ付差引豫算殘額ハ何府縣何年分ニ支拂フヘキ見込ナリシ分ニ有之候  
前書ノ通り有之候也  
明治 年 月 日  
元某遞信管理局長 氏 名印

○公達第貳百五拾四號 七月二十五日  
本年九月一日ヨリ貯金預リ高ハ振替爲替證書ヲ以テ納付スルノ手續ヲ廢シ預リ金ハ爲替資金ニ振替受入レ又貯金拂渡ハ爲替資金現在ノ内ヲ以テ拂渡スヘシ

○公達第貳百五拾五號 七月二十五日  
爲替諸受拂金届書(ハ號)爲替精算表(ア號)及貯金精算表(第十八號)ハ來ル八月三十一日限リ相廢シ更ニ爲替貯金出納報告書(タ號)及爲替貯金精算表(ア號)別紙ノ通相定メ候條別ニ規定スル所ノ手續ニ從ヒ之ヲ差出スヘシ(別紙ハ別ニ關係ノ局ニノミ願ヒ)

○公達第貳百五拾六號 七月二十五日  
但貯金拂渡届書(第四號)ハ同日限リ差出スニ及ハス

明治二十年(四月)公達第六十三號爲替貯金局出張所事務章程第三條中第九項ヲ削除シ更ニ左ノ四項ヲ挿入シ從前ノ第十項以下ハ順次繰下ク  
但本件ハ來ル九月一日ヨリ實施ス

九 爲替貯金出納報告書及精算表ヲ調査スル事  
十 爲替貯金出納ニ關スル證據書類ヲ調査スル事

十一 爲替過越金及貯金納付金ノ納否ヲ調査スル事  
十二 貯金ヲ出納スル事

○公達第貳百五拾七號 七月二十五日  
從來遞信管理局ニ差出シタル爲替貯金受拂ニ關スル計表及之ニ附屬スル書類ハ來ル九月一日ヨリ爲替貯金局ニ出スヘシ  
但告示第百五十一號ニ記スル地方ハ各其受持ノ爲替貯金局出張所ニ出スヘシ

○公達第貳百五拾九號 七月二十五日  
明治二十一年三月公達第五十八號郵便電信局電信局電機通信技手定員表中大阪電信局神戸郵便電信局定員各二名岡山郵便電信局定員一名ヲ増員ス

○公達第貳百六拾號 七月三十一日  
明治二十一年三月公達第五十九號郵便電信局電信局電機通信技手宿直定員表中大阪電信局宿直定員一名ヲ増員ス

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第五項及同第九條附表和歌山ノ次ニ湯淺御坊田邊ヲ追加ス  
○公達第貳百六拾壹號 七月三十一日  
元遞信管理局 郵便電信局  
電信局 電信取扱所

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第五項及同第九條附表國府津取扱所ノ次ニ興津取扱所ヲ追加ス  
元遞信管理局 郵便電信局  
電信局 電信取扱所



見附	東京 靜岡 濱松
濱松	東京 靜岡 掛川 見附 豐橋 名古屋
豐橋	東京 名古屋 濱松 岡崎 御油
御油	豐橋
岡崎	東京 名古屋 荻谷 豐橋
荻谷	東京 名古屋 岡崎
龜崎	東京 名古屋
半田	東京 名古屋
武豐	東京 名古屋
熱田	東京 名古屋
名古屋	東京 橫濱 靜岡 濱松 豐橋 岡崎 荻谷 大府 鳴海 熱田 清洲 一ノ宮 笠松 岐阜 大垣 彦根 大津 京都 大阪 神戸
一ノ宮	東京 名古屋
笠松	東京 名古屋 岐阜
岐阜	東京 橫濱 名古屋 笠松 大垣 京都 大阪 神戸 敦賀
大垣	東京 名古屋 岐阜 京都 大阪
長濱	東京 名古屋 京都 大阪 敦賀
敦賀	東京 橫濱 名古屋 岐阜 彦根 大津 京都 大阪 神戸 長濱
彦根	東京 名古屋 京都 大阪 敦賀

八幡	京都 大阪
草津	京都 大阪
大津	東京 名古屋 伏見 京都 大阪 神戸 敦賀
伏見	大津 京都 大阪
京都	東京 橫濱 向日町 高槻 大阪 大垣 長濱 敦賀 草津 大津 伏見
高槻	大阪
茨木	大阪
大阪	東京 橫濱 靜岡 名古屋 岐阜 大垣 山崎 高槻 敦賀 彦根 八幡
西ノ宮	大阪 神戸
御影	大阪 神戸
神戸	東京 橫濱 靜岡 名古屋 岐阜 大垣 山崎 高槻 敦賀 彦根 八幡

○公達第貳百六拾六號 七月三十一日  
東京神戸間及米原敦賀間大線路沿道  
并ニ大府武豐間小線路沿道  
郵便電信局 郵便局

東京神戸間及米原敦賀間大線便并ニ大府武豐間小線便鐵道遞送郵便物ハ左ノ區別ニ依リ各其下ニ記載スル郵便局ノ鐵道郵便取扱人ヲシテ郵便車ニ乗込取扱ハシムヘシ

一東京神戸間及大府武豐間ハ  
東京郵便局  
長濱郵便電信局

一米原敦賀間ハ  
長濱郵便電信局 郵便電信局 郵便局

○公達第貳百六拾七號 七月三十一日  
東京神戸間及米原敦賀間大線便并ニ大府武豐間小線便鐵道遞送郵便物遞送ノ節各停車場

ノ郵便函ヨリ取出シタル郵便物ニ關シ左ノ條件相心得ヘシ

一 直ニ汽車ヲ以テ運送スル郵便物ハ鐵道郵便取扱人ナシテ引受印トシテ左ノ線路印ヲ捺捺シ及郵便切手類消印ヲナサシメ且未納稅及不足稅ノモノハ未納印又ハ不足印ヲ捺捺セシム

但不足稅高ハ鐵道郵便取扱人ニ於テ記入致サ、ルニ依リ配達局ニ於テ記入スヘシ且不足稅ナルヤ否判然認メ難キモノハ是亦不足印ヲ捺捺セサルニ依リ配達局ニ於テ注意取扱フヘシ

一 同上郵便物(地方約東郵便物ヲ除ク)ハ初メニ其郵便物取扱ヲナス鐵道郵便取扱人所屬郵便局ノ取集數ニ加フヘシ

一 同上約東郵便物ハ其配達局ニ於テ稅濟印ヲ捺捺シ且地方約東郵便物ハ其配達局ノ取集數ニ加フヘシ

一 一旦郵便局ニ持戻リ更ニ各地方ニ差立又ハ其地ニ配達スヘキモノハ其持戻リタル局ニ於テ他ノ郵便函ヨリ取集メタル郵便物ト同様取扱フヘシ



線路印

○公達第貳百六拾八號 七月三十一日

二十三年公達第百七十三號ヲ以テ追加

湯淺御坊田邊ノ三郵便電信局開局ニ付テハ回線名稱左ノ通相定ム

元遞信管理局 郵便電信局  
電信局 電信受取所  
公衆ノ通信ヲ取扱所ヲ除ク

回線接續局名 和歌山 湯淺 御坊 田邊 ○公達第貳百六拾九號 八月五日	線名 和歌山田邊線
郵便電信局 為替ヲ取扱ハサル局ヲ除ク	
為替貯金計算整理手續 但本手續ニ概觸スル從前ノ令達等ハ廢止ス	
第一條 為替貯金ノ計算ニ屬スル一切ノ出納ハ左ノ科目ニ類別シ記帳スルモノトス	
受ノ部	拂ノ部
<ul style="list-style-type: none"> <li>一 為替振出高</li> <li>一 為替料收入高</li> <li>一 貯金預リ高</li> <li>一 資金領收高</li> <li>一 補正受高</li> <li>一 資金立替高</li> <li>一 臨時受高</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一 為替拂渡高</li> <li>一 貯金拂渡高</li> <li>一 過超金納付高</li> <li>一 補正拂高</li> <li>一 立替金還付高</li> <li>一 臨時拂高</li> </ul>

第二條 為替貯金出納帳號テハ左ノ例ニ倣ヒ當日ノ出納高ヲ記載シ常ニ現在高ヲ明ニスヘシ

受ノ部

一 受ノ方ニハ前日ノ繰越高アルトキハ摘要ニ越高ト認メ其金高ヲ記シ次ニ為替振出高爲替料貯金預リ高ト順次ニ其名稱ヲ記シ爲替振出帳及貯金預リ簿ニ照シ各其合計金高ヲ記入スヘシ

但摘要中爲替振出高ノ欄ニハ振出口數又貯金預リ高ノ欄ニハ預リ度數(新規預  
 リアルトキハ尙其人員ヲ附記スヘシ  
 二資金ノ交付ヲ受ケタルトキ又ハ還算更正等ノ爲メ既往ノ計算ニ對シ補正受入ヲ  
 要シタルトキ若クハ資金欠乏ノ爲メ自金ヲ立替タルトキハ其場合ニ從ヒ摘要ニ  
 相當ノ名稱ヲ記シ其金高ヲ記入スヘシ  
 三再度爲替證書請求ノトキ收入シタル爲替料及効用期限經過ノ公告ヲナシタル後  
 再度爲替證書請求ノトキ收入シタル手數料其他臨時受入タル金高アルトキハ都  
 テ之ヲ臨時受高トシテ其金高ヲ記入スヘシ  
 拂ノ部  
 一拂ノ方ニハ摘要ニ爲替拂渡高貯金拂渡高ト順次其名稱ヲ認メ爲替拂渡帳及貯金  
 拂渡簿ニ照シ各合計金高ヲ記入スヘシ  
 但摘要中爲替拂渡高ノ欄ニ拂渡口數又貯金拂渡高ノ欄ニハ拂渡度數ヲ附記ス  
 ヘシ  
 二定期又ハ臨時ノ別ナク過超金ヲ納付シタルトキ又ハ還算更正等ノ爲メ既往ノ計  
 算ニ對シ補正拂ヲ要シ若クハ資金立替高ヲ還付シタルトキハ其場合ニ從ヒ摘要  
 二相當ノ名稱ヲ記シ其金高ヲ記入スヘシ  
 三爲替受取人ハ爲替金追拂等ノ令達ヲ受ケ臨時ニ拂出金アルトキハ都テ之ヲ臨時  
 拂高トシテ其金高ヲ記入スヘシ  
 四當日出納ノ終ニ現在金アルトキハ之ヲ精査シ摘要ニ殘高ト認メ其金高ヲ記入ス  
 ヘシ  
 前各項ニ依リ記帳ナリタルトキハ一應其記帳高ヲ爲替振出帳爲替拂渡帳貯金預  
 リ簿及貯金拂渡簿ト對照シ爲替貯金ノ受拂高相等相違ナキトキハ受拂双方ニ合計ヲ  
 記入スヘシ而シテ其計算ノ符合スルヲ以テ錯誤ナキコトヲ認知スヘシ  
 一補正受拂高及臨時受拂高ハ特ニ爲替事務日誌ヘ補正又ハ臨時受拂ノ事由ヲ詳細

ニ登記シ他日参照ノ便ニ供スヘシ  
 第三條 爲替貯金出納帳ニ登記ヲ終リタルトキハ爲替貯金出納報告書(號)ニ其受拂  
 金高ヲ轉記シ左ノ證據書類ヲ添屬シ即日爲替貯金局又ハ受持ノ同出張所ヘ差出ス  
 ヘシ

一爲替貯金納出報告書ノ資金受高ニハ資金領收高補正受高資金立替高臨時受高ヲ  
 統括シ又其資金拂高ニハ過超金納付高補正拂高立替金還付高臨時拂高ヲ統括シ  
 各其合金高ヲ記載スルモノトス而シテ受拂ノ事由ハ特ニ一ト限リ資金受拂届書  
 式紙(ア)ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

但報告書中付記ノ欄ニハ書損等ニ係ル爲替證書及貯金通帳ノ記番號ヲ記シ此  
 他附記ノ必要アリタルトキ其事項ノ要旨ヲ記入スヘシ

受ノ部

- 一爲替願書 イ號甲 乙式紙
- 一貯金預ケ願書 號第壹
- 一預ケ金認可願書 號第參
- 一爲替證書 口號甲式紙電信爲 替トナリタルトキ
- 一資金受高證明書 號ア
- 一爲替原符 口號丁 式紙
- 一貯金預リ届書 號第貳及第 拾七號式紙
- 一振替爲替依頼書 式紙
- 一書損ニ係ル爲替證書 口號甲乙 丁式紙
- 一書損ニ係ル貯金通帳 號第拾 壹號

拂ノ部

- 一拂濟各爲替證書(報知書) 口號甲乙丙丁 及レ號式紙
  - 一貯金拂戻願書 號第伍
  - 一出納報告書ノ記入ナリタルトキハ爲替振出帳爲替拂渡帳貯金預リ簿貯金拂渡  
 簿及各證據書ニ照シ金高口數等ヲ精査シ違ヒ點檢ナカラシムヘシ
  - 一貯金拂濟證書(報知書) 號第七
  - 一資金拂高證明書 號ア
- 第四條 毎月末爲替貯金出納帳ニ基キ爲替貯金精算表(ア)號ヲ製シ翌月二日限リ爲替

貯金局又ハ其出張所へ差出スヘシ  
 但爲替料ハ資金受高ニ併算シ記入スヘシ  
 一精算表中爲替證書及貯金通帳未使用高ノ欄ニハ月末日現在ノ數ヲ調査シ(何號何番ヨリ何號何番マテ)何枚又ハ何冊ト記入スヘシ  
 第五條 資金立替及還付高ハ左ノ例ニ依リ立替金日計表ニ記載計算シ立替金ノ出納ヲ詳ニスヘシ  
 但日計表ハ便宜敷葉ヲ綴合シ帳簿ニ換用スヘシ  
 一立替高ノ部ハ都テ新タニ資金ヲ立替タル毎ニ其金高ヲ記入スヘシ  
 但前月ヨリ立替越高ハ翌月一日ノ立替高ト合算記入スルヲ例トス  
 一還付高ノ部ハ立替高ヲ還付シタルトキ其幾分ト金額トノ別ナク都テ其還付高ヲ記入スヘシ  
 一差引立替高ノ部ハ即立替高ト還付高トヲ差引キ其差額ヲ記入スヘシ  
 但資金立替ノ初日ハ尙差引立替高ノ部ヘ同高ヲ記入スルモノトス  
 第六條 一等郵便電信局郵便局ニハ左ノ帳簿計表ヲ置キ第二條及第三條ニ掲グル爲替貯金出納帳及資金受拂届書(ア號)ニ換用スヘシ  
 一現金受拂簿  
 一爲替貯金出納日報  
 一爲替貯金出納月報  
 第七條 一等郵便電信局郵便局ハ當日ノ事務ヲ了レハ現金受拂簿ニ依リ出納日報ヲ作り又毎月末日ニ至レハ出納月報ヲ作り即日爲替貯金局長へ差出スヘシ  
 第八條 一等郵便電信局郵便局ハ出納日報及月報ヲ以テ資金受拂高ヲ報告スルニ依リ爲替貯金出納報告書及爲替貯金精算表中資金受拂高ハ特ニ記載スルニ及ハサルモノトス  
 第九條 本則中爲替貯金出納帳ハ常分ノ内從來ノ爲替金出納帳又ハ爲替貯金出納日

二十二年公達第四百四十九號ヲ以テ廢止

報ハ爲替資金受拂日報爲替貯金出納月報ハ爲替資金受拂月報ヲ用ユヘシ  
 ○公達第百七拾號八月五日 元遞信管理局

○公達第百七拾號八月五日 郵便電信局 郵便局  
 郵便大中線路遞送時間調査表ハ自今内信局ヨリ該線路ノ下リ便差立元局ニ回送スヘキニ依リ順次沿道各局ニ回送スヘシ又其局長ニ於テハ取扱主任又遞送受領人ヲ督促スヘシ  
 但調査表閱覽ノ際局名記載ノ欄外へ著後月日ヲ記入シ局長認印ノ上末尾局ヨリ本省内信局へ返戻スヘシ

○公達第百七拾號八月五日

郵便電信局 電信局  
 電信建築官 電信取扱所  
公衆ノ通信ヲ取扱ハサル取扱所ヲ除ク

興津鐵道停車場電信取扱所ニ於テ公衆ノ電報開始並靜岡電信局ヨリ同所鐵道停車場ノ間ニ一線架設ニ付回線名稱左ノ通相定ム

國府津停車場電 信取扱所	山北同	御殿場同	沼津同	鈴川同	國府津靜岡鐵道線
岩淵同	江尻同	靜岡同			
靜岡停車場電 信取扱所	島田同	掛川同	袋井同	濱松同	靜岡濱松鐵道線
靜岡同					靜岡停車場線

○公達第百七拾三號八月五日 郵便電信局 郵便局  
 汽車便到着終地ノ停車場内郵便函ハ汽車便差立ノ際ノミナラス其到着ノ際ニアリテモ護送人護送人ノ乗込マサル線路ニアリテハ遞送人ニ於テ開函スヘシ

但到著ノ際開函シテ取出スヘキ郵便物中其線路ノ汽車便ヲ以テ遞送スヘキモノハ其函中ニ殘シ置クヘシ

○公達第貳百七拾四號 八月五日

元遞信管理局 郵便及電信局三等局ヲ除ク

明治二十二年度各種ノ額外費ハ公達第貳百五拾壹號元遞信管理局會計事務引繼及殘務整理順序第三條第一項ニ依リ處理スヘキ義ナルモ右ノ内郵便及電信局ニ屬スル營業費ニシテ八月三十一日迄ニ決算結了セサルモノニ限リ其用途ヲ指定セル一二等郵便電信局ニ引繼其當該局ニ於テ繼續整理スヘシ

○公達第貳百七拾五號 八月五日

元遞信管理局 郵便電信局

郵便局

石工樵夫炭燒夫等深山幽谷ニ流寓執業スルモノニ宛タル郵便物ハ各其自宅又ハ屋主ノ家宅若クハ其事務所ニ配達スヘシ

○公達第貳百七拾六號 八月五日

元遞信管理局 郵便電信局

電信局

電信取扱所 公衆ノ通ハサル取扱所ヲ除ク

湯灣御坊田邊郵便電信局發着ノ電報中繼局ヲ和歌山郵便電信局ト相定ム

○公達第貳百七拾七號 八月九日

元遞信管理局 郵便電信局

電信局

電信取扱所 公衆ノ通ハサル取扱所ヲ除ク

電報中繼局ヲ左表ノ通り相定ム

電報中繼局

自 大磯、藤澤、鎌倉、

其他ハ總テ静岡取扱所ヲ經テ同所電信局ノ中繼トス

自 國府津

至 静岡以西各局

國府津取扱所

静岡取扱所ヲ經テ

○公達第貳百七拾八號 八月九日

郵便電信局 郵便局

電信局 電信取扱所

郵便受取所 郵便貯金預所

本省ノ管理ニ屬スル内外事務ノ整否并其執行ノ當否職員ノ勤惰等ヲ監察セシメンカ爲メ特ニ官房機密部ニ監察掛若干人ヲ置キ時々各地ニ派遣ス仍テ監察掛ノ見合印鑑ヲ携帶スル者其局所ニ臨監候節ハ其求ニ應シ金錢物品帳簿ヲ開示スヘキハ勿論其推問ニ對シテ明細答陳スヘシ

但見合印鑑ハ追テ交付スヘシ

○公達第貳百七拾九號 八月九日

元遞信管理局 郵便電信局

電信局 電信取扱所

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第九條附表與津取扱所ノ下ニ静岡(取扱所)ヲ追加ス

○公達第貳百八拾號 八月九日

元遞信管理局 郵便電信局

電信局 電信取扱所 公衆ノ通ハサル取扱所ヲ除ク

函館壽都間ハ電線一條ヲ増架函館札幌間回線ノ接續ヲ變更シ及大津東川崎線中大津局ノ機械ヲ馬場ハ移轉セシニ付電信線名稱及電報中繼局ヲ左ノ通改正ス

二十四年公達第百四號ヲ以テ追加

舊 名	稱	改 正 名	稱
函館 森 札幌	函館 札幌 一番線	函館 札幌	函館 札幌 一番線
同	同	函館 森 函館 函館 函館 函館 函館 函館	函館 函館 函館 函館 函館 函館 函館
大津 七條 西宮 茨木	大津 東川崎 一番線	函館 森 函館 函館 函館 函館 函館	函館 函館 函館 函館 函館 函館 函館
大津 東川崎 西宮 茨木	大津 東川崎 二番線	函館 森 函館 函館 函館 函館 函館	函館 函館 函館 函館 函館 函館 函館
大津 東川崎 西宮 茨木	大津 東川崎 二番線	函館 森 函館 函館 函館 函館 函館	函館 函館 函館 函館 函館 函館 函館
大津 東川崎 西宮 茨木	大津 東川崎 二番線	函館 森 函館 函館 函館 函館 函館	函館 函館 函館 函館 函館 函館 函館
大津 東川崎 西宮 茨木	大津 東川崎 二番線	函館 森 函館 函館 函館 函館 函館	函館 函館 函館 函館 函館 函館 函館
大津 東川崎 西宮 茨木	大津 東川崎 二番線	函館 森 函館 函館 函館 函館 函館	函館 函館 函館 函館 函館 函館 函館

電 報 通 路	中 繼 局
自大津	大 阪
至神崎	大 阪
自 森	大 阪
至 岩	大 阪
至 津	大 阪

○公達第貳百八拾壹號 八月九日  
 郵便電信局 郵便取扱所  
 電信局 電信取扱所  
 郵便受取所 郵便貯金預所

○公達第貳百八拾貳號 八月十五日  
 元遞信管理局 郵便電信局

二等郵便及電信局以下を廢止したるときは其局所に下付しある遞信公報は其區一等郵便及電信局へ返付し該局にて之を保管すへし  
 又新に局所を設置したるときは其區一等郵便及電信局より右保管の分を交付すへし  
 若し號數に不足ある時は直に其旨を本省記録課へ報告すへし

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五號 建局内心得書附則第二條第五項 猿橋ノ次及  
 七同第九條附表甲府ノ左傍ニ谷村ヲ追加ス  
 ○公達第貳百八拾三號 八月十五日  
 郵便電信局 電信局  
 電信建築官 電信建築官

公達第貳百四拾三號 電信建築官章程第六條 監視事項左ノ通相定ム  
 電信建築官 監視事項

- 一 電信線路試驗方ノ正否
- 二 電氣器具及引込護線線等保管ノ整否
- 三 網電機電鍮印字リバーア等ノ調度及檢電器指針ノ良否
- 四 回線中各局ノ電流ニ強弱ナキヤ否
- 五 通信善其ナルヤ否
- 六 裝置電池ノ保守及其接続方不完全ナラサルヤ否
- 七 機械室及電池室構造ノ適否
- 八 使用機械通信ノ繁閑ニ適スルヤ否及回線中ノ機械數過多ナラサルヤ否
- 九 中繼局ノ増設變更及増架線ノ要否
- 十 電信線路ノ不通全通工夫派出及通信回復時分等日誌記載方

○公達第貳百八拾四號 八月十五日  
 元遞信管理局 郵便電信局  
 郵便局

今般監獄則改正ニ付在監人宛郵便物ハ通常ノ取扱ヲ以テ屑書ノ監獄署ニ送達スル儀  
 ト心得ヘシ但未納稅不足郵便物ニシテ初便ニ配達シ了ラサルモハ發信人受信人及未  
 納不足ノ稅額ヲ通知シ置キ次便ヲ以テ配達スルヲ得  
 ○公達第貳百八拾五號 八月十五日  
 元遞信管理局 郵便電信局



谷村郵便電信局發著ノ電報中繼局及猿橋谷村間回線名稱左ノ通り相定ム  
電報中繼局

電報通路	中繼局
自谷至全國各局各取扱所村	猿橋

回線名稱

回線接續局名	線名
猿橋谷村	猿橋谷村電話線

○公達第貳百八拾六號 八月十五日

元遞信管理局 郵便電信局  
電信局 電信取扱所

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號局内心得書附則第二條第五項及同第九條附表余市ノ次ニ古平ヲ追加ス

○公達第貳百八拾七號 八月十五日

元遞信管理局 郵便電信局  
電信局 電信取扱所  
公共ノ信ヲ取除

岩淵及島田電信取扱所發著ノ電報中繼局ヲ左表ノ通り相定ム

電報通路	中繼局
------	-----

自岩淵 其他ハ總テ靜岡取扱所ノ中繼トス	國府津取扱所
自島田 但島田ハ靜岡取扱所ノ中繼トス	靜岡取扱所
自大島 其他ハ總テ靜岡取扱所ノ中繼トス	
至大府 其他ハ總テ靜岡取扱所ノ中繼トス	

○公達第貳百八拾八號 八月十五日

元遞信管理局 郵便電信局  
電信局 電信取扱所

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第五項及同第九條附表中西ノ宮及神崎ハ本月十六日ヨリ西ノ宮及神崎電信取扱所ト心得取扱フヘシ

○公達第貳百八拾九號 八月十五日

元遞信管理局 郵便電信局  
電信局 電信取扱所  
公共ノ信ヲ取除

古平郵便電信局發著ノ電報中繼局及余市古平間回線名稱左ノ通り相定ム  
電報中繼局

電報通路	中繼局
自古至全國各局各取扱所平	余市

回線名稱

回線接續局名	線名
余市古平	余市古平電話線

○公達第貳百九拾號 八月十五日

元遞信管理局 郵便電信局  
電信局 電信取扱所

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第五項國府津取扱所ノ次ニ岩淵(取扱所)與津(取扱所)ノ次ニ島田(取扱所)及同第九條附表國府津(取扱所)ノ次ニ岩淵(取扱所)ノ次ニ島田(取扱所)ヲ追加ス  
○公達第貳百九拾壹號 八月十五日  
元遞信管理局 郵便電信局  
郵便局

自今汽車郵便護送人ヲ鐵道郵便係員ト改稱ス  
○公達第貳百九拾貳號 八月十九日  
郵便電信局 郵便局

明治十九年(六月)公達第三拾六號郵便切手類賣下局ノ内へ左ノ一局ヲ追加ス  
長門國赤間關郵便電信局  
○公達第貳百九拾三號 八月十九日  
郵便電信局 郵便局  
郵便受取所

自今郵便五厘切手ノ賣捌停止ヲ解キ候條他ノ切手同様賣捌ヲ爲スヘシ  
○公達第貳百九拾四號 八月十九日  
郵便電信局 三等局 郵便局 三等局  
電信局 三等局  
電信局 三等局

國庫金出納所へ廻付スヘキ會計主務并ニ會計主任印鑑差出手續左ノ通り改正ス  
但金庫局及同局大阪出張所ニ係ル分モ此手續ニ據ルヘシ

第一條 會計主務并ニ會計主任ノ印鑑ハ其關係アル國庫金出納所毎ニ區別シ該印鑑ニ葉宛會計主任ノ分ハ一等郵便電信局ニ於テ取纏メ會計局へ差出スヘシ  
會計局ハ前項ノ印鑑ヲ其歳出ニ關係アル出納所毎ニ區分シ大藏省ヲ經由シ當該出納所へ送付ノ手續ヲナスヘシ  
爾後會計主務并ニ會計主任印鑑又ハ改印等ノタメ其印章ヲ更改セシトキモ亦同シ

第二條 會計主務並ニ會計主任ノ印章更改ノトキ等ニ際シ若シ新印鑑未タ該出納所へ到達セサル場合ニ於テ支拂ヲ要スルトキハ左ノ手續ニ據ルヘシ  
郵便電信局長又ハ郵便局長ハ其局會計主務及其區電信局會計主任ノ更改事由ヲ會計局へ電報スヘシ  
會計局ハ其電報ノ事由ヲ大藏省へ通牒シ回報ヲ得電報ヲ以テ郵便電信局長又ハ郵便局長へ通報スヘシ  
郵便電信局長又ハ郵便局長ハ會計局ノ返電ヲ得タルトハ新印鑑壹葉ヲ該出納所へ送付シ(電信局ニ關スル分ハ該局へ通達シ直チニ出納所へ差出スヘシ)之ヲ證明スヘシ

第一條ニ依リ新印鑑未タ差出サ、ル場合ニ於テ本條ノ手續ヲナシタルトキハ更ニ第一條ノ手續ヲナスヘシ

二十三年公達第百九十四號ヲ以テ改正

○公達第貳百九拾五號 八月十九日  
郵便電信局 爲替ヲ取  
局ヲ除ク  
郵便局 爲替ヲ取  
局ヲ除ク  
爲替資金及爲替過超金受授規程左ノ通相定メ本年九月一日ヨリ施行ス  
但本規程ニ抵觸スル從前ノ達及指令ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス  
爲替資金及爲替過超金受授規程

第一條 二等三等郵便電信局同郵便局(以下單ニ二等局又ハ三等局ト畧稱ス)需要ノ爲替資金ハ當該局長ノ請求ニ由リ或ハ爲替貯金局長又ハ其出張所長ノ通牒ニ由リ其區一等郵便電信局同郵便局(以下單ニ一等局ト畧稱ス)ニ於テ自局爲替資金ノ内ヨリ廻金スルモノトス  
二等三等局ノ爲替過超金ハ定期(毎月十五日及月末日區切)及臨時(別ニ定ムル納付定度ニ達シタルトキ區切)ニ於テ其各局ヨリ其區一等局ニ納付スルモノトス  
各郵便電信支局郵便支局(以下單ニ支局ト畧稱ス)ノ資金及過超金ハ各本局長ノ見込

ニ由リ各本局ニ於テ其廻送及徵收ヲ爲スモノトス  
第二條 第一條ノ資金及過超金ノ受授ハ銀行爲替ノ便ニ依ルヘキ定メアルモノハ其爲替ニ依リ其他ハ内國通運會社便ニ依ルモノトス

第三條 一等局需要ノ爲替資金ハ當該局長ノ請求ニ由リ又ハ爲替貯金局長ノ見込ニ由リ國庫送納金振替又ハ銀行爲替又ハ通運會社便ニ依リ爲替貯金局ヨリ廻金スルモノトス

第四條 一等局ノ過超金ハ國庫金振替ノ手續ヲ以テ爲替貯金局ニ廻送スルモノトス  
テ送付證ヲ作り之ヲ送金ニ添附シ其金錢ヲ受領シタル局ニ於テ送付證乙ノ部ニ式ノ如ク受領證印ヲ捺シ之ヲ差立局ニ返送スルモノトス

第五條 一等局ニ於テ各局ヨリ爲替資金ノ請求ヲ受ケタルトキハ其請求書ニ據リ請求金額ノ當否ヲ調査シ相當ト認ムルトキハ自局爲替資金ノ内ヨリ現金ヲ支出シ請求局ノ別ニ從ヒ爲替又ハ現送ノ手續ニ依リ資金送付證(工號式紙)ヲ添ヘ之ヲ資金請求局ニ發送スヘシ

第六條 爲替貯金局又ハ其出張所ニ於テ貯金拂戻等ノ爲メ多額ノ爲替資金ヲ要スル局アルヲ認メ其局名金額ヲ通牒シタルトキハ第五條ノ手續ニ依リ其指定ノ局ニ該資金ヲ廻送スヘシ

爲替貯金局又ハ其出張所ニ於テ前項ノ廻金ヲ要急ト認ムルトキハ左ノ略語例ニ依リ電報ヲ以テ通牒スルコトアルヘシ

略語例  
某局へ資金五千圓廻送ヲ要スルトキ左ノ如シ  
何々ヘシ(資金)五〇〇〇(五千圓)  
局名ハ便宜其局爲替證書ノ記號ヲ以テ換用スルコトアルヘシ

第七條 一等局ニ於テ通運會社ヨリ各局納付ニ係ル過超金ヲ納メ出タルトキ又ハ各局ヨリ過超金納付ニ係ル爲替證書到達シタルトキハ其送付證ニ照シテ受入レ送付證ノ乙部ニ受領證印ヲ爲シ其割符ヲ撤斷シ之ヲ過超金納付局ニ宛發送スヘシ但通運會社便ニ係ル納付金ハ該社員ヲシテ先之ヲ金庫派出員ノ預リ證書ニ交換セシメ後之ヲ領收スヘシ

第八條 一等局ニ於テ毎五十ノ日ニ方リ自局費金別ニ定ムル豫備額ニ超過シタルトキハ即日先其支拂ノ手續ヲ爲シ次ニ納付證ヲ作り(納付書項ノ部ハ郵便爲替過超金ト記スヘシ)前ニ支出ノ手續ヲ爲シタル支拂切符ヲ添ヘ之ヲ國庫金出納所ニ納入シ其受領證ヲ受ケ速ニ其旨ヲ爲替貯金局ニ宛左ノ略語例ニ依リ電報(照校電報)スヘシ但爲替貯金局長ヨリ特ニ通牒ヲ受ケタル局及電信局之ナキ地ノ局ニ於テハ電報ニ依ラス書面ヲ以テ報告スヘシ

略語例  
爲替過超金五千五百圓ヲ國庫ニ振替濟ノトキ左ノ如シ  
カ(爲替過)五五〇〇(五千五百圓)ヲ(振替)濟  
豫備額ニ超過シタル金額千圓ニ滿タサルトキハ次回ノ期日迄廻納ニ及ハス又百圓ニ滿タサル額ハ振替ト爲スヘカラス

爲替資金請求方

第九條 一等局ニ於テ自局ノ現在金乏少セルカ又ハ乏少スヘキ見込アルトキハ必要ト認ムル金額ヲ爲替貯金局長ニ請求スヘシ  
前項資金ノ廻送方ヲ電報ニ依リテ請求スルトキハ左ノ略語ヲ用フヘシ

略語例

爲替資金貳千五百圓ノ廻送ヲ要スルトキ

カ(爲替)二五〇〇エ(貳千五)ノ(廻送)ヲ(要)ス

臨時急要ノ場合ニ於テ電信爲替ニ依リ送金ヲ要スルトキハ前項略語例中「カ」ヲ「テカ」(電信爲替)ニテ爲替資金ノ略語ニ變更スヘシ

第十條 前條ノ請求ニ由リ爲替貯金局ヨリ廻金到達シタルトキハ該局ノ通知ニ照シテ現金ヲ受入レ其受領證書ヲ爲替貯金局長ニ宛發送スヘシ

爲替貯金局ヨリ電信爲替ヲ以テ廻金シタルトキ其通知ニ用フル電報略語例左ノ如シ

略語例

爲替資金貳千五百圓ヲ某銀行拂渡電信爲替ニテ廻送シタルトキ

カ(爲替)二五〇〇エ(貳千五)ノ(第一)銀行(又ハ)三井(銀行)

國庫金送納金振替ニテ廻送シタルトキ

カ二五〇〇エ(國庫送納)ノ(金振替)

過超金臨時徵收方

第十一條 一等局ニ於テ銀行爲替ノ便ナキ各局ヨリ臨時過超金納付方ノ指揮ヲ請フトキハ其金額ノ多寡ト定期納付期日迄ノ日限トヲ參酌シ臨時收納ヲ必要ト認ムルトキハ通運會社ニ命シ其取集ヲ爲サシメ又臨時收納ヲ要セスト認メタルトキハ其旨ヲ當該局ニ通達スヘシ  
第十二條 一等局長ハ自局資金乏少シタルトキハ便宜銀行爲替ノ便アル各局ニ對シ

臨時納付ヲ指揮スルヲ得若シ銀行爲替ノ便ナキ局ニ對シ臨時收納ヲ要スルトキハ先過超金ノ有無ヲ體メ然ル後通運會社ヘ其取集ヲ命スヘシ

過超金納付停延認可方

第十三條 一等局ニ於テ各局ヨリ過超金納付ヲ停延シタル旨ノ報告書ヲ受ケタルトキハ之ニ據リ其當否ヲ勘査シ報告書ハ局長檢印ノ上之ヲ爲替貯金局又ハ其出張所ニ移送スヘシ

若シ停延ヲ不當ト認ムルトキハ過超金徵收ノ手續ヲ爲シ其旨ヲ當該局ニ通達シ且爲替貯金局又ハ其出張所爲替貯金局ト出張所トノ區別ハ其受持區域ノ別ニ依ル以下同シニ報告スヘシ

二等三等局ノ心得

過超金納付方

第十四條 二等三等局ハ毎月十五日及月末日ヲ區切り別ニ定ムル爲替資金額ニ超過スル金額アルトキハ過超金定期納トシテ之ヲ其區一等局ニ納付スヘシ

通運會社便ニ依ルヘキ各局ハ該社取集入出頭取集期日ハ毎月一日ヨリ五日マテ十六日ヨリ二十日マテノ内シタルトキハ先其見合印鑑及同社ノ證印アル過超金受取證書式紙ヲ檢閱シ正當取集人ト認ムルハ右ノ式紙ニ受領證印セシメ之ト引換ニ送付證(エ號式紙)ヲ添ヘ過超金ヲ交付スヘシ但日出前日没後ハ過超金ノ渡方ヲ拒ムヲ得

若シ過超金之ナキカ又ハ其納付ヲ停延スル場合ニ於テ取集人ニ過超金ヲ交付セラレコトアルトキハ其證明書(エ號式紙)ヲ該取集人ニ交付スヘシ  
銀行爲替ノ便ニ依ルヘキ各局ハ定期區切ノ翌日別ニ指定シタル銀行ニ就キ過超金ヲ爲換ニ取組ミ其證書ニ送付證(エ號式紙)ヲ添ヘ番留郵便ヲ以テ納メ先ヘ發送スヘシ但三等局ニ於テハ爲換證書ヲ受クルト同時ニ其銀行ヨリ爲換取組證明書(子號式紙)ヲ受取り保存スヘシ

第十五條 通運會社取集人ノ所持スル見合印鑑相違其他ノ事故アルトキハ過超金ヲ交付セズ速ニ其旨ヲ納メ先へ届出ヘシ取集人ノ期日ヲ過キ出頭セサルトキモ同様届出ヘシ

過超金臨時納付方

第十六條 二等三等局ニ於テ爲換資金現在高別ニ定ムル臨時納付定度ニ達シタルトキハ其區一等局ニ現在金高ヲ記シタル書面ヲ以テ其納付方ノ指揮ヲ請フヘシ銀行爲換ノ便ニ依ルヘキ各局ニ於テ爲換資金現在高臨時納付ノ定度ニ達シタルトキハ第十四條第四項ノ手續ニ依リ其過超金ヲ納付スヘシ

資金請求及受入方

第十七條 二等三等局ニ於テ爲換資金現在高乏少セルカ又ハ乏少スヘキ見込アルトキハ資金請求書(第一號書式)ヲ作り其區一等局ニ必要ノ金額廻送方ヲ請求スヘシ  
第十八條 前條ノ請求ニ由リ一等局ヨリ廻送ノ資金到達シタルトキハ送付證ニ照シテ受入レ其送付證ノ乙部ニ受領證印ヲ爲シ其割符ヲ截斷シ之ヲ該一等局ニ宛發送スヘシ但二等局ニ於テ通運會社便ニ依リ資金ノ送達ヲ受ケタルトキハ該社員ヲシテ先金庫派出員ノ預リ證書ニ交換セシメ後之ヲ領收スヘシ

過超金納付停延方

第十九條 二等三等局ニ於テ過超金定期納付區切ニ方リ爲替貯金未拂金高多額ナルトキハ納付スヘキ過超金ノ全額又ハ幾分ノ納付ヲ停延シ之ヲ爲替貯金拂渡ニ充用スルヲ得

前項ノ場合ニ於テ過超金ノ納付ヲ停延スルトキハ報告書(第二號書式)ヲ作り其區一等局ヲ經テ爲替貯金局又ハ其出張所ニ差出スヘシ

支局ノ心得

第二十條 各支局ハ爲替資金現在高及爲替資金未拂金高ヲ記シタル報告書ヲ日々其本局ニ差出スヘシ

第二十一條 各支局ノ資金及過超金受授ニ關スル手續ニシテ本規程申別ニ明文ナキモノハ二等三等局ノ例ニ準據スヘシ

紙幅 縦五寸五分  
橫九寸五分  
輪廓 適宜紋彩

工號	番號	第	號
甲			
一金			
但此欠字ノ部ハ銀行ノ送金手形ヲ以テ スルトキハ何銀行ノ送金手形ヲ以テ 千銀貨若干銅貨若干ト並記スヘシ 若			
右此ノ欠字ノ部ハ資金送付ノ場合ニハ郵便爲替資金ト書 ト書載スヘシ又過超金ナレハ何月上又ハ下半年期爲替過超金 及送付候也			
明治 年 月 日			

乙

受領書

一金

但此欠字ノ部ハ資金ノ送付ヲ受ケタル  
此合ハノ便爲替金上ト書テ下  
場過金ト書ハ何月シ又ハ書テ  
替又過金ト書ハ何月シ又ハ書テ  
替又過金ト書ハ何月シ又ハ書テ

右受領候也

明治 年 月 日

工 號

番 號 第

號

(書式第一號)

郵便爲替資金請求書

一金何圓也

本日爲替資金及爲替貯金未拂高左ノ通有之拂渡上差支候ニ付  
前記金額送相成度候也

年 月 日

所管一等局長宛

局 長 名

金何圓

金何圓

金何圓

資金現在高

爲替未拂高

貯金未拂高

(書式第二號)

一金何圓

但何月下半期過超金金額又ハ(何圓何錢ノ内)

本日爲替貯金未拂高左ノ通之アリ候ニ付前記ノ通過超金据置  
拂渡資金ニ充用致シ候條此段及報告候也

年 月 日

爲替貯金局長又ハ出張所長宛

局 長 名

此欄ニハ

爲替又ハ

貯金ノ種

別ヲ記ス

何 種

何 種

何 月 日

何 振 出 局

何 記 番 號

何 金

何 何 何 額

此欄ニハ  
爲替ハ振  
出月日  
金拂戻  
書ノ月  
日ナシ  
ナシ

貯金ニ付  
テハ此欄  
ハ空白ト  
ナスヘシ

二十三年公達第二  
百九十四號ヲ以テ  
全文改正

○公達第貳百九拾六錢 八月十九日

郵便電信局<sup>爲替ヲ取</sup> 爲替ヲ取  
除ク 郵便局<sup>爲替ヲ取</sup> 爲替ヲ取  
除ク 郵便貯金預所

無爲替局所貯金納付金及拂戻資金受授規程左ノ通相定メ本年九月一日ヨリ施行ス  
但明治二十一年三月公達第三拾貳號無爲替局所貯金納付并拂戻資金受授手續及同  
第三拾三號貯金ニ係ル納付金下付金廻送手續及同年四月同第七拾四號貯金納付并  
拂戻資金受取方手續ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス  
無爲替局所貯金納付金及拂戻資金受授規程

一般ノ心得

第一條 無爲替局所ノ貯金納付金ハ下ニ定ムル納付種類ニ從ヒ通運會社便ニ依リ其  
區一等郵便電信局同郵便局(以下單ニ一等局ト畧稱ス)ニ納付シ又其臨時納付金ハ振  
替爲替ヲ以テ爲替貯金局又ハ其出張所(爲替貯金局ト出張所トノ區別ハ其受持區域  
ノ別ニ依ル以下同シ)ニ納付スルモノトス  
爲替ヲ取扱フ局ノ市内又ハ一里以内ノ地ニ設ケアル局所ノ納付金ハ定期臨時ノ別  
ナク派テ振替爲替ヲ以テ直ニ爲替貯金局又ハ其出張所ニ納付スルモノトス  
一等局ハ各局所ノ納付金ヲ取廻メ振替爲替ヲ以テ爲替貯金局又ハ其出張所ニ廻送  
スルモノトス  
第二條 無爲替局所ノ貯金拂戻資金ハ貯全拂戻ヲ要スル都度其局所ニ對スル爲替取  
組局宛ノ振替爲替ヲ以テ爲替貯金局又ハ其出張所ヨリ之ヲ廻送スルモノトス  
無爲替局所ハ拂戻常備金又ハ預リ金ヲ以テ貯金拂渡チナシ得サルトキハ爲替取組  
局ニ就キ振替爲替ヲ現金ニ交換シテ拂渡チナシ若シ常備金又ハ預リ金ニテ拂渡チ  
ナシ得ルトキハ爲替交換チナサス該證書ハ貯金納付ノ期日マテ之ヲ保管スルモノ  
トス  
但常備金ヲ以テ拂渡チナシタル後預リ金ニテ其缺額ヲ補填シ難キトキハ振替爲

替ヲ現金ニ交換シ該缺額ヲ補填スルモノトス  
第三條 貯金納付種類左ノ如シ  
一 定期納 毎月二回(毎月十五日及月末日區切)  
但通運會社取集人出頭日(一日ヨリ七日迄ノ間及十六日ヨリ二十二日迄ノ間)  
二 無定期納 毎月一回(月末日區切)  
但通運會社取集人出頭日不定  
三 臨時納 貯金殘高未渡拂戻報告書ノ金額及常備金ヲ引去リタル殘高(百五拾圓  
ニ滿チタルトキ)

但特ニ定メタル局ノ振替爲替ニ依ル  
通運會社便ニ依ルモノニシテ定期若クハ無定期ニ依ルヘキ局所ノ別ハ爲替貯金局  
ニ於テ之ヲ定メ其區一等局ヲ經テ通達シ爲替取組局ハ同一等局ニ於テ之ヲ指定通  
達スルモノトス

一 等局ノ心得  
第四條 一等局ハ通運會社ヨリ各局所ノ納付金ヲ納出タルトキハ之ニ添テ差出シタ  
ル各局所ノ納付證書ニ照ラシテ之ヲ領收スヘシ  
前項ノ現金ハ即日又ハ時ノ都合ニ由リ其翌日之ヲ振替爲替ニ取組ミ其爲替證書ハ  
各局所ヨリ現金ト見做シテ納付シタル爲替證書及各局所ノ納付證書ヲ添ヘ之ヲ爲  
替貯金局又ハ其出張所ニ廻送スヘシ  
本條現金ノ受拂并現金ト見做シテ納付シタル爲替證書ノ受拂ハ貯金受拂簿(貯第四  
一號)ニ登記シ且毎月末日ヲ區切り貯金出納月表(貯第四三號式紙)ヲ調製シ爲替貯金  
局又ハ其出張所ニ廻送スヘシ  
貯金受拂簿ハ各局所毎ノ區別ヲ以テ登記シ出納月表ハ一日毎ノ區別ヲ以テ登記ス  
ルモノトス又現金ト爲替證書トノ區別ハ受拂簿及出納月表トモ現金ハ墨書シ爲替  
證書ハ朱書スルモノトス

各局所ノ心得

第五條 定期納付局所及爲替ヲ取扱フ局ノ市内又ハ一里以内ノ地ニ設ケアル局所ハ毎月十五日及月末日又無定期納付局所ハ毎月末日ヲ區切り事務順序ニ從テ納付金ヲ算出シ貯金納付證(貯第二一號用紙)ヲ調製スヘシ

區別ヲ附記スヘシ

通運會社便ニ依ルヘキ局所ハ同社取集人出頭ノ節納付スヘキ現金并現金ト見做シテ納付スル爲替證書アルトキハ其爲替證書トモ納付證ヲ添該取集人ニ交付スヘシ  
通運會社便ニ依ラサル局所ハ納付金區切翌日ヨリ三日以内ニ爲替取組局ニ到リ納付スヘキ現金ヲ振替爲替ニ取組ミ其爲替證書并現金ト見做シテ納付スル爲替證書アルトキハ其爲替證書トモ納付證ヲ添即日書留郵便ヲ以テ爲替貯金局又ハ其出張所ニ納付スヘシ

第六條 通運會社便ニ依ルヘキ局所ハ同社取集人出頭シタルトキハ先其所持セル見合印鑑及受取證書式紙ヲ檢閱シ正當取集人ト認ムルトキハ右ノ式紙ニ受領證印セシメ之ト引換ニ納付金等ヲ交付スルモノトス若シ納付金區切日ヨリ取集人出頭日マテニ納付金ヲ拂戻金ニ充用シタルトキハ其拂戻資金トシテ受取リタル振替爲替證書ヲ其儘納付金ニ充テ納付證書ニ更ニ譯書ヲ附記シテ取集人ニ交付スヘシ  
但日出前日没後納付金ノ渡方ヲ拒ムコトヲ得

若シ通運會社取集人ノ所持スル見合印鑑相違其他ノ事故アルトキハ納付金ヲ交付セズ速ニ其旨ヲ納先ヘ届出ヘシ取集人ノ期日内ニ出頭セサルトキモ同様届出ヘシ  
第七條 通運會社便ニ依ルヘキ局所ニシテ第五條ノ區切計算上納付スヘキ金額ナキトキハ通運會社取集人ニ宛タル無納付金通知書(貯第七七號式紙)ヲ製シ近傍郵便電信局郵便局留置ノ手續ヲ以テ之ヲ發送スヘシ若シ行遠ニ取集人出頭スルコトアルトキハ更ニ無納付金通知書ヲ製シ該取集人ニ交付スヘシ

但留置局ハ爲替貯金局ニ於テ之ヲ定メ一等局ヲ經テ通達スヘシ

第八條 各局所ハ第三條第三項ノ臨時納付スヘキ金額アルトキハ爲替取組局ニ到リ之ヲ振替爲替トナシ其證書ニ納付證ヲ添ヘ即日書留郵便ヲ以テ爲替貯金局又ハ其出張所ニ納付スヘシ

第九條 凡テ振替爲替ヲ取組タルトキハ爲替取組證明簿(貯第二三號式紙)ニ取組局ノ證印ヲ受ケ貯金納付済ノ證トシテ備ヘ置クヘシ

第十條 凡テ拂戻資金トシテ受取リタル振替爲替證書ヲ現金ニ交換シタルトキハ即日拂戻資金受取證(貯第二八號式紙)ヲ爲替貯金局又ハ其出張所ニ差出スヘシ

第十一條 島嶼ニ設ケアル局所ノ納付金ハ第三條第一項第二項ノ期日ニ拘ハラズ取集ヲ爲サシムルコトアルヘシ其局所及取集度數ハ爲替貯金局ニ於テ之ヲ定ム  
○公達第貳百九拾七號 八月十九日 郵便電信局 郵便局

本年(七月)公達第貳百三拾九號郵便局長及電信局長處務章程第五條ニ據リ設クル所ノ分科章程ハ局ノ大小業務ノ繁閑ヲ斟酌シ便宜之ヲ製シ大臣ノ認可ヲ經テ施行スル義ト心得ヘシ  
但二等局以下ニシテ從前定ムル所ニ依リ施行スルモノ及別ニ分科章程ヲ設ケサルモノハ此限ニアラス

○公達第貳百九拾八號 八月二十三日 郵便電信局 郵便局  
明治二十年六月公達第百四拾四號第一項中其旨ノ下所轄以下十八字ヲ削除シ但書ヲ左ノ通更ス

但東京府下發行ノ新聞紙雜誌ニシテ差押處分ニ係ルモノヲ東京府下ノ郵便電信局郵便局ニ於テ差押ノトキハ警視廳ヨリ東京郵便電信局ニ請求アルヘキニ依リ東京郵便電信局ハ其旨ヲ東京府下ノ他ノ郵便電信局郵便局ニ通知シ其新聞紙雜誌ヲ差押ヘシムヘシ其通知ヲ受ケテ差押ヲ爲シタル郵便電信局郵便局ヨリ當省ヘ届出方



ハ本文ノ通

○公達第貳百九拾九號 八月二十三日

東京府下

郵便電信局 郵便局

明治二十年十月公達第貳百八拾三號中警視廳ヨリノ下東京逓信管理局トアルチ東京

郵便電信局ト改正ス

元逓信管理局 郵便電信局

電信局 電信取扱所

○公達第三百壹號 八月二十三日

一等郵便電信局 一等郵便局

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第五項及同第九條

附表厚田ノ次ニ増益及増毛ヲ順次追加ス

○公達第三百貳號 八月二十三日

一等郵便電信局 一等郵便局

一等郵便電信局會計規則別冊ノ通相定メ來ル九月一日ヨリ執行ス

但別冊ハ別ニ關係ノ局ヘノミ頒ツ

○公達第三百三號 八月二十三日

二等郵便電信局

二等郵便電信局會計規則別冊ノ通相定メ來ル九月一日ヨリ執行ス

但別冊ハ別ニ關係ノ局ヘノミ頒ツ

○公達第三百四號 八月二十三日

二等郵便電信局會計規則別冊ノ儀ハ左ノ帳簿計表ヲ設ケ來ル九月一日ヨリ別冊一等

郵便電信局會計帳簿順序ニ準據執行スヘシ

但別冊ハ別ニ關係ノ局ヘノミ頒ツ

一 某年度收入明細簿

一 某年度本局經費明細簿

一 某年度經費承認額整理簿

一 某年度經費概算支出金整理簿

一 某年度本局經費明細簿計算表

一 現金出納簿

一 一時取扱金口別簿

一 現金出納表

一 郵便切手類受拂簿

一 郵便切手類殘高表

一 財產原簿

一 本局諸物品現在簿

一 願中需用物品受拂簿 但逓信事業用物品モ本簿中

一 諸物品殘高表 へ區分チ立テ記入スヘシ

○公達第三百五號 八月二十三日

二等郵便電信局會計規則別冊ノ通相定メ來ル九月一日ヨリ執行ス

但別冊ハ別ニ關係ノ局ヘノミ頒ツ

○公達第三百六號 八月二十三日

元逓信管理局 郵便電信局

電信局 電信取扱所

電報中繼局 電報中繼局及札幌増毛間電信線名稱左ノ通り定ム

自 益 及 増 毛 至 全 國 各 局 各 取 扱 所

電 報 中 繼 局 電 信 局 電 信 取 扱 所

電 報 中 繼 局 電 信 局 電 信 取 扱 所

電 報 中 繼 局 電 信 局 電 信 取 扱 所

電 報 中 繼 局 電 信 局 電 信 取 扱 所

電 報 中 繼 局 電 信 局 電 信 取 扱 所

電 報 中 繼 局 電 信 局 電 信 取 扱 所

ハ本文ノ通

○公達第貳百九拾九號 八月二十三日

東京府下

郵便電信局 郵便局

明治二十年十月公達第貳百八拾三號中警視廳ヨリノ下東京逓信管理局トアルチ東京

郵便電信局ト改正ス

○公達第三百號 八月二十三日

元逓信管理局 郵便電信局

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號逓局内心得書附則第二條第五項及同第九條

附表厚田ノ次ニ増益及増毛ヲ順次追加ス

電信局 電信取扱所

○公達第三百壹號 八月二十三日

一等郵便電信局會計規則別冊ノ通相定メ來ル九月一日ヨリ執行ス

但別冊ハ別ニ關係ノ局ヘノミ頒ツ

○公達第三百貳號 八月二十三日

一等郵便電信局會計規則別冊ノ通相定メ來ル九月一日ヨリ執行ス

但別冊ハ別ニ關係ノ局ヘノミ頒ツ

○公達第三百三號 八月二十三日

二等郵便電信局會計規則別冊ノ通相定メ來ル九月一日ヨリ執行ス

但別冊ハ別ニ關係ノ局ヘノミ頒ツ

○公達第三百四號 八月二十三日

二等郵便電信局會計規則別冊ノ儀ハ左ノ帳簿計表ヲ設ケ來ル九月一日ヨリ別冊一等

郵便電信局會計規則順序ニ準據執行スヘシ

但別冊ハ別ニ關係ノ局ヘノミ頒ツ

一 某年度收入明細簿

一 某年度本局經費明細簿

一 某年度經費承認額整理簿

一 某年度本局經費概算支出金整理簿

一 現金出納簿

一 一時取扱金口別簿

一 現金出納表

一 郵便切手類受拂簿

一 郵便切手類殘高表

一 財產原簿

一 本局諸物品現在簿

一 廳中需用物品受拂簿(但逓信事業用物品モ本簿中

一 諸物品殘高表)

○公達第三百五號 八月二十三日

二等電信局會計規則別冊ノ通相定メ來ル九月一日ヨリ執行ス

但別冊ハ別ニ關係ノ局ヘノミ頒ツ

○公達第三百六號 八月二十三日

元逓信管理局 郵便電信局

電信局 電信取扱所

電報中繼局

瀧益及増毛郵便電信局發着ノ電報中繼局及札幌増毛間電信線名稱左ノ通り定ム

電報中繼局	電報中繼局
白濱益及増毛	札幌
至全國各局各取扱所	札幌

電信線名稱

舊 名 稱	線 名	改正 名 稱
回線接續局名	線 名	回線接續局名
厚田 札幌	札幌厚田線	札幌厚田線
厚田 石狩	札幌厚田線	札幌厚田線
厚田 石狩	札幌厚田線	札幌厚田線
厚田 石狩	札幌厚田線	札幌厚田線

○公達第三百七號八月廿三日

明治二十三年(一月)公達第拾號一等二等郵便及電信局事務受渡規則第七條但書ヲ削除ス

○公達第三百八號八月二十三日

郵便電信局 郵便局  
郵便貯金預所

一回五拾圓以上ノ貯金ハ當分ノ内預リ方取扱ハサル義ト心得且左ノ通り其局所前へ揭示スヘシ

揭示文

一回五拾圓ヲ超過スル貯金ハ當分ノ内預リ方取扱ハス  
明治二十二年八月

元逓信管理局 郵便電信局  
電信局 除クテ

○公達第三百九號八月二十六日

俸給支給上計算方自今左ノ通心得ヘシ

一日割ノ算法ハ前乗後除トス  
一厘未滿ノ端數ハ四捨五入ノ法ヲ用ヒス即チ年俸四期渡ノ分ハ一期毎ニ厘未滿ノ端數ハ切捨計算シ日割計算ヲ要スルトキハ年俸十二分ノ一ヲ以テ一ヶ月分トシ

一ヶ月或ハ二ヶ月分ト日割當月ノ支給日數ニ應スル額トシ合シ厘未滿ノ端數ハ切捨計算ス(假令ハ二月二十日迄ノ日割ハ一月分ト二十日間ノ支給額トシ合シ厘未滿ノ端數ハ切捨ルガ如シ)年俸十二ヶ月渡ノ分ハ毎月厘未滿ノ端數ハ切捨計算ス

但月俸ノ日割ヲ以テ計算スルモノモ本項ノ例ニ由ル

郵便電信局 郵便局

○公達第三百拾號八月二十六日  
明治十九年(六月)公達第三拾六號郵便切手賣下局ノ内越後國高田郵便電信局ハ來九月一日以後之ヲ除キ更ニ同日ヨリ同國直江津郵便電信局ヲ追加ス

一等郵便電信局 一等郵便局

○公達第三百拾壹號八月二十六日  
三等郵便電信局長郵便局長及郵便受取所取扱人郵便貯金預所取扱人身元引受人變更ヲ要スル場合ニ於テ其局へ届出タルトキハ適當ト認ムルモノハ之ヲ開置キ届書等ハ保管シ直ニ其事由ヲ報告スヘシ

郵便電信局(三等局)  
郵便局(除ク)

○公達第三百拾貳號八月二十六日  
雇員并傭人人員及其俸給額毎月未現在數別表様式ニ準シ取調翌月十日マテニ本省ニ報告スヘシ

(別表)

某一二等郵便電信局 (又ハ一二等郵便局)

雇員傭人 明治何年何月分

給日	給月	給料	人員	給料	人員	合計

二十二年公達第四百十九號ヲ以テ追加

二十三年公達第百拾貳號ヲ以テ追加

○公達第三百拾三號 八月二十六日  
遞送集配命令ニ對スル受書ハ其區一等郵便電信局郵便局ニ差出シ一等郵便電信局郵便局ハ調査ノ上之ヲ保管スヘシ

○公達第三百拾四號 八月二十六日  
集配及遞送受取人並其身元引受人住所氏名變換届書及身元引受人變更届書ハ其區一等郵便電信局郵便局ニ差出シ一等郵便電信局郵便局ハ調査ノ上之ヲ保管シ一ヶ月分取纏メ翌月十日迄ニ本省ニ報告スヘシ

○公達第三百拾五號 八月二十六日  
直備遞送人及直備運轉手機關手水火夫ヲ採用シタルキハ一ヶ月分取纏メ別表様式ニ準シ翌月五日迄ニ本省ニ報告スヘシ但異同ヲ生シタルトキ亦同シ

(別表)

遞送人報告				明治二十年何月中			
局名	日附	摘要	給料	住所族籍	氏名	年	齡

増給減給ノトキハ給料ノ欄ヲ新給料元給料ノ二欄トスヘシ機關手運轉手水火夫ノ報告表式モ右ニ準ス

○公達第三百拾六號 八月二十六日  
不定期航海ノ汽船ハ郵便物搭載スヘキ規定アルモノニシテ郵便物ヲ航送セシメタルトキハ別紙書式ニ準シ一ヶ月分取纏メ翌月十日迄ニ本省ニ報告スヘシ

(別紙)

明治何年何月中航送郵便物差立度数及個數量目取調報告							
年	月	日	發船地名	着船地名	航送回數	行遞個數	行遞量目
合 計							

遞信大臣宛

郵便電信局長 名

○公達第三百拾七號 八月二十六日  
郵便電信局 郵便局  
郵便用馬車及遞送人等毎年十二月三十一日現在數別紙様式ニ準シ調製翌月十五日迄ニ其區一等郵便電信局郵便局ニ差出スヘシ  
一等郵便電信局郵便局ハ各局ノ分取纏メ翌月三十日迄ニ本省ニ報告スヘシ

(別紙)

種別		何	府	何	縣
何一等郵便電信局監督區内郵便用馬車及遞送人等	明治何年十二月三十一日現在				
郵便	官設				
傳馬	私設				
總立	計				

遞送人ノ數	馬車及橋		等馬		率	
	計	私	官	計	私	官
	有		有			

注意

- 一 郵便專用馬車及郵便遞送旅客乘合馬車ノ馬丁ハ總テ取者トシテ算入スハシ
  - 二 官民ノ區別ナク郵便物及郵便并旅客遞送ノ爲メ馬匹其他ノ率賦ヲ飼養シ車輛ヲ貯存スル屋舎ハ郵便傳馬繼立場トシテ算入スヘシ
  - 三 旅客及貨物運搬會社ニシテ郵便物遞送ノ公務ニ使用スル率馬及馬車等ハ其數中ニ算入スヘシ
  - 四 騎馬遞送ノ遞送人及馬匹ハ除外ニ別記スヘシ
  - 五 遞送人ハ遞送受買人ノ使役スルモノモ算入スヘシ
- 公達第三百拾八號八月二十六日 郵便電信局 郵便局
- 郵便物數報告表本年八月分ヨリ其區一等郵便電信局郵便局ニ差出スヘシ
- 一等郵便電信局郵便局前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ別紙様式ニ準シ調製翌月二十日迄ニ本省ニ報告スヘシ
- (別紙)

二十二年公達第四百九十號ヲ以テ更正

總計	郵便集信數		明治何年何月分	
	合計	計	合計	計

本表ハ郵便物ノ總數ニシテ約束郵便物モ各種目中ニ併算スルモノトス但シ電報原書ハ第一種官報ハ第三種氣象報告ハ第四種トシテ合記スヘシ

廳府縣	郡區名	局名	郵便物配達數		明治何年何月分	
			並配	別配	自局到達	留置合計

二十三年公達第  
百三十三號ヲ以テ  
廢

○公達第三百拾九號八月二十六日  
郵便電信局三等局  
郵便電信局ヲ除ク

一等郵便電信局郵便局ハ其局并ニ其区内ニ等郵便電信局郵便局ヲ除ク郵便電信收入  
及各局經費別紙甲號様式ニ準シ二等郵便電信局郵便局ハ郵便電信收入及經費別紙乙  
號様式ニ準シテ調製シ收入ハ本年八月分ヨリ翌月二十日經費ハ二十二年分ヨリ翌  
年度十一月三十日迄ニ之ヲ本省ニ進達スヘシ

		某府約東郵便物數				明治何年何月分				
總計	合計	計	計	計	計	應府縣				
						第一種 個數 量目	第三種	第四種	各種書留	

		某一等郵便電信局(又一等)及二等電信局郵便電信收入														明治何年何月分			
總計	合計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	應府縣郡區名局			
																切手	封皮	葉書	帶紙

本表收入外電信維持料電信料過剩金アルトハ欄外ニ其金額及收入局ヲ記載スヘ  
シ  
本表ハ一等郵便電信局及郵便局ヨリ會計局ヘ毎月差出ス勘定表ニ由リテ調製ス  
ルモノトス而ソ各科目ノ總額ト會計局ヘ差出ス收入内譯表ノ收入額ト符合スル  
ヲ要ス

某一等郵便電信局又ハ郵便局經費 明治何年度

項	目	本局		何支局		何支局		何支局	
		計		計		計		計	
合計									

本局ト支局ト經費ノ分離スヘカラサルモノハ本局ノ方ニ於テ記入スヘシ

三等郵便電信局及郵便局經費 明治何年度

合計	何縣		何縣		廳府縣局	局長手當局費	集配費	遞送費	何々	計
	郵便局	信局	郵便局	信局						
郵便局										
信局										
郵便局										
信局										

乙 局數ハ三月三十一日ノ現在數ヲ記入スヘシ

項	目	金額	
		計	額
切手	賣下代		
封皮	賣下代		
葉書	賣下代		
帶紙	賣下代		
私書	函料		
約束	郵便料		
貨幣	封入郵便物遞送料		
音信	信料		
電信	取扱料		
電信	修繕料		
合計			

某二等郵便電信局(又ハ二等郵便局)經費 明治何年度

本表收入外電信維持料電信料過剩金アルトハ欄外ニ其金額ヲ記載スヘシ  
 本表ハ會計局へ毎月差出ス勘定表ニ由リテ調製スルモノトス而シテ各科目ノ總額ト會計局へ差出ス收入内譯表ノ收入額ト符合スルヲ要ス

項	目	金額

合計	計	
	計	

○公達第三百貳拾號 八月二十六日 郵便電信局 郵便局  
 郵便私書函借受人アルトキハ其氏名貸與期限及料額并ニ其變更トモ一ヶ月分取纏メ  
 翌月十日マテニ本省ニ報告スヘシ  
 ○公達第三百貳拾壹號 八月二十六日 郵便電信局 郵便局  
 各局取扱ニ係ル遭難及事故郵便物數別紙甲號表式ニ準シ毎年一月十五日迄ニ其區一  
 等郵便電信局郵便局前項ノ報告ヲ受ケタルトハ更ニ乙號表式ニ準シ同月三十一日  
 迄ニ本省ニ報告スヘシ  
 甲號ノ一

二十三年公達第百二十八號ヲ以テ改正

遭難郵便物數報告表

明治何年中

種目	盜	遭難	水	火
書狀	同上中發見配達セシモノ	同上中配達ヲ得シモノ		同上中配達ヲ得シモノ
葉書				
新聞雜誌				
書籍				
本籍				

貨物封入	
免稅留	
合計	

明治何年何月何日

何(廳府縣)何國何(郡區)  
 何郵便電信局印

注意 盜難水火難中行送ノ儘ニシテ郵便物ノ種別及箇數ノ分明ナラザルモノハ欄外ニ其行張數ヲ明記スヘシ又遭難中著シキモノハ其遭難地ヲ欄外ニ掲ケヘシ

甲號ノ二

事故郵便物數報告表

明治何年中

種目	遺失	紛失	拋棄	隱匿
書狀	同上中發見配達セシモノ	同上中發見配達セシモノ	同上中發見配達セシモノ	同上中發見配達セシモノ
葉書				
新聞雜誌				
書籍				
本籍				
免稅留				
貨物封入				
合計				



合計									
何(廳府縣)何國何(郡區)									
何郵便電信局印									
明治何年何月何日									

乙號ノ一

廳府	種目	盜	難	水	難	火	難
縣廳府	書狀	同上申發見配	同上申配達	同上申配達	同上申配達	同上申配達	同上申配達
	葉書						
	新聞雜誌						
	見本						
	貨幣封入						
	免稅留						
	書						
合計							

明治何年中

盜難水火難中行竄ノ儘ニシテ郵便物ノ種別及箇數ノ分明ナラサルモノハ欄外ニ  
 其行送數ヲ明記スヘシ  
 避難中著シキモノハ其避難地ヲ欄外ニ掲クヘシ  
 乙號ノ二

廳府	種目	遺失	紛失	拋棄	隱匿
縣廳府	書狀	同上申發見配	同上申配達	同上申配達	同上申配達
	葉書				
	新聞雜誌				
	見本				
	貨幣封入				
	免稅留				
	書				
合計					

明治何年中

○公達第三百貳拾貳號 八月二十六日

郵便電信局 郵便局  
 郵便受取所

郵便電信局郵便局郵便受取所ノ位置變更ヲ要スルトキハ其町村ノ内外ニ係ハラス新  
 舊局所ノ位置等明細ナル圖面ヲ添ヘ一等郵便電信局郵便局郵便受取所ハ所轄郵便電  
 信局郵便局經由テ經テ本省ニ具申シ認可ヲ受クヘシ  
 一等郵便電信局郵便局長前項ノ具申ヲ受ケタルトキハ移轉ノ理由新舊ノ便否等取調  
 ヘ意見ヲ付シ進達スヘシ

郵便電信局 郵便局

○公達第三百貳拾三號 八月二十六日  
 明治二十年一月公達第八號左ノ通改正ス

郵便小線路ニ於テ郵便遞送受取人自費ヲ以テ郵便遞送人へ時計ヲ携帯セシメ其時計

ニ據リ遞送記中發著時間記入ヲ要求セント欲スルモノハ豫メ其線路及時計ノ員數ヲ指定シ一等郵便電信局郵便局ヲ經テ本省ノ許可ヲ受ケ執行スヘシ  
 一等郵便電信局郵便局長前項ノ具申ヲ受ケタルハ其時計ノ正否及員數ヲ取調ヘ意見ヲ付シ進達スヘシ

本省ニ於テ前項遞送時計ノ使用ヲ許可シタルハ其時計ニ依リ時間ヲ記入スヘキ郵便電信局郵便局ニ達示施行セシム  
 遞送受負人其執行ヲ廢止スルハ速ニ一等郵便電信局郵便局ヲ經テ本省ニ届出ヘシ

○公達第三百貳拾四號八月二十六日

郵便電信局 郵便局  
 電信局

左記諸達中(所轄所管遞信管理局又ハ同局長トアルヲ其區一等郵便電信局郵便局ト改正ス

一明治十八年一月甲第四號達

一明治十八年六月甲第九拾五號達

一明治十九年二月甲第三拾貳號達

一明治十九年二月甲第三拾三號達

一明治十九年九月通達第二

一明治十九年十二月公達第三百三拾號

一明治二十年一月公達第壹號

一明治二十年五月公達第百拾號

一明治二十一年六月公達第百拾三號

一明治二十一年九月公達第百九拾九號

○公達第三百貳拾五號八月二十六日

郵便電信局 郵便局  
 電信局

諸達中左ノ通加除更正ス

一明治十八年六月乙第拾號達第拾壹條第十二條第十三條中遞信管理局トアルヲ一等郵便電信局郵便局ト改メ第十二條中會計局トアルヲ内信局ト改ム

一明治十八年七月甲第百六拾四號達第九條ヲ削除シ第十條第十一條中遞信管理局トアルヲ一等郵便電信局郵便局ト改メ第十一條前條ノ三字ヲ加フ

一明治二十年一月公達第三號郵便區畫法第六條中遞信管理局トアルヲ一等郵便電信局郵便局ヲ經テ本省ト改メ第七條左ノ通改正ス

第七條 一等郵便電信局郵便電信局長前條ノ具狀ヲ受ケタルトキハ意見ヲ付シ進達スヘシ

一明治二十年五月公達第百三號第一項中郵便電信局ノ下一等二等ノ四字ヲ削リ所轄遞信管理局長トアルヲ其區一等郵便電信局郵便局長ト改メ第二項第三項削除

第五項中一等二等トアル文字ヲ郵便電信局ノ上ニ挿入シ三等ノ下ニ郵便電信局ノ五字ヲ加ヘ遞信管理局トアルヲ一等郵便電信局郵便局ト改ム

一明治二十一年六月公達第百三拾壹號中遞信管理局長ニトアルヲ其區一等郵便電信局郵便局ヲ經テト改ム

一明治二十一年九月第千九拾三號達中他管理區以下七字ヲ削リ管理局トアルヲ郵便電信局郵便局ト改ム

一明治二十二年四月公達第百貳拾九號中郵便物集配等級五等以下ノ郵便電信局郵便局ハノ二十一字ヲ削リ所轄遞信管理局トアルヲ其區一等郵便電信局郵便局ト改メ遞信省內信局トアルヲ本省ト改ム

○公達第三百貳拾五號第六項參照

第千九拾三號

他管理區差立ノ郵便物中郵便條例第十六條第五項ニ違背シタルモノアルトキハ自

今其差立人居住地ノ管理局ニ於テ處理セシム

明治廿一年九月五日

遞信大臣

遞信管理局

遞信管理局

遞信管理局

遞信管理局

遞信管理局

遞信管理局

遞信管理局

遞信管理局

遞信管理局

遞信管理局

二十四年公達第四百七十一號ヲ以テ追加

○公達第三百貳拾六號 八月二十六日 一等郵便及電信局

一等郵便及電信局擔任條件中左ノ事項ハ各其下ニ掲ケル發送期限ニ從ヒ本省ニ報告スヘシ

但明治二十年(七月)公達第百九拾六號逓信管理局報告規程同第百九拾七號逓信管理局報告事項ハ本月限り廢止ス

報告事項

- 一 爲替及貯金取扱身元保證品ノ徵收
  - 一 爲替及貯金取扱身元保證品ノ還付
  - 一 臨時郵便遞送猶豫時間ノ付與
  - 一 臨時郵便線路及郵便遞送種類ノ變更
  - 一 郵便電信爲替貯金事務從事者服務停止
  - 一 三等郵便及電信局ニ於テ事務執行シ難キトキ其局長又ハ他局長ノ派遣
- 發送期限
- |       |       |       |   |   |   |   |   |
|-------|-------|-------|---|---|---|---|---|
| 書式ニ依ル | 別紙ニ依ル | 前項書式ニ | 適 | 適 | 適 | 適 | 適 |
| 式     | 式     | 式     | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 |
| 式     | 式     | 式     | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 |
| 式     | 式     | 式     | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 |
- 郵便電信局 郵便局

爲替及貯金取扱身元保證品徵收報告

國郡預所名	局長氏名	爲替貯金取扱人氏名	貯金保證金額	保證品種目	保證品價格	保證品差出月日	保證品差出事由
逓信大臣爵氏名殿							
一等郵便電信局長氏名印							

保證品種目トハ通貨地所公債證書等ノトス

二十二年公達第四百六十四號ヲ以テ追加

保證品價格トハ買取價格及地價證書額面トス

保證品差出事由トハ新任又ハ事務新設又ハ引換ノ類トス

○公達第三百貳拾七號 八月三十日 郵便電信局 郵便局

客歲中元逓信管理局ヨリ及逓達候地方各局物品交付區分表備考中第一項乃至第三項左記ノ變更正シ來ル九月一日ヨリ施行ス

地方各局物品交付區分表備考

- 一 第一種ハ一二等郵便電信局ニ於テハ本省主務局ヘ直ニ請求シ會計局ヨリ交付ス
  - 一 二等電信局以下ノ各局所ニ於テハ一等郵便電信局(沖繩縣下ハ一等郵便局以下之ニ同シ)ヲ經テ本省主務局ヘ請求シ該郵便電信局ヲ經テ交付ス
  - 一 第二種ハ二等電信局以下ニ要スル分ハ豫テ需用ヲ量リ一等郵便電信局ヨリ本省主務局ニ請求貯藏シ各局所ノ請求ニ隨ヒ交付ス
  - 一 二等郵便電信局ハ需用ノ都度本省主務局ヘ請求シ會計局ヨリ交付ス
  - 一 第三種ハ豫テ需用ヲ量リ一等郵便電信局ニ於テ調製シ自局及二等郵便電信局以下各局所ノ請求ニ隨ヒ交付ス
- 公達第三百貳拾八號 八月三十日 郵便電信局 郵便局

二十三年公達第三百三十三號第百九十六號ヲ以テ削除改正

貯金即時拂取扱規程

但沖繩縣下ノ各局ニ限リ當分ノ内規程第三條第二項ノ即時拂ヲ取扱ハサル義ト心得ヘシ

貯金即時拂規程

- 第一條 至急貯金ノ拂戻ヲ要スルモノアルトキハ此規程ニ據リ取扱フモノトス
- 第二條 貯金即時拂ハ第三條第一項ニ屬スルモノハ一等郵便電信局長同郵便局長(以

下單ニ一等局長ト記ス限リ之ヲ許可シ其第二項ニ屬スルモノハ一等局長ニ於テ爲替貯金局又ハ其出張所ニ照會ノ上之ヲ許可シ其拂戻證書ヲ發行スルモノトス

第三條 貯金拂戻願人確實ナル保證人ヲ立ツルコトヲ承諾シ且左ノ第一項若シクハ第二項ニ該當スル場合ニ於テ其拂戻請求金額圓位未滿ノ端數ヲ有セサルトキハ即時拂ノ取扱ヲナスヲ得ヘシ

第一項 預入ヲ取扱ヒタル局所ニ限リ取扱ヒ得ヘキ場合左ノ如シ  
自己ノ局所ニテ預リテ取扱ヒタル貯金ノ十分ノ八以内ニシテ一度ニ金貳拾圓ヲ超過セサル金額ノ拂戻但爲替貯金局又ハ同出張所ニテ通帳檢閱利子記入濟ノ貯金及自己ノ局所ニテ發行シタル再度通帳ナレハ其初行ニ一口ニ記載シタル貯金ハ自局取扱ノ貯金ニ準シテ取扱フヲ得

第二項 何レノ局所ニテモ取扱ヒ得ヘキ場合左ノ如シ  
拂戻願人ニ於テ一等局長ヨリ爲替貯金局又ハ同出張所ニ照會スヘキ往復電信料ヲ納メテ通帳ニ記載アル預ケ金總額ノ十分ノ八以内ノ金額ノ拂戻

第四條 即時拂ニ要スル拂戻資金ハ拂戻證書發行ノ都度一等局長之ヲ自局爲替資金ヨリ差撥拂トナシ振替爲替ヲ以テ其拂渡局所ニ送付スルモノトス

各局所取扱方

第五條 貯金即時拂ノ取扱ヲ請フモノアルトキハ通常拂戻ノ手續ヲ以テ拂戻願書(第五號)及通帳ヲ差出サセ先之ヲ第三條ニ照ラシ其第一項又ハ第二項ノ孰レニ該當スルヤヲ調査シタル上保證人ヲ立テ尙第五十號ノ願書ヲ差出サシムヘシ  
保證人ハ其地ニ住居ヲ定メタル丁年以上ノ戶主ニシテ身元確カナルヘキハ勿論要スルニ事故アルニ際シ即時拂ノ金額ヲ辨償セシメ得ヘキ見込アルモノニ限ルヘシ

第六條 即時拂ヲ要スル貯金第三條第一項相當ナルトキハ通帳ニ記載ノ氏名金高等ヲ貯金預リ簿ニ突合セ又自局發行ノ再度通帳ナレハ再度通帳發行通知書ニモ突合セ其正否ヲ確ムヘシ第二項相當ナルトキハ一等局長ヨリ爲替貯金局又ハ其出張所

ニ其正否ヲ照會スヘキ電報料往二音信返一音信合テ金四拾錢ヲ前納セシムヘシ

第七條 即時拂ヲ許可スヘキ調査ヲ了リタルトキハ之ニ關スル願書通帳等ヲ取纏メ速ニ其區一等郵便電信局同郵便局(以下單ニ一等局ト記ス)ニ差出スヘシ若シ即時拂ヲ請フモノ同時ニ殘預ケ金ノ幾分又ハ金額ノ拂戻ヲ請フトキハ別ニ其金額ノ拂戻願書ヲ差出サセ俱ニ其區一等局ニ差出スヘシ

第八條 貯金即時拂願人第七號甲貯金拂戻證書ヲ持參シ拂戻金ノ受取方ヲ申出タルトキハ一等局長ヨリ送付セル第七號乙貯金拂戻報知書及拂戻願書ト突合セ預テ貯金事務順序ニ據リ拂渡ヲナシ其拂濟拂戻證書類ハ爲替局ニ於テハ爲替貯金計算整理手續ニ從ヒ無爲替局所ニ於テハ貯金事務ノ成規ニ由リ受持區域ノ別ニ從ヒ直ニ爲替貯金局又ハ其出張所ニ差出スヘシ

第九條 即時拂ヲ取扱フ調査ノ不充分ヨリ遞信省ノ損失ヲ來シタルトキハ其局所ノ主務者ヲシテ其損失ヲ辨償セシムヘシ

一等局取扱方

第十條 其區内局所ヨリ即時拂願書等ヲ差出シタルトキハ此規程ニ照ラシテ其願書等ヲ調査ノ上第七號甲拂戻證書及乙拂戻報知書ヲ調製シ甲ハ拂戻願人ニ乙ハ其拂戻證書并拂戻資金ヲ添ヘ拂渡局所ニ送付スヘシ

第三條第二項ノ即時拂ニシテ局所ヨリ電信料ヲ送付シアルトキハ先通帳發行局所ノ別ニ由リ受持區域ノ別ニ隨ヒ爲替貯金局又ハ其出張所ニ電報ヲ以テ左ノ件ヲ照會濟ノ上前項ノ取扱ヲナスヘシ但此即時拂證書ノ日附ハ返電發信ノ日附ニ據ルヘシ

即時拂願人氏名  
通帳記號番號

拂戻金額  
電信文ハ成ルヘク字數ヲ短約シ左ノ略語ヲ用井返信料前拂ノ手續ヲ以テ電報スヘシ

略語ノ例

一貯金即時拂ノ金高ハ數字ヲ以テ記載スヘシ例ハイロ一番ノ通帳ヲ所持セル  
武藏一耶ヨリ壹百圓ノ即時拂ヲ申出タルトキハ左ノ如シ

イロ一ムサシイチロウ一〇〇  
右ニ對スル爲替貯金局又ハ其出張所ノ返信ハ左ノ例ヲ以テス但返信ノ場合ニ

ハ記番號又ハ氏名ノ一部ヲ略スルコトアルヘシ  
イロ一又ハムサシ一〇〇

第十一條 即時拂證書ヲ發行スルトキハ即時拂證書記入帳ニ仕出月日通帳番號拂戻  
人氏名宿所即時拂證書番號金額拂渡局所名ヲ記入シ置クヘシ

第十二條 即時拂ノ取扱ヲシタルトキハ即時拂届書ニ通帳并第五拾號即時拂願書  
及殘額ノ拂戻ヲ要スルモノナルトキハ其願書トモ受持區域ノ別ニ隨ヒ爲替貯金局  
又ハ其出張所ニ送致スヘシ

第十三條 貯金即時拂差繼ノ取扱ヲナストキハ先差繼證書ヲ發行シ其差繼券及差繼  
金報告書ハ受持區域ノ別ニ隨ヒ爲替貯金局又ハ其出張所ニ送致スヘシ

第十四條 一等局ニ於テ自局ノ取扱ニ係ル即時拂モ此規程ニ依準シテ取扱フヘシ  
○公達第三百貳拾九號九月四日 郵便電信局 郵便局

明治二十年二月公達第拾五號郵務研究會規程左ノ通改正ス  
郵務研究會規程

第一條 三等郵便電信局長郵便局長郵便事務研究ノ爲メ集會スルトキハ郵務研究會  
ト稱シ此規程ニ遵フヘシ

第二條 本會ヲ設置セントスルキハ其會議規則ヲ添ヘ其區一等郵便電信局郵便局ヲ  
經テ本省ノ認可ヲ受クヘシ其規則ヲ増減變更セントスルキ亦同シ

第三條 本會一度ノ開會日數ハ五日以内トス

第四條 本會々員ハ一等郵便電信局郵便局監督區内ニ限ルヘシ

但會議區比隣監督區内ニ關係アルキハ其關係アル部分ニ限リ聯合集會スルヲ得

第五條 局長事故アリ出會シ難キキハ其局備員ヲ代理トシテ集會セシムルヲ得

第六條 開會前開期及會場ヲ定メ其區一等郵便電信局郵便局ヲ經テ本省ニ届出ヘシ

第七條 本會ハ其議事郵便事務ノ外ニ渉ルヲ得ス

第八條 閉會後十日以内ニ會員名簿議題及決議書ヲ其區一等郵便電信局郵便局ヲ經  
テ本省ニ差出スヘシ

第九條 前條決議條件ハ認可ヲ受ケタル後ニアラサレハ施行スルヲ得ス

第十條 本會ニ關スル諸費ハ會員ノ自辨タルヘシ

第十一條 本會ヨリ差出ス書類ハ都テ總代ノ名義ヲ以テスヘシ

第十二條 本會ヲ廢止シタルキハ其區一等郵便電信局郵便局ヲ經テ本省ニ届出ヘシ

○公達第三百三拾號九月四日

越後國中頸城郡直江津郵便電信局書記及備定員ナ九名トス

○公達第三百三拾壹號九月四日

明治二十一年七月公達第百五拾六號電信技術傳習生終業試驗手續第一條ヲ左ノ通改  
正ス

第一條 電信技術傳習生終業試驗ハ郵便電信局又ハ電信局ニ於テ當該局長及技術  
官一名若クハ二名立合ノ上施行スルモノトス

○公達第三百三拾貳號九月四日

郵便電信局 電信局  
通信省ノ通信技手ヲ派遣スヘキ電信取扱所ノ所員ハ其區一等郵便及電信局長ニ於テ  
其局員中ヨリ選定シテ之ニ充テ該所員中一名ヲ主務トスヘシ其主務ノ命免ハ本省ノ  
認可ヲ承クルモノトス

但明治二十年五月公達第百貳拾壹號ハ廢止ス

郵便電信局 三等局  
郵便局 三等局  
電信局 三等局

○公達第三百三拾三號 九月四日

郵便電信局 電信局

電信取扱所  
公衆ノ通信ヲ取  
扱所ヲ除ク

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第九條附表中茨木ヲ削リ七條ヲ伏水ノ上ニ改正ス

○公達第三百三拾四號 九月四日

郵便電信局 電信局  
電信建築官

二十四年公達第二百六十五號ヲ以テ改定

電信建築官執務規程左ノ通相定ム

電信建築官執務規程

第一條 電信建築官ハ其本居ノ郵便電信局電信局ニ出勤シ擔當ノ事務ヲ整理スヘシ

但電信建築長ト本居チ同クスル電信建築手ハ擔當事務ノ外電信建築長ノ指揮ヲ受

ク其區ノ事務ニ從事スヘシ

第二條 電信建築長ハ一今年一回其區内ヲ巡回シ電信建築手ハ一ヶ月一回其部内ヲ

巡回シ電信線路ノ良否ヲ覈査シ其線路ヲ整理シ及電信建築官擔當ニ係ル電氣通信

技術上ノ監視ヲ爲スヘシ

第三條 電信建築書記ハ其區電信建築ニ關スル事務ノ報告器械物品ノ受拂及經費出

納等ノ事務ニ從事スヘシ

第四條 電信建築長及電信建築手ハ第二條ニ定ムルモノ、外ハ工務局長ノ認可ヲ得

ルニアラザレハ出張巡回スルヲ得ス

但非常急務ノ場合ニ於テハ出張巡回ノ後速ニ其事由ヲ具シ工務局長ヘ届出ツヘ

シ

第五條 電信建築長電信建築手ハ電線建築法及電機裝置法ニ依リ所管ノ工事ヲ執行

スヘシ若シ該法ニ依リ執行シ難キモノアルトキハ工務局長ノ指揮ヲ受クヘシ

第六條 電信建築長ハ毎年度其區内電信建築ニ係ル工事及歳入歳出豫算内譯書ヲ別ニ定ムル様式ニ依リ調製シ工務局長ニ差出スヘシ

第七條 電信建築長ニ於テ前條豫算決定ノ後之ヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ詳

悉シタル書面ヲ工務局長ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第八條 電信建築長ハ電信建築區歳入歳出納ノ當否ヲ調査シ該建築長所在地ノ郵

便電信局長ニ通知スヘシ

第九條 電信建築長及電信建築手ハ工事從事ノ入夫ヲ要スルトキ之ヲ賃雇スルコト

ヲ得

第十條 電信建築長及電信建築手ハ電信線路非常ノ損害ニ罹リタルトキ及電柱腕木

等ノ不時毀損ヲ生シタルトキ直ニ之ヲ修理スヘシ

第十一條 電信建築長及電信建築手ハ郵便電信局電信局非常ノ災害ニ罹リ通信シ難

キトキ當該局長ト協議シ臨時通信開始ノ設備ヲ爲スヘシ

第十二條 電信建築長ハ電信線路非常損害ニ罹リ經費豫算額内ヲ以テ支辨シ難ク特

ニ増額ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シタル計算書ヲ添ヘ工務局長ヘ申請スヘシ

第十三條 電信建築長ハ工務局長ノ認可ヲ受ク工務局長名ヲ以テ電信建築工夫ノ進退

賞罰ヲ執行スヘシ

但罷免スヘキモノアリテ認可ヲ請フノ違ナキトキハ臨時處分シテ後届出ツヘシ

第十四條 電信建築長ハ左ノ條件ヲ專行スルコトヲ得

一 電信建築工夫ノ歸省轉地療養願ヲ許否スル事

二 電信建築工夫ヲ配置變更スル事

三 電信建築工夫就業届書式ヲ定ムル事

四 前各項ノ外成規命令アル事件ヲ執行スル事

第十五條 電信建築長ハ其專行ニ屬スル條件ヲ電信建築手ニ委任スルコトヲ得

第十六條 電信建築長ハ其主管專決事務及其他重要ノ件ヲ工務局長ニ報告スヘシ

第十七條 電信建築官ノ事務報告電信建築用器械物品受拂及經費ノ出納ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依ルヘシ

○公達第三百三拾五號 九月四日

一等郵便電信局

一等郵便電信局長及該局吏員ニシテ其區内ニ出張又ハ巡回スルトキ旅費支給上管内外區分方ノ議ハ明治二十二年九月一日以降當該局ノ監督區域内ヲ以テ管内ト定メ管内旅費額ヲ支給ス

但北海道廳沖繩縣東京府小笠原島島廳長崎縣對馬島廳鹿兒島縣大島島廳所轄地及東京府管轄伊豆七島ハ二十年一月公達第九號ニ據ルヘシ

○公達第三百三拾六號 九月四日

郵便電信局 電信建築官

地方電信建築ニ從事スル毎部擔當吏員建築長及建築長所在地ノ屬員ヲ除クニシテ其部内ニ出張又ハ巡回スルトキ旅費支給上管内外區分方ノ議ハ明治二十二年九月一日以降該吏員ノ擔當部内其部ニ係ル新築改築工事等ニ屬スル場所トモヲ以テ管内ト定メ管内旅費額ヲ支給ス

但北海道廳沖繩縣東京府小笠原島島廳長崎縣對馬島廳鹿兒島縣大島島廳所轄地及東京府管轄伊豆七島ハ二十年一月公達第九號ニ據ルヘシ

○公達第三百三拾七號 九月四日

一等郵便電信局 一等郵便局

監察及視察見合印鑑取扱方左ノ通相定候條渡方取計フヘシ

第一條 監察及視察見合印鑑取扱心得  
送付ス

第二條 一等郵便電信局一等郵便局ハ之ヲ其監督區内郵便電信局郵便局電信局電信取扱所郵便受取所郵便貯金預所ニ交付スヘシ

第三條 印鑑ノ交付ハ總テ其主任ニ於テ取扱ヒ局長ノ檢閱ヲ經テ之ヲ發送スヘシ

第四條 印鑑交付ノ際其原符ニ記號番號年月日渡先及交付ノ事由ヲ記入シ印鑑ニモ

原符ト同一ノ記號番號及渡先ヲ記入シ且原符ト印鑑ノ中間ニ割印ヲ押スヘシ但其印鑑ニ對スル受領證ヲ取り之ヲ保存シ置クヘシ

第五條 局所ノ廢止吏員ノ轉免死亡等ニヨリ返納シタル印鑑ハ原符事由ノ關内ニ其旨ヲ記入シ本省ニ返納スヘシ

第六條 印鑑紛失又ハ盜取等ノ事故ニ據リ其届出ヲ受タルキハ原符ニ其事由ヲ記入シ且其番號渡先等ヲ本省ニ届出ヘシ但再度ノ交付ハ總テ第四條ノ手續ニ依ル

○公達第三百三拾八號 九月四日

郵便電信局(三等局) 郵便局(三等局) 郵便局(三等局)

明治十九年公達第三百三拾三號郵便爲替貯金現金取扱規則第六條ニ據リ郵便電信局郵便局ニ於テ當日受入合金ヲ金庫ヘ納入スルニ當リ爲替差出人又ハ貯金預入者シ爲替又ハ貯金ノ現金假預證ヲ持去リタルカ爲メ假預證ノ内金庫ニ回付シ能ハサルモノアルハ其事由ヲ證明シタル書面ヲ調製シ之ヲ假預證ニ代ヘ金庫ニ回付シ其現金ハ本年公達第三百五拾六號ノ手續ニ據リ處理スヘシ

○公達第三百三拾九號 九月四日

郵便電信局(三等局) 郵便局(三等局) 郵便局(三等局)

地方電信建築官會計取扱規程別冊之通制定九月一日ヨリ施行ス

但別冊ハ別ニ關係ノ向ヘノミ頒ツ

元大阪遞信管理區内 郵便電信局 郵便局

明治二十年六月阪甲第五〇號同年八月阪甲第七〇號同二十二年一月阪甲第三號同年三月阪甲第二〇號達ハ廢止ス

○公達第三百四拾壹號 九月十日

元赤間關遞信管理區内

郵便電信局 郵便局  
 明治十九年八月達一四三號同年九月達一八七號同年十月達第二一八號同年十月達第二九二號同年同月達第二九三號達ハ廢止ス  
 ○公達第三百四拾貳號九月十日  
 元名古屋逓信管理區内

郵便電信局 郵便局  
 明治二十年三月郵乙第二二九號達ハ廢止ス  
 ○公達第三百四拾三號九月十日  
 郵便電信局 郵便局  
 元逓信管理局ヨリ其區内へ達示シタル報告規程ハ總テ廢止ス  
 郵便電信局 電信局  
 ○公達第三百四拾四號九月十日  
 郵便電信局 電信局  
 元逓信管理局ヨリ其區内へ達示シタル報告規程ハ總テ廢止ス  
 郵便電信局 電信局  
 電信取扱所ハサテ取  
 扱所ヲ除ク

馬場東川崎間ノ鐵道線ヲ分離シ同時回線接續ヲ變更セシニ付電信線名稱及電報中繼局ヲ左ノ通り改正ス

舊 名	稱 名	改正 名	稱 名
回線接續局名	線 名	回線接續局名	線 名
馬場 七條 茨木 大阪 神崎 西宮 三宮 東川崎	馬場東川崎 壹番線	大阪取扱 七條同 大阪電信 神崎取扱 三宮同	大阪馬場鐵 道線 大阪東川崎 鐵道線
馬場取扱 七條同 大阪取扱 西宮同 東川崎同	馬場同 大阪同 東川崎同	馬場取扱 七條同 三宮同	馬場東川崎 鐵道線

馬場 七條 大阪 三宮 東川崎	同 貳番線	馬場取扱 七條同 大阪同 三宮同 東川崎同	馬場東川崎 鐵道線
--------------------	-------	-----------------------------------	--------------

電報中繼局

自 神崎及西宮取扱所 至 全國各局及各取扱所	大阪電信局
自 七條 至 三宮	大阪電信局

○公達第三百四拾五號九月十日  
 郵便電信局 一等局ヲ  
 郵便局 除ク  
 郵便小線路郵便物遞送記使用濟ノ分ハ其區一等郵便電信局又ハ一等郵便局へ回送ス  
 ○公達第三百四拾六號九月十四日  
 郵便電信局 電信局  
 電信取扱所ハサテ取  
 扱所ヲ除ク  
 電報中繼局左表ノ通り心得ヘシ

自 小諸高田間各局 至 柏崎酒田間酒田青森間米澤新庄間及横手 但シ上田ヨリ米澤新庄間及能代以北各局ハ東京ノ 中繼	中繼局
直江津	中繼局



自新橋支局	新橋	取扱所
自榎木支局	榎木	取扱所
自宇都宮佐野間	東	京
自東京以西各局及金澤以西各局八王子松本間並三信濃	東	京
自栃木佐野間	足	利
自新橋村上間各局	東	京
自若松宇都宮間	東	京
自新橋村上間	足	利
自高崎直江津間高岡新潟間	東	京
自宇都宮	足	利
自桐生前橋間	足	利
自宇都宮以北各局及鶴岡以北各局	足	利

電信建築官

郵便電信局 電信局

電信建築官

二十三年公達第百五十五號ヲ以テ改正  
 二十四年公達第百二十二號ヲ以テ改正  
 公達第四百一號ヲ以テ追加  
 公達第四百七十六號ヲ以テ改正

○公達第三百四拾七號 九月十四日  
 電信建築官報告規程別冊ノ通相定ム  
 但別冊ハ別ニ之ヲ頒ツ  
 ○公達第三百四拾八號 九月十四日  
 電信建築工夫備役規則左ノ通相定ム  
 電信建築工夫備役規則  
 第一章 採用  
 第一條 電信建築工夫ニ採用スヘキモノハ左ノ各項ニ合格ノモノニ限ルヘシ  
 第一項 年齢十八年以上四十年以下ノモノニシテ身體強壯品行正シキモノ

第二項 一个年以上電信建築ニ従事シ略シ建柱架線等ノ工事ニ慣熟セルモノ  
 第三項 平易ノ音信文ヲ綴リ得ルモノ  
 第四項 第七條ニ該當スル身元引受人アルモノ  
 第二條 左ノ各項ニ觸ル、モノハ電信建築工夫トナスコトヲ得ス  
 第一項 重罪及盜罪職罪詐欺取財ノ罪ニ付刑ニ處セラレタルモノ  
 第二項 重禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ輕禁錮一ケ年以上ノ刑ニ處セラレ刑期ノ終リシ日ヨリ五ケ年ヲ經過セサルモノ  
 第三項 身代限リノ處分ヲ受ケ未タ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノ  
 第四項 故意ヲ以テ郵便電信ニ關スル罪ヲ犯シ其刑ニ處セラレタルモノ  
 第五項 電信建築工夫ニシテ服務ニ違背シ職務ヲ免セラレ二ケ年ヲ經サルモノ  
 第三條 電信建築工夫ニシテ自身病氣又ハ親族病氣看護ノタメ一旦免職シタルモノハ滿一年以上ヲ經ルニアラサレハ再勤スルヲ得ス  
 第四條 初メテ採用スル電信建築工夫ノ等級ハ五等トス  
 第五條 電信建築工夫ハ成ルヘク所管電信建築區内又ハ其近傍住居ノモノヲ採用スヘシ  
 第六條 電信建築工夫ヲ採用スルトキハ別紙書式ニ依リ身元引受人ノ證書ヲ徴スヘシ  
 第七條 電信建築工夫ノ身元引受人ハ左ノ各項ニ觸レサルモノヲ以テ之ニ充テシムヘシ  
 第一項 無能力者  
 第二項 第二條第一第二第三第四項ニ觸ケタルモノ  
 第三項 土地又ハ家屋ヲ所有セサルモノ及ヒ其採用地近傍ニ居住セサルモノ  
 第八條 電信建築工夫ノ身元引受人左ノ各項ニ觸ル、トアルトハ之ヲ更定セシムヘシ

第一項 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ附セラレタルトキ  
 第二項 故意ヲ以テ郵便電信ニ關スル罪ヲ犯シ其刑ニ處セラレタルトキ  
 第三項 土地又ハ家屋ヲ失ヒタルトキ  
 第四項 失踪又ハ死去シタルトキ  
 第九條 電信建築工夫命免昇等降等増給減給及賞罰ノ辭令書ハ工務局名ヲ以テ之ヲ付與シ請書ヲ徵收スヘシ  
 第二章 等級給料  
 第十條 電信建築工夫ノ等級ヲ分チテ五等トシ賃金ヲ本居就業出張就業本居歸着休業日當ノ四種トス其區別左ノ如シ

等級	本居就業賃	出張就業賃	本居歸着就業賃	休業日當
一等工夫	金四拾五錢ヨリ	金七拾錢ヨリ	金五拾七錢五厘ヨリ	金貳拾五錢
二等工夫	金三拾五錢ヨリ	金六拾錢ヨリ	金四拾七錢五厘ヨリ	金貳拾五錢
三等工夫	金三拾錢ヨリ	金五拾錢ヨリ	金四拾七錢五厘ヨリ	金貳拾五錢
四等工夫	金貳拾五錢ヨリ	金四拾錢ヨリ	金三拾七錢五厘ヨリ	金貳拾五錢
五等工夫	金貳拾錢ヨリ	金三拾錢ヨリ	金三拾七錢五厘ヨリ	金貳拾五錢

右出張就業賃ハ本居就業賃ニ金貳拾五錢ヲ加ヘ本居歸着就業賃ハ本居就業賃ニ金拾貳錢五厘ヲ加ヘタルモノトス  
 第十一條 本居就業賃ハ本居若クハ本居ヘ日歸ノ地ニテ就業スルトキ又出張就業賃ハ一泊以上出張就業スルトキ之ヲ給シ出張先ヨリ本居ヘ歸着ノ日ハ本居歸着就業賃ヲ支給ス  
 第十二條 休業日當ハ一泊以上出張先ニ於テ官ノ都合ニ依リ休業ノ日又ハ同出張先

ニ於テ疾病ニ罹リ休業ノ日之ヲ支給ス  
 但一泊以上出張先ト雖モ疾病外ノ事故ニ依リ本人ニ於テ休業ノ日ハ賃金及ヒ日當トモ支給セズ  
 第十三條 本居出張ヲ間ハス夜間就業十二時ヲ過ケレハ更ニ其本居賃金ノ一日分ヲ給ス  
 第十四條 就業中病氣又ハ不得止事故ニ依リ休業ヲ許シタルトキ其賃金ハ午前ニ在テハ本居就業賃ノ半額午後ニ在テハ其全額ヲ支給ス  
 但出張就業賃ノ割増ハ減給スルノ限ニアラス  
 第十五條 電信建築工夫ニハ本居出張ヲ間ハス靴草鞋費トシテ月額金拾五錢ヲ給與ス尤服務日數三十日ニ滿タスト雖モ全額ヲ給與ス  
 第十六條 電信建築工夫ハ左ノ場合ノ外旅費ヲ支給セズ  
 但旅行中ハ定則旅費ヲ給スルノ外本居就業賃ヲ給ス  
 一 本居替  
 一 第二章等級給料第二十條ノ場合  
 一 壹岐對馬往復  
 一 區外出張  
 第十七條 臨時區内ヘ急行ヲ命シ旅行スルトキハ出張賃金ノ外ニ汽船汽車及車馬賃ノ實費ヲ支給スルコトアルヘシ  
 第十八條 職務ノ爲メ負傷シ休業治療スルモノハ其時々詮議ノ上其給料ハ本居出張トモ各其就業賃ヲ支給スルコトアルヘシ  
 第十九條 出張先ニ於テ疾病ニ罹ルモノ治療三十日以内ハ休業日當トシテ金貳拾五錢ヲ支給ス  
 第二十條 前條三十日ヲ經過スルモ尙平癒セサルカ若クハ三十日以内ト雖モ急速平癒ノ見込ナキモノハ定則ノ旅費ヲ給シ本居ニ送還スルコトアルヘシ其病危篤ニシテ

送還スルヲ能ハサルモノハ更ニ十五日ヲ限リ加療スルヲ許シ休業日當チ支給ス  
 但右十五日ヲ過キ尙其地ニ留リ加療又ハ其本居ニ歸ランコトヲ請フモノハ之ヲ  
 許ス此場合ニ於テハ旅費日當ハ共ニ給セス  
 第二十一條 第五十七條ニ依リ休息ノ日ハ本居就業賃ヲ支給ス  
 第二十二條 初メテ採用スル電信建築工夫ノ給料ハ五等工夫給料額ノ範圍内ニ於テ  
 之ヲ定ムルモノトス  
 第二十三條 電信建築工夫ハ左ニ記載スル年限ヲ超ユルノ後ニアラサレハ昇等又ハ  
 増給スルコトヲ得ス

等級	昇給年限				
	一	二	三	四	五
増給年限	二年	一年半	一年	一年半	一年

第二十四條 最高ノ賃金ヲ受クル電信建築工夫ニシテ平素ノ勤向拔群ナルモノハ第  
 十條ノ區別ニ拘ハラズ漸次本居就業賃金七拾錢マテテ限リ増給スルコトヲ得  
 第二十五條 増給減給ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ之ヲ支給ス  
 但免雇ノ者ハ辭令交付ノ日マテ勤務ニ應シ支給ス  
 第二十六條 電信建築工夫ニシテ自身病氣又ハ親族病氣看護ノタメ一旦辭職セシモ  
 ノヲ再ヒ採用スルトキハ舊ニ業務勉勵ノモノニ限リ前等給料以下ヲ以テ適宜之ヲ  
 定ムルモノトス  
 但本條ノ事項ニ依リ辭職シタルモノハ外本人ノ都合ニ依リ辭職セシモノヲ再ヒ  
 採用スルトキハ其等級ハ第四條ニ準シ五等トス  
 第二十七條 非常ノ節拔群ノ勞働ヲナシタルトキ若クハ建築工事中特ニ勉勵シタル  
 モノハ貳圓以内ノ手當金ヲ支給ス

但本條後段ノ事由ニ依リ支給スルモノハ一工事一回ヲ超ユヘカラス  
 第二十八條 勤續滿十年以上ノモノ免雇若クハ死亡ノトキハ其年數ニ應シ一時限リ  
 左ノ金額ヲ支給ス其不正當ノ所爲ニ依リ免雇シタルモノハ之ヲ支給セス  
 十五年未滿 二十五年以上  
 二十年未滿 二十五年以上  
 金拾圓以内 金貳拾圓以内 金三拾圓以内  
 第二十九條 職務ノ爲メ死亡シ又ハ負傷シ官役人夫死傷手當規則ニ照ラシ相當ノ金  
 額ヲ支給シ免雇シタルトキト雖モ尙前條ノ金額ヲ給ス  
 第三章 被服貸與  
 第三十條 電信建築工夫ニハ制服ヲ貸與スヘシ  
 但制服ハ別紙圖式ノ如シ

品目	員數	保存期限
帽子	一個	一ケ年
帽子日覆	一個	一ケ年
法被	一枚	六ケ月
外套	一枚	二ケ年
腹引	一枚	六ケ月

第三十一條 制服ハ職務ニ服スルトキノ外著用スヘカラス  
 第三十二條 制服ノ保存期限ヲ經過シタルトキハ更ニ新品ト引換フヘシ尤期限經過  
 後ニ係ルモノト雖モ其用ニ耐ルモノハ新品ト共ニ尙貸與スヘシ  
 第三十三條 貸與中ハ大切ニ取扱ヒ若シ汚穢毀損シタルトキハ其時々自費ヲ以テ補  
 綴洗淨スヘシ但保存期限經過後ノ法被ニ限リ其袖ヲ筒形ニナスモ妨クナシト雖モ  
 其餘ハ總テ變更スルヲ得ス  
 第三十四條 電信建築工夫昇等若クハ降等シタルトキハ貸與ノ法被襟印ノ横筋ヲ其  
 級相當ノ數ニ自費ヲ以テ縫足シ或ハ縫履スヘシ

第三十五條 保存期限ノ經過シタル制服補綴洗滌スルモ用ニ耐ヘサルニ至レハ之ヲ返納スヘシ但徵章ノミヲ返納スルモ妨ケナシ

第三十六條 制服ハ保存期限中及期限經過後ノモノトモ本人死亡又ハ其職務ヲ罷免シタルトキハ直ニ之レヲ返納スヘシ

第三十七條 保存期限中制服ヲ遺失シ又ハ盜難ニ罹リタルトキ若シクハ汚穢毀損シ洗淨補綴スルモ用ニ耐ヘスト認ムルトキハ相當代價ヲ辨償セシメ代品ヲ貸與スヘシ但不注意ニ出テタルコト明瞭ナルモノハ詮議ノ上特ニ其辨償ヲ免スヘシ

第三十八條 前條ノ辨償ハ新調代價ヲ保存期限ノ日數ニ割合ヒ貸與シタル日ヨリ辨償ヲ命シタル日マテヲ控除シ其殘日數ニ相當スル代價ヲ納付セシムヘシ

第三十九條 辨償ニ係ル代品新調貸與シタルトキハ其日ヨリ保存期限ヲ起算スルモノトス

第四章 服務

第四十條 電信建築工夫ハ電信建築官ノ命ヲ受ケ電信線路ノ看守及電信建築ノ工事等ニ従事スルモノトス

第四十一條 電信建築工夫ハ常ニ行狀ヲ正シクシ所屬官吏ニ對シ敬恭ヲ加フヘキハ勿論何人ニ對シテモ粗暴又ハ威權ケ間敷行爲ヲナスヘカラス

第四十二條 電信建築工夫ノ服務年限ハ十八歳ヨリ五十歳マテトス但身軀強壯ニシテ其職務ニ耐ユルモノハ尙勤績モシムルコトアルヘシ

第四十三條 電信建築工夫ノ通常就業時間ハ午前六時ヨリ午後六時マテトス尤モ工事ノ都合ニ依リ電信建築官ニ於テ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第四十四條 電信建築工夫ハ就業中必ス制服ヲ著ケ靴若クハ草鞋ヲ穿ツヘシ

第四十五條 制服ハ正シク之ヲ著裝スヘシ決シテ制服ノ上ニ他服ヲ著ケ又ハ襟卷ヲナシ手傘等ヲ携フヘカラス

第四十六條 病氣其他不得止事故アリテ就業スルコト能ハサルトキハ其旨速ニ電信

建築官ヘ届ケ出ツヘシ

第四十七條 身分上ニ異動(轉籍又ハ家名相續其他發子等ノ類ヲ云フ)アリタルトキ又ハ貧困(貧ハ火災水溺急病等ヲ救護シタル等ヲ云フ)間ハ遠輕罪ヲ云フ)ヲ受ケタルトキ及轉居ノ節等ハ速ニ電信建築官ヘ届出ヘシ

第四十八條 電信線路看守從事ノモノハ毎旬少クモ二回以上其受持線路ヲ巡視スヘシ

第四十九條 電信線路ノ看守ニシテ陸路十里以内ノ巡回ハ故ナク途中ニ宿泊スルヲ得ス

第五十條 水底線看守從事ノモノハ成ルヘク陸揚場近傍ニ居住シ日々巡視スヘシ

第五十一條 電信建築用器械物品ハ總テ大切ニ之ヲ取扱ヒ且ツ尋常保守用トシテ受取置キタルモノハ本居ノ地ニ於テ濕氣ナキ場所ヲ撰ミ之ヲ貯藏スヘシ

第五十二條 電信建築工夫電信線路巡回ノ節ハ腕木碍子并ニ線條ノ繼目等ニ注意シ若シ損所アル時ハ之ヲ修理シ且ツ紙膏樹枝蠟網其他雜物ノ線條或ハ碍子ニ纏繞スルヲ發見セハ直ニ之ヲ除去シ又電柱ノ腐朽其他ノ爲メニ危險ノ恐レアルモノヲ見

當リタルトキハ速ニ電信建築官ヘ届出ヘシ

第五十三條 電信建築工夫ハ電信線路ノ損所ヲ修繕セシトキハ其模様及時刻ヲ記載シ速ニ電信建築官ヘ届出ヘシ

第五十四條 電信建築工夫ハ電信線路非常ノ損害ニ罹リタルトキハ直ニ之カ假修繕ニ著手シ同時ニ其旨ヲ電信建築官ニ届出ヘシ

第五十五條 電信建築工夫ハ電信線路巡回并ニ建築ニ従事シタル事柄ヲ一句毎ニ就業届書ニ記載シ電信建築官ヘ差出スヘシ

但就業届書式ハ電信建築官ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第五十六條 電信建築工夫ハ尋常保守用トシテ受取置キタル電信建築用器械物品受拂ノ數量及ヒ事由ヲ一个月毎ニ記載シ電信建築官ニ差出スヘシ

但受拂書式ハ電信建築官ノ定ムル所ニ依ル

第五十七條 電信建築工夫ハ本居ニ在テ大祭日并ニ日曜日ニ當リ天氣平穩且電信線路ニ異狀ナキトキハ電信建築官ノ許可ヲ得テ休息スルコトヲ得

第五十八條 前條件外ノ事ハ其時々電信建築官ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十九條 電信建築工夫ハ左ニ記載シタル所爲アリト認ムルトキハ其職務ヲ免ス

一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 職務ニ背キ電信建築官ノ命ニ從ハサルトキ

三 職務怠慢ニシテ矯正ノ見込ナキトキ

第六十條 電信建築工夫ハ左ニ記載スル所爲アリト認ムルトキハ其情狀ノ輕重ニ依リ降等又ハ減給ヲ命ス

一 電信線路不通ノ際障礙ヲ見落シタルモノ

二 前條第二項ニ比シ輕キモノ

三 品行正シカラサルモノ

第六十一條 電信建築工夫前條ニ記載スル所爲アリト雖モ其情狀ノ最モ輕キモノハ本居就業賃二分ノ一ヲ減シ之ヲ罰使ス

第六十二條 不注意ノ爲メ建築用器械物品ヲ破損シ又ハ遺失シタルモノハ其價格ヲ辨償セシム

(別紙)

(電信建築工夫身元引受證書式)

身元引受證

何府縣何國郡市區町村番地

又ハ何番地何某方(同居)

戶主又ハ戶主長男次男等

族籍

證券  
印紙

右ノ者電信建築工夫ニ御採用被成下候ニ付テハ私儀身元引受人ニ相立本人ヲシテ御規則堅ク相守リ誠實ニ勤務爲致且ツ本人ニ關スル一切ノ事件ハ自今私ニ於テ引受可申候也

年 月 日

何地電信建築區

電信建築長氏 名 殿

何府縣何國郡市區町村番地住

族籍

身元引受人

氏 名 年 齡

氏 名 印

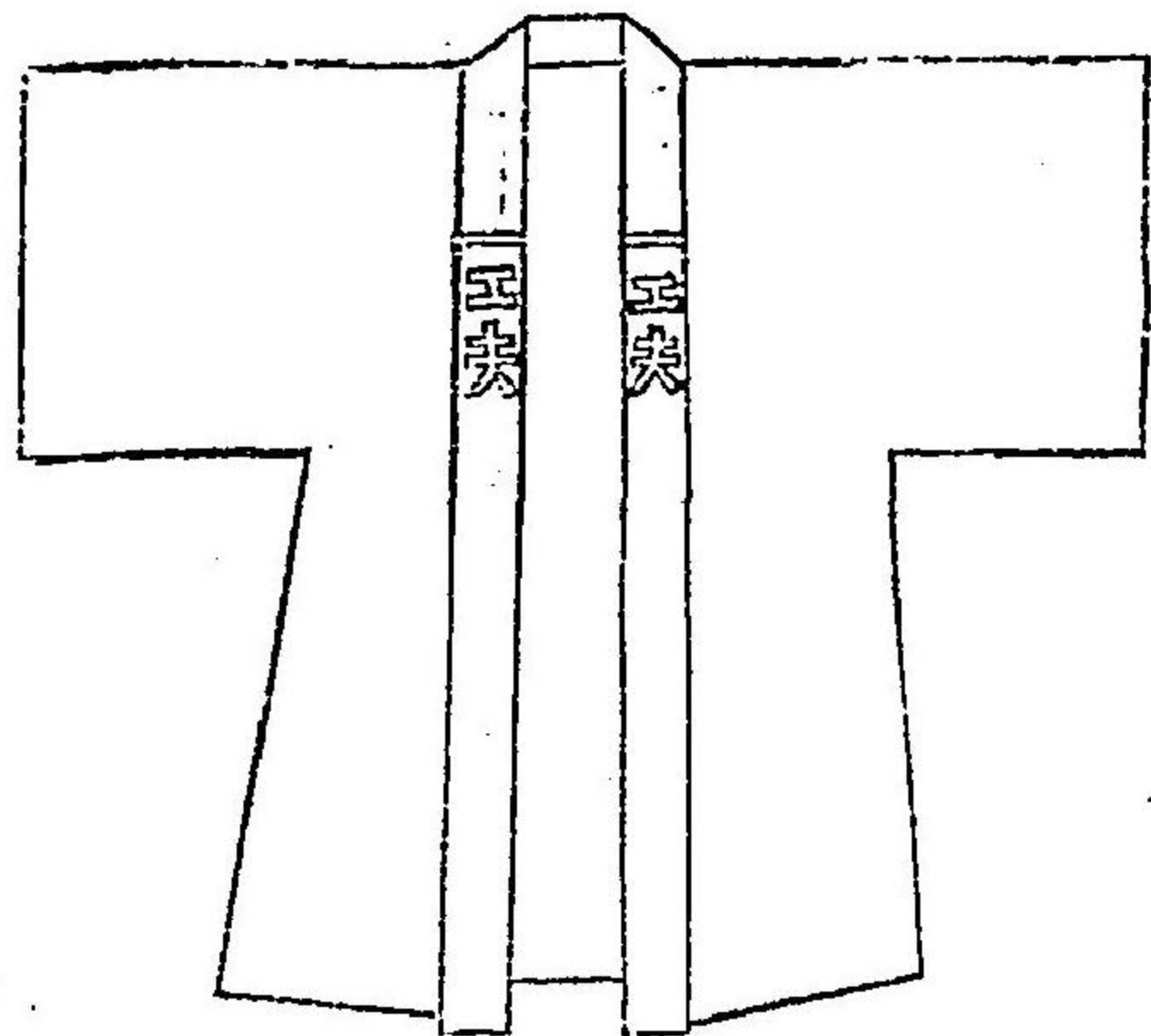
(別紙)

法  
地質  
丈  
行  
袖  
口  
及  
層  
單  
單  
淺  
藍  
木  
綿  
織  
二  
尺  
四  
寸  
一  
尺  
七  
寸  
八  
分  
一  
寸  
七  
分  
一  
尺  
五  
分  
一  
寸  
八  
分  
一  
寸  
七  
分  
一  
尺  
五  
分  
一  
寸  
八  
分  
一  
寸  
七  
分  
一  
尺  
五  
分  
一  
寸  
八  
分  
一  
寸  
七  
分  
一  
尺  
五  
分

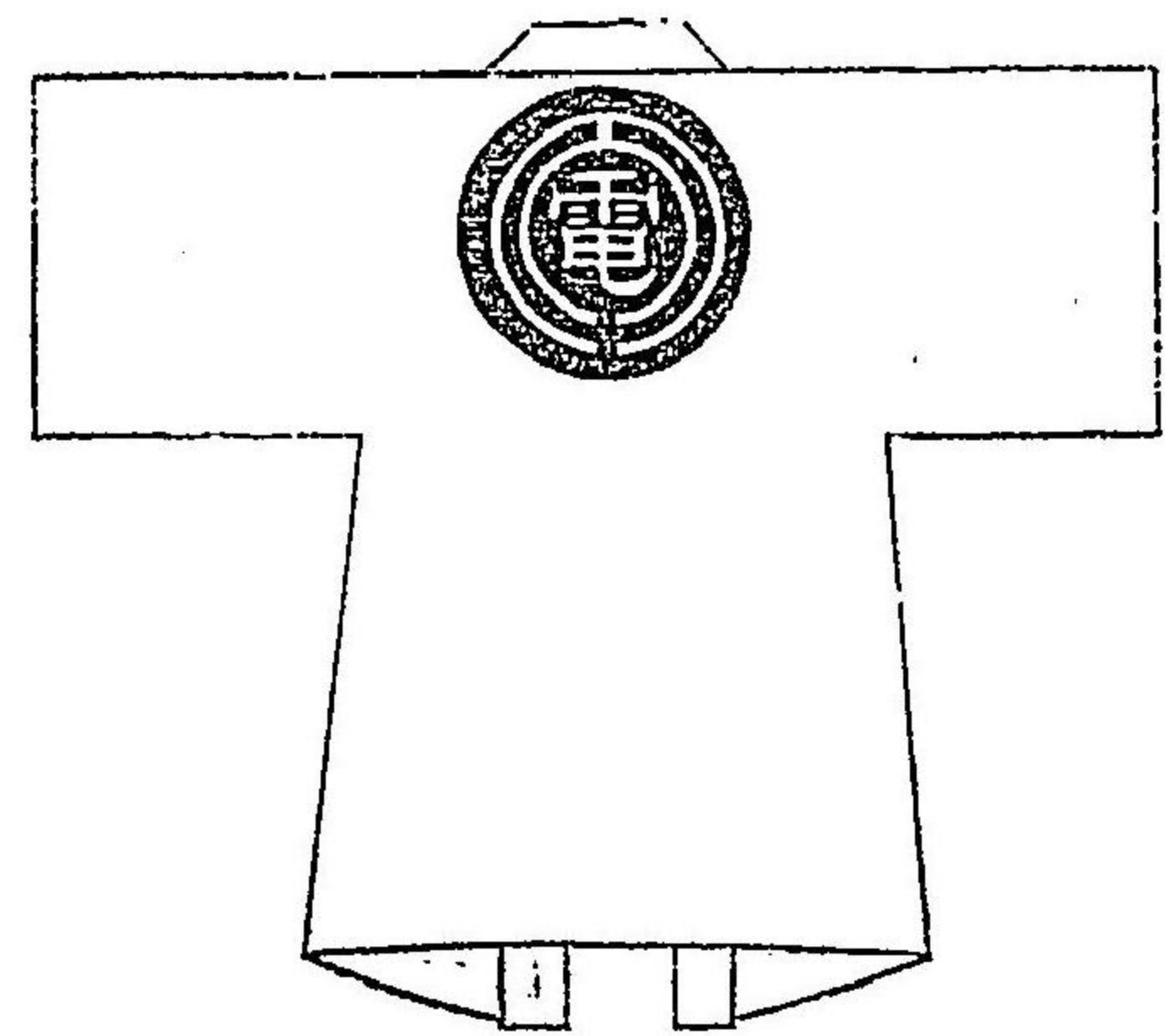
法被  
表面

但  
質  
口  
及  
層  
單  
單  
淺  
藍  
木  
綿  
織  
二  
尺  
四  
寸  
一  
尺  
七  
寸  
八  
分  
一  
寸  
七  
分  
一  
尺  
五  
分  
一  
寸  
八  
分  
一  
寸  
七  
分  
一  
尺  
五  
分

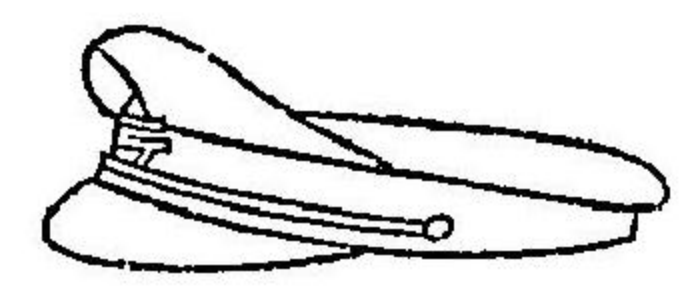
但  
質  
口  
及  
層  
單  
單  
淺  
藍  
木  
綿  
織  
二  
尺  
四  
寸  
一  
尺  
七  
寸  
八  
分  
一  
寸  
七  
分  
一  
尺  
五  
分  
一  
寸  
八  
分  
一  
寸  
七  
分  
一  
尺  
五  
分



法被  
裏面



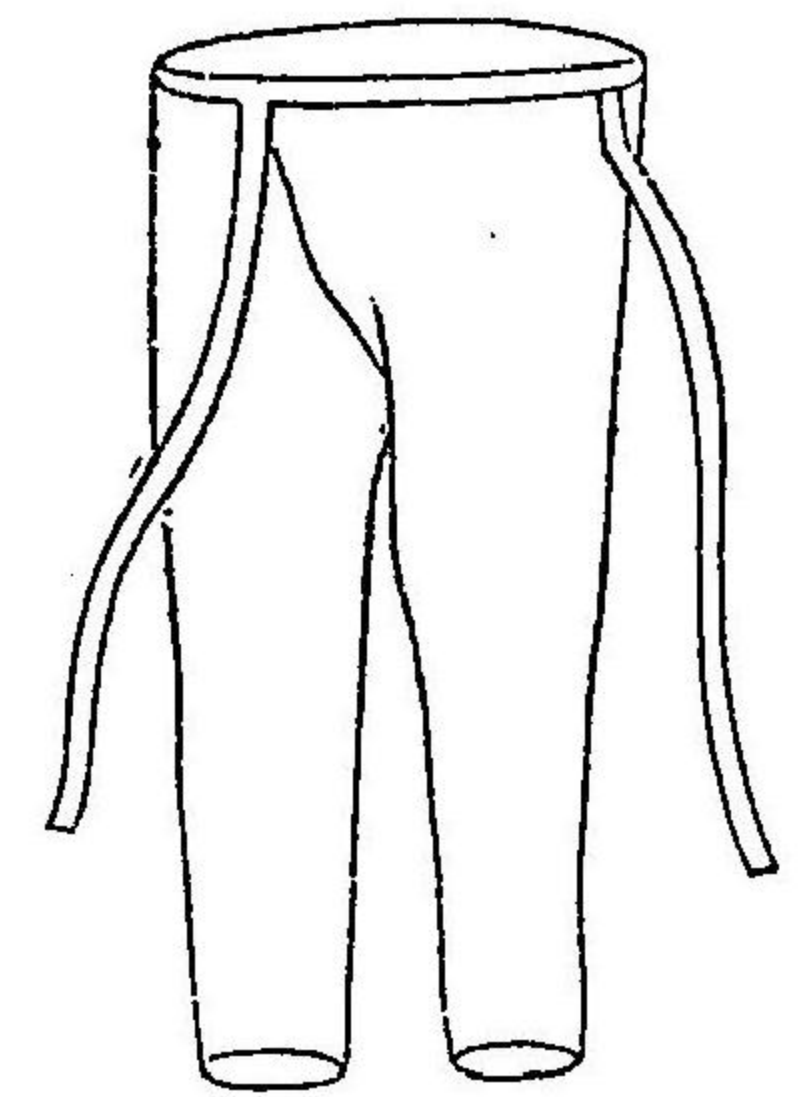
帽子  
地質 黒羅紗  
目底及紐 黒塗革  
紐付釦 眞鍮  
徽章 曲尺  
一寸七分  
太サ 同  
五層 同  
横二線ノ明キ  
同五層



帽子目覆ノ製法ハ  
地質白金巾ヲ以テ  
全部ヲ覆ヒ徽章ト  
目底ハ顯ハスヘシ

股引

紺木綿  
但シ綿淺  
裏付木シ  
黄木綿



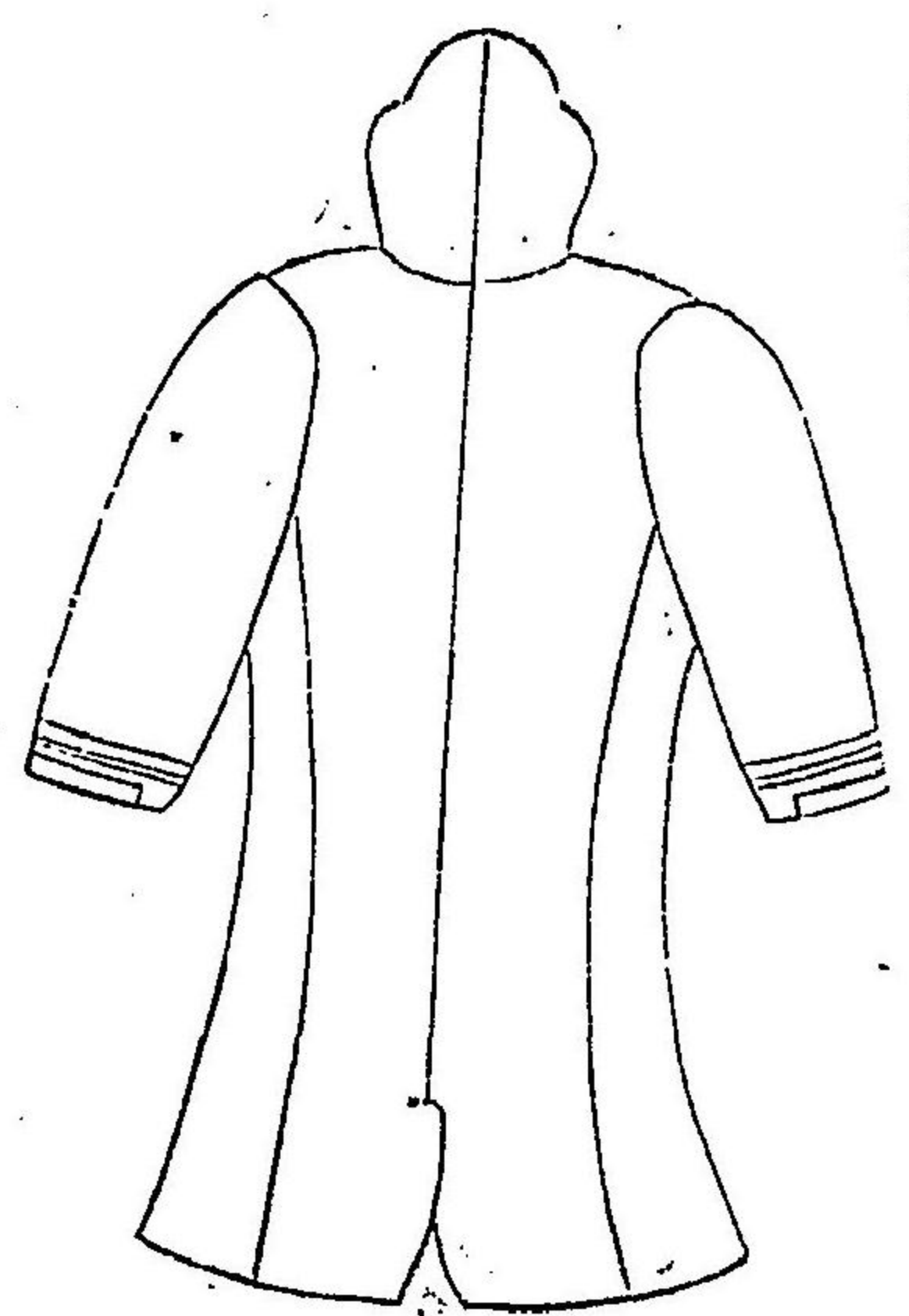
外套

地質 黒又ハ紺羅紗  
丈ク 膝下、鯨尺三寸  
徽章 袖先明キ曲尺  
二寸  
太サ 曲尺五分横  
二線明キ  
曲尺二分五厘  
但緋絨ヲ用ユ

外套表面



外套裏面



○公邊第三百四拾九號九月十四日 郵便電信局 電信局  
 明治二十一年三月公邊第五拾八號郵便電信局電信局電機通信技手定員表中函館郵便  
 電信局定員貳名及青森郵便電信局定員貳名ヲ増員ス 郵便電信局 電信局  
 ○公邊第三百五拾號九月十四日 郵便電信局 電信局  
 明治二十一年三月公邊第五拾九號郵便電信局電信局電機通信技手宿直定員表中函館  
 郵便電信局宿直定員貳名及青森郵便電信局宿直定員壹名ヲ増員ス 郵便電信局 電信局  
 ○公邊第三百五拾壹號九月十四日 郵便電信局 電信局  
 電機通報用機械ノ修繕ヲ要スルモノアルトハ自今會計局ヘ廻送スヘキ義ト心得ヘシ  
 ○公邊第三百五拾貳號九月十四日 郵便電信局 郵便局  
 官有土地建物船舶増減及諸車輛數別紙甲號表式ニ準シ調製左ノ期日迄ニ一等郵便電  
 信局郵便局ニ差出スヘシ  
 但土地建物増減ハ本年一月ヨリ九月ニ至ル船舶増減ハ一月ヨリ七月ニ至ル分本年  
 十月報告ノ際併セテ報告スヘシ  
 一等郵便電信局郵便局ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ更ニ別紙乙號表式ニ準シ調製  
 左ノ期日迄ニ本省ニ報告スヘシ  
 但三等郵便電信局ヘ貸與ノ局舎ハ一等局ニ於テ自局ノ分ト區別シ調製スヘシ  
 報告區分及發送期日  
 件名 報告區分 各局發送期日 一等局發送期日  
 土地増減報告 三月報 四月、七月、十月、十一月十五日  
 建物増減報告 同 同 同 同  
 船舶増減報告 半年報 同 同  
 諸車輛數報告 同 同 同 同  
 (別紙)

甲一 某局土地増減報告									
摘要	所在地名	坪數	地價	比隣相當代價	購買(賣却)代價	購買(賣却)年月日	増減事由	摘要	増減
							某局新築ニ付敷地トシテ購買ス (某局土庫新築又ハ物置増築敷地 狹隘ニ付購求)		
							某局何町村何番地ヘ移轉本地不 用ニ付又ハ附屬地不用ニ付賣却		
増之部ハ土地百分ノ一又ハ二百分一ノ縮圖道路溝川比隣地記載ヲ要ス添付スヘシ									

甲二 某局建物増減報告									
摘要	増減部	煉瓦造	石造	木造(又ハ土)	建築費				
倉庫	坪數	坪數	坪數	坪數	坪數				
事務舎	坪數	坪數	坪數	坪數	坪數				
倉庫	坪數	坪數	坪數	坪數	坪數				

附屬舍	官舍	計	所在地名	落成年月日	事由	減之部		所用物種別		事務舍	倉庫	附屬舍	官舍	計	所在地名	買却年月日	事由
						煉瓦	石	木	造								
						坪數	坪數	坪數	坪數								
						代價	代價	代價	代價								
						坪數	坪數	坪數	坪數								
						代價	代價	代價	代價								
						坪數	坪數	坪數	坪數								
						代價	代價	代價	代價								
						坪數	坪數	坪數	坪數								
						代價	代價	代價	代價								

増之部ハ建物百分一ノ縮圖ヲ添付スヘシ

甲三

某局船舶増減報告														明治何年自何月				
増之部							減之部											
所用局名	船名	船種	丈			機關	裝帆	橋數	船質	船種	船名	所用局名	噸數	總噸數	噸數	總噸數	買却年月日	買却代價
			深	幅	長													



甲四

某局諸車輛數報告										明治何年何月末日調		
摘要										員數		
郵	馬	郵	便	便	便	便	便	便	便	便	便	便
二匹立	一匹立	六積	四積	大形	小形	輪	二乘	一乘	一乘	一乘	一乘	一乘
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一郵便車ハ荷數ノ異ナル毎ニ欄ヲ増設スヘシ 一同函車大形ハ凡幅二尺横幅二尺六寸高サ一尺七寸五分小形ハ凡幅一尺七寸六分横幅二尺高サ一尺二寸六分トシ多少ノ廣狹ハ之ニ準シテ記載スヘシ 一三輪車ハ汽車停車場内ニ於テ運搬ニ要スルゴム輪製等ノ類ヲ云フ												

乙一 某一等郵便電信局區内各局土地増減報告 明治何年自何月至何月

縣		縣		縣		縣		縣		縣	
某	某	某	某	某	某	某	某	某	某	某	某
局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪
數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數
地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地
價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價
比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比	比
隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣
相	相	相	相	相	相	相	相	相	相	相	相
代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代
買	買	買	買	買	買	買	買	買	買	買	買
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
却	却	却	却	却	却	却	却	却	却	却	却

乙二 某一等郵便電信局區内各局建物増減報告 明治何年自何月至何月

増之部ハ土地百分ノ一又ハ二百分一ノ縮圖道路溝川比隣ヲ添附スヘシ

減之部



縣		某		局		減之部		製造所	
量	丈	船種	船名	深	幅	長	機關	製造年月日	製造所
								買入代價	新造費
								買入年月日	製造年月日
								買入代價	新造費
								買入年月日	製造年月日

乙四

某一等郵便電信局區内各局諸車輛數報告 明治何年何月末日調

縣	某	局	郵便馬車		郵便棧車		郵便函車		三輪		人力車		計
			立二匹	立一匹	積六荷	積四荷	大形	小形	乘二人	乘一人			

○公達第三百五拾三號九月十四日

郵便電信局 郵便局 郵便貯金預所

爲替ヲ取扱フ局ニ於テ拂渡スヘキ貯金即時拂ニ對スル拂戻資金ハ自今振替爲替ヲ以テ交付セス通常貯金拂戻金同様自局爲替資金ノ内ヨリ拂渡スヘキモノトシ本年(八月)公達第三百五拾八號貯金即時拂規程中左ノ通改正ス

第四條 無爲替局所ニ於テ即時拂ニ要スル拂戻資金ハ拂戻證書發行ノ都度一等局長之ヲ自局爲替資金ヨリ差繼拂ト爲シ振替爲替ヲ以テ其拂渡局所ニ送付スルモノトス

同第十條第一項改正

第十條 其區内局所ヨリ即時拂願書等ヲ差出シタルトキハ此規程ニ照シテ其願書等ヲ調査ノ上第七號甲拂戻證書及乙拂戻報知書ヲ調製シ甲ハ拂戻願人ニ乙ハ其拂戻願書并無爲替局所ナレハ其拂戻資金トモ添ヘ拂渡局所ニ送付スヘシ

郵便電信局 郵便局 電信局 電信建築官

郵便條例第二百四十條ノ犯罪ニ付テハ不納金額賠償ノ私訴ヲ併セ告訴スヘシ其他ノ犯罪ニシテ損害賠償ヲ要スルモノハ其事由申出テ指揮ヲ俟テ告訴スヘク其犯人逃走證據湮滅ノ懼アルモノハ便宜告訴ノ手續ヲナシ其旨速カニ具申スヘシ但二等局以下ノ各局長ニアリテハ犯人逃走證據湮滅ノ懼アル場合ヲ除クノ外其區一等局長ニ申出テ指圖ヲ得テ告訴スヘシ

○公達第三百五拾五號 九月十九日

郵便電信局 郵便局  
電信局 電信建築官

郵便并電信ニ關スル犯罪者ニシテ裁判宣告アリタル時ハ別紙様式ニ準シ各事項取調  
差出スヘシ  
別紙

郵便犯罪表	明治 年 月 日
被告人氏名年齢住所身分職業	
告發シタル年月日	
遞信事務ニ關係ノ有無	
受刑ノ度数	
郵便電信ニ係ル受刑ノ度数	
犯罪事故摘要	
法律ノ正條及刑期金額其他無罪免訴	
私訴ニ對スル裁判ノ摘要	
宣告年月日	

備考 遞信事務ニ關係有無ノ欄其關係アルモノハ其職掌ヲ詳記スヘシ

私訴ニ對スル裁判ノ摘要ノ欄ハ附帶ノ私訴ヲナシタルモ其裁判ノ摘要  
ヲ記載スヘシ

○公達第三百五拾六號 九月十九日

郵便電信局 爲替ヲ取  
局 爲替ヲ取  
局 爲替ヲ取

貯金拂戻報知書拂渡期限ヲ經過スルカ又ハ拂戻證書紛失等ノ爲メ該報知書及ヒ其他  
ノ書類ヲ返納セントスルトキハ自今貯金事務順序第二十三條及ヒ第二十五條第三項  
ノ手續ニ依ラス其儘爲替貯金局又ハ同出張所(受持區域ノ別ニ依ル)ニ廻送スヘシ

○公達第三百五拾七號 九月十九日

郵便電信局 爲替ヲ取  
局 爲替ヲ取  
局 爲替ヲ取

爲替事務日誌(ラ號)ハ自今爲替貯金事務日誌ト改稱候條左ニ掲ケル事項ノ要綱ヲモ登  
録スヘシ

一貯金事務順序第二十二條ニ據リ貯金拂戻報知書ヲ返納スルトキ

一貯金拂戻證書紛失等ノ爲メ再度證書ノ發行ヲ要シ之ニ對スル報知書ヲ返納スル  
トキ

右ノ外貯金取扱上登録ヲ必要トスル件

郵便電信局 郵便局  
郵便貯金預所

○公達第三百五拾八號 九月十九日

郵便爲替貯金取扱時限左ノ通之ヲ定ム

七月十一日ヨリ 午前八時ヨリ正午十二時迄

九月十一日ヨリ 午前九時ヨリ午後三時迄

七月十日マテ 午前九時ヨリ午後三時迄

郵便電信局 電信局  
電信取扱所 爲替ヲ取  
局 爲替ヲ取

○公達第三百五拾九號 九月十九日

電話機電報送受手續左ノ通相定ム

電話機電報送受手續

第一條 凡電話機ニ依リ電報ヲ傳送セントスルトキハ先ツ送信局ヨリ電鈴ヲ連鳴シ  
受信局ノ應答ヲ得タル後電話スヘシ

第二條 受信局ニ於テハ送信局ヨリ電鈴ヲ連鳴シ來ルトキハ直ニ電鈴ヲ以テ應答シ  
而シテ其電話ヲ聴取リ筆記スヘシ

第三條 電報送信者ハ務メテ聲音ヲ明瞭ニシ一字句毎ニ受信者ノ承諾ヲ得テ電話ス  
ヘシ

- 第四條 電報受信者ハ一字句ノ筆記ナ了リタル毎ニ領諾ノ旨ヲ告クヘシ若シ電話中不明瞭ノ廉アルトキハ質問ヲナシ明瞭シタル上筆記スヘシ
- 第五條 電報ノ送受者ハ電話ヲ始ムル前五ニ其姓名ヲ通シ各之ヲ電報原書ノ欄外ニ記入スヘシ
- 第六條 電報ヲ傳送スルハ左ノ順序ニ依ルヘシ
  - 一 電報ノ種類(官報、局報、私報ヲ云フ)
  - 二 電報ノ番號
  - 三 發信局名
  - 四 受付ノ月日(當日ノ電報ニハ之ヲ送ルニ及ハス)
  - 五 受付ノ時分
  - 六 電報ノ字數
  - 七 著信局名
  - 八 受信人名所
  - 九 發信人名所
  - 十 指定(至急官私報、照校其他配達方等ノ指定アルモノハ此處ニ傳送ス)
  - 十一 電報ノ本文
  - 十二 局内心得ノ事件アルトキハ此處ニ傳送ス
- 又左ニ記載スル第一第二ハ電報種類ノ前ニ第三乃至第九ハ其事項ノ電話ニ移ル前ニ第十ハ電話ノ終リニ各下部ニ記載スル添語ヲ用ユヘシ
- 一 受信局ノ著信トナルヘキモノハ (著信)
- 二 受信局ノ中繼トナルヘキモノハ (中繼)
- 三 電報本文ハ (本文)
- 四 數字ハ (數字)
- 五 秘辭ハ (秘辭)

- 六 秘辭中ノ數字ナ了リ片假名ノ秘辭ニ移ルトキハ (片假名)
- 七 數字又ハ秘辭ナ了リ更ニ普通辭ニ移ルキハ (普通辭)
- 八 新章ハ (新章)
- 九 局内心得ノ事件ヲ送ルトキハ (局内心得)
- 十 電話ヲ終リタルトキハ (終リ)
- 第七條 電話ハ指定ト雖モ略符號ニ依ラス純テ通常語ヲ用ユヘシ
- 第八條 片假名ヲ以テ記載シタル秘辭ハ第六條ニ依リ添語ヲ用ヒタル後其誤謬ヲ防ク爲メ左表ニ依リ番號數ヲ以テ電話スヘシ又音聲ノ混同シ易キモノハ更ニ番號數ヲ以テ辨明スヘシ

片假名番號表

番	一	二	三	四	五
外	ア カ サ タ ナ ハ マ ヤ ラ シ	イ キ シ チ ニ ヒ ミ ○ リ 井	ウ ク ス ツ ノ フ ム ユ ル ○	エ ケ セ テ 子 ヘ メ ○ レ エ	オ コ ソ ト ノ ホ モ ヨ ロ ナ

二十四年公達第六十七號ヲ以テ廢

假令ハ(レ)クト電話スルニハ九ノ四、二ノ三、ト呼ビ(ヘ)ンジト云フトキハ(シ)ハ三ノ二濁ト辨明スルノ類

第九條 電報ハ其種類ノ何タルニ拘ハラズ悉ク反復照校スヘシ  
但照校ノトキハ必スシモ第八條ノ番號致テ用ユルニ及ハス

第十條 前各條ニ記載スル事項ノ外ハ一般電報取扱方ノ例ニ依ルヘシ

○公達第三百六拾號 九月十九日 郵便電信局<sup>三等局</sup> 郵便局<sup>ヲ除ク</sup>

從來所轄遞信管理局ヘ請求シタル墨消滅却切手ハ三ヶ月分宛取繼メ本年九月一日以降(八月以前ニ屬スルモノニシテ請求未済ノモノ亦同シ)其區一等郵便電信局(沖繩縣下ハ一等郵便局)ニ請求スヘシ

○公達第三百六拾壹號 九月十九日 郵便電信局 信局

明治二十一年三月公達第五拾八號郵便電信局電信局電機通信技手定員表中新潟郵便電信局定員一名ヲ増員ス

○公達第三百六拾貳號 九月二十一日 郵便及電信局<sup>三等局</sup> 郵便局<sup>ヲ除ク</sup>

其局備附ニ屬スル圖書ハ洋書和漢書ノ二類ニ分チ各類毎ニ番號ヲ設ケ別紙様式ニ據リテ其目錄ヲ調製シ來ル十月三十日迄ニ該目錄原本ヲ差出スヘシ又自今増加若クハ減少ニ係ル分ハ毎年度末現在ニ依リ取調ヘ翌月二十日迄ニ別紙様式ニ依リ其増減表ヲ作り差出スヘシ

(別紙)

圖書目錄		和漢書之部	
圖書番號	圖書名	著者氏名	出版年月册數

圖書增減表		和漢書之部		明治何年度分		何郵便電信局	
圖書番號	圖書名	著者氏名	出版年月	册數	事由		

洋書之部

著者氏名譯文	著者氏名原文	出版地名	出版年月

明治何年度分

何郵便電信局

著者氏名譯文	著者氏名原文	出版地名	出版年月	事由

圖書 目錄

圖書番號	圖書譯名	圖書原名	冊數

圖書增減表 洋書之部

圖書番號	圖書譯名	圖書原名	冊數

○公達第三百六拾三號九月二十一日  
 證書金取扱方左ノ通相定ム  
 一 證書金ハ現金代用ノモノニシテ金庫ニ關セズ證書ヲ以テ受入其儘拂出スモノトス  
 一 證書金ハ現金同一ニ取扱諸帳簿各科目ニ記入シ現金出納簿ノ統括ニ限リ現金ト證書金ト區分スルモノトス

郵便電信局(三等局)ヲ除ク

一二等郵便電信局以上ニ於テ調製スル現金出納表ハ計ノ下ニ朱ヲ以テ現金ト證書金ト區分内譯ヲ付スヘシ  
 ○公達第三百六拾四號九月二十一日  
 郵便電信局 郵便局  
 郵便貯金預所

三等郵便電信局長郵便局長郵便貯金預所取扱人爲替貯金事務受渡順序左ノ通之ヲ定ム  
 但十八年七月元隠遞局甲第百六拾號及十九年一月甲第百六號達ハ廢止ス  
 爲替貯金事務受渡順序

第一條 三等郵便電信局長以下單ニ三等局長ト記ス又ハ貯金預所取扱人(以下單ニ取扱人ト記ス)ノ變更アルトキハ其區一等郵便電信局郵便局(以下單ニ一等局ト記ス)ニ於テ爲替貯金事務受繼屆書用紙(ノ號式紙又貯第五五號式紙)ヲ其局所ニ交付スヘシ

第二條 前條屆書用紙ノ交付ヲ受ケ事務ノ受繼ヲ爲ストキハ舊三等局長又ハ取扱人ハ先ツ之ニ爲替貯金現在金高爲替貯金未拂報知書現在高爲替貯金通帳未使用高ヲ始メ爲替貯金ニ屬スル帳簿用紙器具等ヲ詳細ニ記載シ新三等局長又ハ取扱人ハ之ヲ現金及ヒ其他ノ物品ニ對照シ然ル後新舊三等局長又ハ取扱人并其身元引受人各連署シ之ヲ其區一等局ニ差出スヘシ

第三條 舊三等局長又ハ取扱人ハ特ニ事務受繼ノ當日ヲ區切り爲替貯金精算表(ノ號式紙)又ハ貯金精算表(貯第三七號式紙)ヲ調製シ受持區域ノ別ニ從ヒ爲替貯金局又ハ其出張所ニ差出スヘシ

第四條 一等局ニ於テ第二條ノ爲替貯金事務受繼屆書ヲ受ケタルトキハ左ノ諸件ヲ除キ帳簿用紙器具等ノ員數ヲ調査シ之ニ檢印シ受持區域ノ別ニ從ヒ爲替貯金局又ハ其出張所ニ回送スヘシ  
 一 爲替貯金現在金高

- 一 爲替貯金未拂報知書現在高
- 一 爲替證書用紙未使用高

○公達第三百六拾五號九月二十一日

本年(八月)公達第三百貳拾貳號ニ依リ郵便受取所ノ移轉ヲ具申シタルキ其町村内ニシテ所名ノ改稱ヲ要セサルモノハ之カ便否ヲ調査シ其局ニ於テ許否スヘシ但シ許可シタルキハ其旨本大臣ニ報告スヘシ

○公達第三百六拾六號九月二十一日

郵便電信局 二等局  
郵便局 除ク

從來三等郵便電信局及三等郵便局ニ交付シアル器具器械類ハ九月末日ノ現在高ナリ現品ニ照シ無漏取調來十月五日迄ニ其監督區ノ一等郵便電信局(沖繩縣下ハ那覇郵便局)ニ報告スヘシ

○公達第三百六拾七號九月二十八日

郵便電信局 電信局

明治二十一年(六月)公達第三百四拾四號三等郵便電信局及三等電信局ニ於テ收支スル前納返信料整理順序第三項中所轄遞信管理局トアルヲ其區一等郵便電信局第四項中遞信管理局トアルヲ一等郵便電信局ト改定ス

○公達第三百六拾八號九月二十八日

一等郵便電信局 一等郵便局

三等郵便局長又ハ貯金預所取扱人變更等ニ依リ爲替貯金取扱ニ對スル身元保證品ノ還付ヲ要スルトキハ受持區域ノ別ニ從ヒ爲替貯金局又ハ其出張所ヨリ該局所事務受繼終了ノ通知ヲ爲スヘキニ付其通知ヲ受ケタル後客年公達第三百三拾四號 元保證品取扱手續第十二條ニ據リ身元保證品ノ還付ヲ爲スヘシ

○公達第三百六拾九號九月二十八日

一等郵便電信局 二等電信局

二等電信局證書金取扱方左之通相定ム  
一 證書金ハ現金代用ノモノニシテ金庫ニ關セス證書ヲ以テ受入レ其儘拂出スモノト

二十三年公達第百六十四號ヲ以テ削除

第二百七十五號ヲ以テ改定

二十四年公達第八十八號ヲ以テ改正  
公達第二百十九號ヲ以テ追加  
公達第四百十三號ヲ以テ改定

一 證書金ハ單ニ現金出納簿末尾ニ證書金ノ口座ヲ設ケ收支ヲ登記シ其殘高ヲ明瞭ナラシムルモノトス但本簿統括及各科目ヘハ登記ニ及ハス

○公達第三百七拾號九月二十八日

郵便電信局 郵便局  
電信局

郵便電信局長郵便局長電信局長ニ於テ忌服届ヲ差出シタルトキハ其時々除服出仕ヲ命セサルニ付死亡者同居ノトキハ忌日數二分ノ一非同居ノトキハ同三分ノ一ニテ除服出仕スヘシ

但一日ニ滿タサル端數ハ切捨トス且事務差支ノ節ハ本文日限内ト雖モ直ニ除服出仕スヘシ

○公達第三百七拾壹號九月二十八日

郵便電信局  
郵便局 三等局  
電信局 除ク  
電信建築長

明治二十二年六月勅令第八拾四號物品會計規則ニ據リ遞信省物品出納規程別冊之通相定ム但別冊ハ別ニ頒ツ同規程施行ニ就テハ物品請求及送付ノ順序ハ従前ノ手續ニ據リ其送付證ヘハ每品價格ヲ掲記スヘシ

○公達第三百七拾貳號九月二十八日

郵便電信局 電信局  
電信取扱所 公衆ノ通信  
除ク

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第五項及同第九條附表島田(取扱所)ノ次ニ袋井(取扱所)ヲ追加ス



○公達第三百七拾三號九月二十八日

郵便電信局 電信局  
 電信取扱所 公衆ノ通信  
 ル取扱ハサ  
 除ク

袋井電信取扱所發著ノ電報中繼局ハ島田電信取扱所同様心得ヘシ

郵便電信局 電信局  
 電信取扱所 公衆ノ通信  
 ル取扱ハサ  
 除ク

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第五項長崎ノ下井同第九條附表柄崎ノ左傍ニ諫早及島原ヲ順次追加ス

○公達第三百七拾五號九月二十八日  
 郵便電信局 電信局

明治二十一年(三月)公達第五拾八號郵便電信局電信局電機通信技手定員表中長崎ノ次ハ諫早及島原ヲ加ヘ各定員二名トシ及同第五拾九號技手宿直定員表中長崎ノ次ハ諫早及島原ヲ加ヘ各定員壹名トス

郵便電信局 電信局  
 電信取扱所 公衆ノ通信  
 ル取扱ハサ  
 除ク

○公達第三百七拾六號九月二十八日  
 來ル十月十六日ヨリ諫早及島原電信局開局ニ付テ同局發著ノ電報中繼局及電信線名稱左ノ通り相定ム

電報中繼局	電報	報	通	路	中	繼	局
自諫早及島原	至	全國各局各取扱所	長	崎			

電信線名稱	回	線	接	續	局	名	線	名
長崎	諫	早	島	原	長	崎	島	原

○公達第三百七拾七號九月二十八日

郵便電信局 郵便局  
 郵便受取所

明治十九年六月公達第三拾四號郵便切手類賣下手敷料交付方左記ノ通改正シ來ル十月一日ヨリ施行ス

郵便切手類賣下手敷料ハ壹錢貳錢若クハ五厘切手ヲ以テ交付ス  
 但賣下手敷料五釐未滿ノ端數ハ切捨ヘシ

○公達第三百七拾八號九月二十八日  
 一等郵便電信局 一等郵便局  
 一等郵便電信局會計例規第五條左ノ通改正シ來ル十月一日ヨリ施行ス

第百五條 切手類賣下手敷料ハ壹錢貳錢又ハ五釐(壹錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキ交付ス)ノ切手ヲ以テ交付シ若シ五釐未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨ニ立テ交付セサルモノトス

二等郵便電信局

○公達第三百七拾九號九月二十八日  
 二等郵便電信局會計例規第八十九條左ノ通改正シ來ル十月一日ヨリ施行ス

第百五條 切手類賣下手敷料ハ壹錢貳錢又ハ五釐(壹錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキ交付ス)ノ切手ヲ以テ交付シ若シ五釐未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨ニ立テ交付セサルモノトス

郵便電信局 三等局  
 郵便局 三等局  
 電信局 三等局

二十三年公達第二百七十六號第三百六十號ヲ以テ改正

明治二十二年六月勅令第八拾四號物品會計規則ニ基キ逓信省郵便切手類出納規程別

二十四年公達第三  
百六十五號ヲ以テ  
改正

册之通相定ム但別册ハ別ニ頒ツ  
來ル十月一日以降切手類ニ關スル取扱方ハ其局會計例規中此規程ニ抵觸スル條項ヲ  
除キ該例規ニ據ルヘシ

○公達第三百八拾壹號九月三十日  
一等郵便電信局會計例規及該書式中左ノ通改正シ來ル十月一日ヨリ施行ス

第一章中郵便切手類出納規程ニ抵觸セサル條項ニ於テ傳票トアルヲ命令書ト改メ  
會計主務官トアルヲ切手類會計官吏ト改ム

第四拾五號書式郵便切手類請求書  
〔甲號〕用度課長トアルヲ切手類會計官吏ト支出傳票トアルヲ拂出命令書ト改メ出  
納課長トアルヲ刪除ス

〔乙號〕會計主務官トアルヲ切手類會計官吏ト收入傳票トアルヲ受入命令書ト出納  
課トアルヲ切手類會計官吏ト改ム

〔丙號〕郵便電信局長何某トアルヲ郵便電信局切手類會計官吏官氏名印ト會計局長  
宛トアルヲ本省切手類會計官吏宛ト改ム

第四拾六號書式切手類出納傳票  
〔會計主務官トアルヲ切手類會計官吏ト支出傳票トアルヲ拂出命令書ト出納傳票ト  
トアルヲ出納命令書ト改メ此書式ノ欄外ヘ左ノ備考ヲ加フ

備考 切手類受入命令書モ此書式ニ準シ調製スヘシ

第四拾七號書式切手類送付證  
〔某郵便電信局印トアルヲ某郵便電信局切手類會計官吏官氏名印ト改メ某局長氏  
名印ノ下左ノ割註ヲ加フ

〔切手類會計官吏ノ氏名印ヲ要ス於  
テハ該官吏ノ氏名印ヲ要ス

第四拾八號書式郵便切手類返納證  
〔甲號〕會計主務官トアルヲ切手類會計官吏ト支出傳票トアルヲ拂出命令書ト改ム  
〔乙號〕用度課長トアルヲ切手類會計官吏ト收入傳票トアルヲ受入命令書ト改メ出  
納課長トアルヲ刪除ス

〔丙號〕傳票トアルヲ命令書ト會計局長トアルヲ本省切手類會計官吏官氏名印ト改  
ム

第四拾九號書式郵便切手類受拂報告表  
〔受之部〕戻入ヲ返納ト改メ其次ヘ左ノ二欄ヲ設ク  
〔毀損交換及返納〕毀損買戻  
〔拂之部〕官損ヲ亡失ト改メ墨消ノ次ヘ毀損返納ノ一欄ヲ設ク

○公達第三百八拾貳號九月三十日  
二等郵便電信局會計例規及該書式中左ノ通改正シ來ル十月一日ヨリ施行ス

第五章中郵便切手類出納規程ニ抵觸セサル條項ニ於テ傳票トアルヲ命令書ト改メ會  
計主務官トアルヲ切手類會計官吏ト改ム

第四拾一號書式郵便切手類請求書  
〔甲號〕用度課長トアルヲ切手類會計官吏ト支出傳票トアルヲ拂出命令書ト改メ出  
納課長トアルヲ刪除ス

〔乙號〕會計主務官トアルヲ切手類會計官吏ト收入傳票トアルヲ受入命令書ト出納  
課トアルヲ切手類會計官吏ト改ム

〔丙號〕郵便電信局長何某トアルヲ郵便電信局切手類會計官吏官氏名印ト會計局長

宛「トアル」本省切手類會計官吏宛「ト改ム

第四拾二號書式切手類出納傳票

「會計主務官」トアル「切手類會計官吏」ト「支出傳票」トアル「拂出命令書」ト「出納傳票」トアル「出納命令書」ト改メ此書式ノ欄外ヘ左ノ備考ヲ加フ

備考 切手類受入命令書モ此書式ニ準シ調製スヘシ

第四拾三號書式切手類送付證

「某郵便電信局印」トアル「某郵便電信局切手類會計官吏官氏名印」ト改メ「某局長氏名印」ト下左ノ割註ヲ加フ

(切手類會計官吏ノアル局ニ於テハ該官吏ノ氏名印ヲ要ス)

第四拾四號書式郵便切手類返納證

(甲號)會計主務官「トアル」切手類會計官吏「ト」支出傳票「トアル」拂出命令書「ト改ム」  
(乙號)用度課長「トアル」切手類會計官吏「ト」收入傳票「トアル」受入命令書「ト改ム」  
出納課長「トアル」ヲ刪除ス

(丙號)傳票「トアル」命令書「ト」會計局長「トアル」本省切手類會計官吏官氏名印「ト」郵便電信局長宛「トアル」某郵便電信局切手類會計官吏宛「ト改ム

第四拾五號書式郵便切手類受拂表

(受之部)「戻入」ヲ「毀損交換」ト改ム  
(拂之部)官損「ヲ」亡失「ト改メ」其次「ハ」毀損返納「ノ」一欄ヲ設ク

○公達第三百八拾三號 九月三十日

一、二等郵便電信局 一等郵便局

一等郵便電信局會計部簿順序模本郵便切手類受拂簿中左ノ通更正追加シ來ル十月一日ヨリ施行ス

日ヨリ施行ス

第四拾七號模本郵便切手類受拂簿

(受之部)「戻入」ヲ「返納」ト改メ其ノ次「ハ」毀損交換及返納「毀損買戻」ノ二欄ヲ設ク

○公達第三百八拾四號 九月三十日

一等郵便電信局 二等電信局

二等電信局會計例規書式中左ノ通改正シ來ル十月一日ヨリ施行ス

第四拾九號書式損傷切手納付書

「損傷切手納付書」ヲ「毀損切手返納書」ト改ム

第四拾號模本郵便切手類受拂簿

(拂之部)官損「ヲ」亡失「ト改メ」其次「ハ」毀損返納「ノ」一欄ヲ設ク

第四拾五號書式中切手受拂

(拂之部)官損「ヲ」亡失「ト改メ」其次「ハ」毀損返納「ノ」一欄ヲ設ク

○公達第三百八拾五號 九月三十日

釜山浦郵便電信局 上海郵便局

元山津郵便局 仁川港郵便局

小笠原島郵便局

郵便及電信局會計例規書式中左ノ通改正シ來ル十月一日ヨリ施行ス

第四拾號模本郵便切手類受拂簿

(拂之部)官損「ヲ」亡失「ト改メ」其次「ハ」毀損返納「ノ」一欄ヲ設ク

第四拾壹號書式切手類送付證

「某局會計主任」トアル「某局切手類會計官吏」ト改ム

第四拾貳號書式損傷切手納付書

「損傷切手納付書」ヲ「毀損切手類返納書」ト改ム

第四拾六號書式中切手受拂ノ部

○公達第三百八拾六號 十月七日

郵便電信局 二等局

郵便局 ヲ除ク

三等郵便電信局長郵便局長旅行スルトキハ其發著ノ都度其區一等郵便電信局郵便局

ニ届出ツヘシ

○公達第三百八拾七號 十月七日

郵便電信局 郵便局

明治十八年十二月甲第貳百九拾貳號達中辨償金トシテ金壹圓ノ九字ヲ削リ代品調製費用ヲノ七字ニ改ム

(參照)

第貳百九拾貳號 明治十八年十二月十日

郵便私書函借受人ニ於テ其開閉ニ供スル鍵鑰自己ノ疎虞懈怠ニ依リ紛失又ハ毀損シタルトキハ辨償金トシテ金壹圓徴收スヘシ

○公達第三百八拾八號 十月七日

郵便電信局 三等局 電信局

二十三年公達第九十二號ヲ以テ全文改正

電信建築官所用ノ家屋修繕并廳中消耗品等左ノ歳出科目ニ屬スルモノハ建築官本居地ノ郵便電信局又ハ電信局ニ於テ供給スヘシ

款	項	目	節
逓信費	應費	消耗費	薪炭油
		雜用費	瓦斯及電氣燈
		雜品費	雜用品費
	營繕費	各所新營	
		何所新營	
		各所新營	

何所修繕 各所修繕

郵便電信局 二等局 除ク

○公達第三百八拾九號 十月七日

郵便電信局 三等局 除ク

從來三等郵便電信局通報用器械物品ハ直ニ本省ニ於テ受授候處本月一日ヨリ監督區ノ一等郵便電信局ニ於テ處理スヘキ義ト心得ヘシ

○公達第三百九拾號 十月七日

郵便電信局 三等局 除ク

其局經費豫算逓信事業費中左ノ科目ハ節ト雖モ目同様一等局ハ會計例規第十條二等局ハ同第七條ノ手續ニ依リ裁可ヲ受クヘシ

但三等郵便電信局以下局費中三等郵便及電信局長手當三等郵便及電信局郵便電信事務費郵便受取所取扱人手當郵便受取所經費ノ四節内又三等郵便及電信局爲替貯金事務費貯金預所取扱人手當貯金預所經費ノ三節内ニ於テ彼此流用スルハ此限ニ

アラス

款	項	目	節	解	疏
逓信費	逓信事業費	器具器械費	郵便器具器械 電信器具器械	三等郵便電信局以下局費	三等郵便及電信局長手當

					三等郵便及電信局 郵便電信事務費
					三等郵便及電信局 爲替貯金事務費
					郵便受取所取扱入 手當
					郵便受取所經費
					貯金預所取扱入手 當
					貯金預所經費

○公達第三百九拾壹號 十月七日

郵便電信局 郵便局  
郵便貯金預所

左記諸達中所轄遞信管理局遞信管理局又ハ同局長トアルヲ其區一等郵便電信局郵便局又ハ同局長ト改ム

十九年十二月公達第百拾貳號達(爲替金渡濟通知書式紙通知料納濟印創定)

同年同月公達第百三拾貳號達(小爲替端金印創定)

二十年三月公達第百三拾號達(爲替及貯金立替金利息給與規則)

同年四月公達第百六拾六號達(立替金利息給與手續)

同年十二月公達第百貳拾五號達(爲替差出方及受取方并ニ貯金預ク方及拂戻方心得書揭示額創定)

二十一年五月公達第百八號達(貯金通帳取扱手續)

同年同月公達第百九號達(貯金ニ關スル書類書留目錄書)

同年六月公達第百三拾三號達(身元保證品規則)

同年同月公達第百三拾四號達(身元保證品取扱手續)

同年八月公達第百八拾貳號達(貯金預所取扱人服務規約)

同年同月公達第百八拾三號達(貯金預所取扱人失職死亡ノ節取扱方)

○公達第三百九拾貳號 十月七日

郵便電信局 郵便局

左記ノ諸達宛局左ノ通更正ス

十九年七月公達第百五拾號達(爲替貯金身元保證金利息割合)遞信管理局ハ一等郵便電信局郵便局

同年同月公達第百五拾四號達(貯金即時拂例外地ノ件)東京大坂赤岡遞信管理局ハ東京大坂郵便電信局

二十年五月公達第百三拾六號達(貯金預所掛札寸法ノ件)遞信管理局ハ一等郵便電信局郵便局

二十一年三月公達第百三拾四號達(貯金遞送費支給方)遞信管理局ハ一等郵便電信局郵便局

○公達第三百九拾三號 十月七日

郵便電信局 郵便局

明治二十一年(八月)公達第百七拾五號三等郵便電信局郵便局經費給與規則中左ノ通改正追加ス

第七條第一款第一項中一箇月金ノ下三圓ノ二字及割註ヲ左ノ如ク改正ス

壹圓五拾錢(即チ本條第二款ニ掲ケタル十一等取扱費)

同條第二款爲替貯金取扱費等級九等ヲ左ノ如ク改正ス

九等 六百口以上 六千圓以上 一箇月金三圓

同條同款爲替貯金取扱費等級九等ノ次ハ左ノ如ク追加ス

十等 三百口以上 三千圓以上 一箇月金貳圓

十一等 三百口未滿 三千圓未滿 一箇月金壹圓五拾錢

○公達第三百九拾四號 十月七日

郵便電信局 郵便局

公達第三百九拾三號ヲ以テ三等郵便電信局郵便局爲替貯金取扱費等級追加候ニ就テハ從來爲替及貯金ヲ取扱フ局ニシテ該追加ノ等級ニ相當スルモノハ來ル二十三年度ヨリ其等級ニヨリ取扱費ヲ算定スルモノトス

○公達第三百九拾五號十月七日

郵便電信局 郵便局

明治二十一年(六月)公達第三百三拾三號身元保證品規則第二條中郵便爲替及貯金取扱身元保證額二等ノ次ヘ左ノ通追加ス

三等 貳百圓

○公達第三百九拾六號十月七日

一等郵便電信局 一等郵便局

明治二十一年(六月)公達第三百三拾四號身元保證品取扱手續第一條中第二項ノ次ヘ左ノ一項ヲ挿入ス

○公達第三百九拾七號十月七日

郵便電信局 電信局

公衆ノ通  
信ヲ取扱  
ハサル取  
扱所ヲ除

電信取扱所  
ハサル取  
扱所ヲ除

明治十九年四月元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第五項及同第九條附表島原ノ次ニ口ノ津ヲ追加ス

○公達第三百九拾八號十月七日

郵便電信局 電信局

公衆ノ通  
信ヲ取扱  
ハサル取  
扱所ヲ除

電信取扱所  
ハサル取  
扱所ヲ除

熊石久遠及口ノ津三郵便電信局發着ノ電報中繼局并ニ電信線名稱左ノ通り相定ム

電報中繼局

電	報	通	路	中	繼	局
自熊石及久遠	至全國各局各取扱所			江	島	差
自口ノ津	至全國各局各取扱所					原

電信線名稱	回線	接續局名	回線名
江差 熊石 久遠			江差 久遠
島原 口ノ津			島原 口ノ津

○公達第三百九拾九號十月七日

郵便電信局 電信局

電氣通信技手豫備規則左ノ通相定メ明治二十年六月公達第三百五拾壹號通信技手定員豫備規則ハ自今廢止ス

電氣通信技手豫備規則

第一條 郵便電信局電信局電氣通信技手定員ノ臨時補欠又ハ臨時増員ニ充ル爲メ特ニ指定スル郵便電信局電信局ニ豫備員ヲ駐在セシム

第二條 豫備員ハ氏名ヲ指定セシメ其局定員外ノ通信技手ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 豫備駐在局及其人員ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 郵便電信局電信局通信技手中病氣其他ノ事故ニ依リ服務スルコト能ハサルモノアリテ臨時補欠ヲ要スルトキ又ハ事務ノ繁劇ニ依リ臨時増員ヲ要スルトキハ

凡其日數ヲ豫定シ當該局長事由ヲ具シ補欠又ハ増員ノ派遣方ヲ本省ニ稟申スヘシ

第五條 本省ハ前條ノ稟申ニ依リ派遣スルヲ必要ト認ムルトキハ其近傍ノ豫備員駐

在局技手中ヨリ臨時在勤又ハ出張ヲ命ス

但豫備員駐在局ニ適任ナキカ又ハ至急ヲ要スルトキハ便宜豫備員駐在局ニアラ

サル郵便電信局又ハ電信局員中ヨリ臨時在勤又ハ出張ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 補欠又ハ増員セラレタル局ニ於テ一旦服務スルコト能ハサルモノ舊ニ復ス

ルカ又ハ増員ノ須要ナキニ至ラハ豫定シタル派遣日數以內ト雖速ニ其旨稟申スヘ

シ

但豫定シタル派遣日數ニ達スルモ尙ホ引續キ派遣シ置クノ必要アルトキハ更ニ

其日數ヲ豫定シ事由ヲ追申スヘシ

第七條 補欠又ハ増員ノ爲メ他局ニ臨時在勤又ハ出張スルモノハ當該局員ト同一ニ

服務スルハ勿論其責任義務總テ當該局員ニ同シキモノトス

第八條 豫備員ノ俸給文具料及賄料ハ他局ニ臨時在勤者クハ出張スル時ト雖其駐在

局ノ經費ヲ以テ支辨スヘシ

但一二等郵便電信局電信局へ臨時在勤中ハ賄料ニ限り其一二等局ノ經費ヲ以テ

支給スヘシ

○公達第四百號 十月十一日

郵便電信局 二等局郵便局 二等局

電信局

公達第三百七拾壹號ヲ以テ逕信省物品出納規程施行ニ付テハ地方各局物品交付區分

表中第一種ハ二等電信局ニ於テハ本省主務局へ直ニ請求シ本省會計局ヨリ交付シ三

等郵便電信局及三等郵便局使用ノ分ハ自今監督區ノ一等郵便電信局(沖繩縣下ハ一等

郵便局)ニ於テ總テ受授候儀ト心得ヘシ

但三等郵便電信局三等郵便局ニ於テ交付ヲ受ケタル物品ヲ返納スルトキハ其監督

區ノ一等郵便電信局(沖繩縣下ハ一等郵便局)へ返納スヘシ

○公達第四百壹號 十月十一日

郵便電信局 電信局

電信建築官

電信建築官ニ於テ現今使用中ニ係ル器具卓子椅子書函ノ類ハ左ノ條項ニ據リ處理ス

ヘシ

電信建築長本居地ノ郵便電信局ハ建築長へ引繼キ同官ニテ保管スヘシ

電信建築長本居地外ノ郵便電信局電信局ハ便宜流用使用セシメ其局ニテ保管スヘシ

○公達第四百貳號 十月十一日

郵便電信局 電信局

電信取扱所 公衆ノ通

電信取扱所ハサレ取扱

所ヲ除ク

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第五項及同第九條

附表江差ノ次ニ熊石井久遠ヲ順次追加ス

○公達第四百三號 十月十一日

郵便電信局 電信局

電信取扱所 公衆ノ通

電信取扱所ハサレ取扱

所ヲ除ク

明治十九年四月元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第五項及同第九條

附表御影ノ次ニ湯山ヲ追加ス

○公達第四百四號 十月十一日

大阪府管内

郵便電信局 郵便局

郵便受取所

大阪府地方約束郵便規則第一條第一節第五項及第七項郡ノ下「區」ノ一字ヲ削リ同條第

二節下段並ニノ下「戶長役場戶長」ノ六字ヲ削リ更ニ市區役所市區役所吏員町村役場町

村長ノ十七字ヲ挿入ス

○公達第四百五號 十月十八日

一等郵便電信局 一等郵便局

大阪府管内

郵便電信局 郵便局

郵便受取所

二十四年公達第九十號ヲ以テ追加

自今三等郵便電信局郵便局郵便受取所事務受渡届ハ其局ニ於テ調査保管スヘシ  
但本年(九月)公達第三百六拾四號及三等郵便電信局電機通報用機械物品受渡書ハ此  
限ニアラス

○公達第四百六號 十月十八日

郵便電信局三等局郵便局ヲ除ク

區内監督又ハ郵便事務等取扱上ニ要スル備付圖書左ノ通相定候條此他執務上特ニ必  
要アルモノハ購入ノ都度認可ヲ受ケヘシ  
但本省ヨリ現品ヲ以テ交付スルモノハ本文ノ外トス

圖書品目

一官報

一 部

一監督區域内ノ地圖及地理誌

一 部

一刑法治罪法

一 部

一現行法令編纂書

一 部

一英和字書

一 部

但郵便電信局及外國郵便ヲ取扱フ郵便局ニ限ル

一新聞紙

一 部

○公達第四百七號 十月十八日

郵便電信局 郵便局

電信局 電信取扱所

本年七月公達第四百四拾號郵便局長電信局長委任條件第二條四項ヲ左ノ通改正ス  
四 郵便切手賣下所及郵便函櫃設置變更ノ事

但三等郵便局長ハ此限ニ非ス

○公達第四百八號 十月二十四日

郵便電信局 電信局

鴻山郵便局ヲ郵便電信局ニ改定候ニ付テハ京都御影線ノ接續ヲ變更シ電信線名稱及  
電報中繼局ヲ左ノ通り相定ム

電信線名稱

公衆ノ通  
信ヲ取扱  
ハサル取  
扱所ヲ除  
ク

舊 名	稱	改 正 名	稱
回線接續局名	回線名	回線接續局名	回線名
京都 大阪	京都御影線	京都 大阪 神戸	京都神戸線
神戸 御影		神戸 御影 湯山	神戸湯山線

電報中繼局

電 報 通 路	中 繼 局
自 湯山及御影	神 戶
至 全國各局各取扱所	

○公達第四百九號 十月二十四日

郵便電信局三等局郵便局ヲ除ク

當省騰出科目表中遞信費ノ款遞信事業費ノ項爲替資金受拂費ノ目中爲替資金運送費  
ノ次位ニ爲替資金保管料ノ節ヲ新設ス

電信局三等局 電信建築官

○公達第四百拾號 十月二十四日

郵便電信局三等局郵便局ヲ除ク

明治二十年五月公達第百八號集配人等級給料規則中左ノ通改正シ來十一月一日ヨリ

電信局三等局



施行ス

第十二條 職務上負傷シ其療養中及ヒ父母ノ忌服ニヨリ缺勤シタルトキハ第十一條ノ例ニ依ラス缺勤中ノ給料ヲ給與スヘシ

第十三條 勤続加給ハ本人疾病或ハ忌服ニヨリ缺勤シタルトキ又ハ死亡或ハ免職ノトキト雖モ月額ヲ給與スヘシ

○公達第四百拾壹號十月二十四日

郵便電信局三等局  
電信局三等局  
郵便電信局三等局  
ヲ除ク

明治二十年五月公達第四百拾號集配人任免取扱心得中左ノ通改正追加ス

第一條中 給與シノ下へ及除服出勤ヲ命シノ八字ヲ挿入シ割註第九號下アルヲ第拾號下ニ第拾號下アルヲ第拾壹號下トス

第二條中 第拾壹號下アルヲ第拾貳號下トス

辭令書式第壹號割註第九號下アルヲ第拾號下ニ第拾號請書書式ヲ第拾壹號トシ第拾壹號報告書式ヲ第拾貳號トシ辭令書式第九號ノ次へ左ノ書式ヲ追加ス

何等集配人

何 某

除服出勤ヲ命ス

明治何年何月何日

郵便電信局  
郵便電信局  
電 信 局  
郵 便 局

○公達第四百拾貳號十月二十四日

明治二十年(五月)公達第四百拾四號集配人及遞送人制服圖例中徽章ハ緋絨ヲ用ノ下「フ」ノ一字ヲ刪リ更ニ「ヒ」兩具圖式ニ倣ヒ調製スノ十一字ヲ挿入ス

第拾五號  
明治何年何月何日  
某年度某局經費明細簿計算表

(此ノ番號ハ一ケ年度中本  
書ノミ順ヲ追フモノトス)  
第 號

本月支出高			本月支出戻入高			本月科目更正増減			差引 殘 額		
圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘

○公達第四百拾三號十月二十四日  
二等電信局會計例規番式中第拾五號別紙ノ通改正シ十月分ヨリ施行ス  
一等郵便電信局 二等電信局

會計主任 \_\_\_\_\_ 主簿 \_\_\_\_\_

本表ハ一ケ年度毎ニ編纂シテ保存スルモノトス  
 豫算現在額ハ増減額及流用増減差引額ヲ記入スルモノトス  
 概算支出ニ係ルモノハ本表支出額ニ編入スルモノトス  
 前月マデノ戻入金科目更正増減ハ翌月ニ至リ前月マテノ支出額ニテ増減差引額  
 ナ記載スルモノトス  
 本表概算支出ノ戻入金及科目更正減ノ金額ハ朱書ヲ以テ記載スヘシ

科 目	豫 算 額			前月マテノ支出高		
	圓	錢	厘	圓	錢	厘
俸給及諸給ノ部 (列任以下俸給)某局長						
廳 費ノ部 (器具器械費)器 具						
遞信事業費ノ部 (集配費)集配人及雇人給料						
(一ケ一)別 配 送 料						

局長

○公達第四百拾四號 十月二十四日

郵便電信局三等局 電信局三等局  
 電信建築官

地方電信建築官會計取扱規程書式中左ノ通り増補ス  
 依託工事游替資金受拂簿

(書式)

月 日	摘 要	受	拂	残
何月何日	何官廳依頼何工事費 本省ヨリ受込高	三〇〇〇〇〇		三〇〇〇〇〇
何月何日	何會社依頼何工事費 へ繰替		一〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇
何月何日	何官廳依頼何工事費 へ繰替		二〇〇〇〇〇	〇
何月何日	何會社返納ノ分經費 受拂簿ヨリ轉記	一〇〇〇〇〇		一〇〇〇〇〇
何月何日	何工事落成資金本省 へ返納高		一〇〇〇〇〇	〇

備考 書式中拂ノ坐ニアル繰替金ハ依託工事經費受拂簿ニ轉記シ元受ニ立ツヘシ

二十三年公達第四  
 百三十九號ニ依リ  
 消滅

○公達第四百拾五號 十月二十四日

郵便電信局取扱ハサレ  
 爲替ヲ取  
 局ヲ除ク

爲替及貯金事務ヲ併セテ取扱フ郵便電信局郵便局ニ於テ爲替貯金事務ニ關シ爲替貯  
 金局又ハ其出張所へ書類ヲ發送スルトキハ自今左ノ各項ニ從フヘシ  
 第一項 書類ハ左ノ三類ニ區分シ一類毎ニ各別ニ封緘スルモノトス

- 第一類 爲替貯金出納報告書(タ號)
- 一爲替願書(イ號甲乙)

- 一 小爲替原符(口號丁)
  - 一 貯金預ケ願書(貯第一號)
  - 一 貯金預リ届ケ書(貯第二號及第一七號)
  - 一 振替爲替依頼書(ヨ號)
  - 一 爲替證書(電信爲替トナリタル口號甲)
  - 一 資金受拂高證明書(ア號)及添屬書類
  - 一 拂濟各爲替證書及報知書(口號甲乙丙丁及レ號)及添屬書類
  - 一 拂濟貯金拂戻證書及報知書(貯第七號)及添屬書類
  - 一 拂濟貯金拂戻願書(貯第五號)
  - 一 書損ニ係ル爲替證書(口號甲乙丁)
  - 一 書損ニ係ル貯金通帳貯第一一號)
  - 一 爲替貯金精算表(ブ號)
- 爲替貯金精算表ヲ合封シタルトキハ書損ニ係ル爲替證書又ハ同貯金通帳ヲ合封シタルトキト同シク「タ」號表附記欄内ニ其旨ヲ記入スヘシ
- 第二類
- 一 通帳添書(貯第七九號)
  - 一 貯金通帳(拂戻利子記入再度下付移轉引換檢閱等ノ爲メ差出スモノ)
  - 一 拂戻願書(貯第五號)及添屬書類
  - 一 通帳引換願書(貯第七二號)
  - 一 通帳ト同時ニ差出シタル改印轉宿等ノ届書
  - 一 改印轉宿等ノ届書ヲ合封シタルトキハ通帳添書中當該通帳記載ノ次ニ其旨ヲ記載スヘシ
- 第三類
- 一 爲替證書下渡請求書(ス號)及添屬書類

- 一 貯金再度證書請求書及添屬書類
  - 一 貯金再度通帳請求書(通帳亡失及汚斑毀損等ニ付請求ノ分)及添屬書類
  - 一 電信爲替ノ電報送達紙及通知書
  - 一 口號及二號用紙請求書及其受取證
  - 一 新規通帳請求書及其受取證
  - 一 貯金拂戻取消ニ關スル書類
  - 一 爲替及貯金事務ニ付諸照會回答書
- 右ノ外第一類第二類ニ屬セサル一切ノ書類
- 第二項 一等局ヨリ差出ス左記ノ書類ハ第二類トシ通帳添書中ニ合記スヘシ
- 一 即時拂通帳(即時拂證書發行濟ノ分)及添屬書類
  - 一 即時拂届書(貯第五一號)
  - 一 差繼金報告書及差繼券(貯第六〇號)
  - 一 即時拂届書及差繼金報告書差繼券ヲ合封シタルトキハ通帳添書ノ餘白ニ其旨ヲ記載スヘシ
- 左記ノ書類ハ第三類トス
- 一 爲替貯金出納日報(ア號)及添屬書類
  - 一 爲替貯金出納月報(コ號)
  - 一 過超金納付停延書
  - 一 貯金出納月報(貯第四三號)
  - 一 各局貯金納付證(貯第二一號)
  - 一 納付金券
- 第三項 書類ヲ封緘シタルトキハ封表面ニ第一類第二類第三類ノ區分ヲ朱書シ總テ並郵便ヲ以テ差立ツヘシ
- 但第一類及第三類ハ爲替貯金事務ト表記シ第二類ハ貯金事務ト表記スヘシ

○公達第四百拾六號 十月二十四日

郵便電信局 爲替ヲ取  
除ク 郵便局 爲替ヲ取  
除ク 郵便貯金預所

爲替ヲ取扱ハサル郵便電信局郵便局又ハ郵便貯金預所ニ於テ貯金事務ニ關シ爲替貯金局又ハ其出張所へ書類ヲ發送スルトキハ自今左ノ各項ニ從フヘシ

第一項 貯金事務ニ關シ差出ス書類ハ總テ郵便ヲ以テ發送スヘシ

第二項 貯金事務ニ關シ差出ス書類ニハ其書目及員數ヲ記載シタル書類目錄書ヲ添

第三項 貯金通帳ト共ニ差出シタル改印轉宿等ノ届書ヲ合封シタルトキハ添書中當該通帳記載ノ次ニ其旨ヲ記載スヘシ

第四項 書類目錄書調製方心得左ノ如シ

一 目錄書ハ成規ノ用紙貯第八四號ヲ以テ二通ヲ製シ貯金日附印ヲ捺シ其一通ヲ書

二 書類ノ種類多數ニシテ二枚以上ノ目錄書ヲ要スルトキハ其各紙ニ總枚數ヲ附記

三 目錄書中空罫アルトキハ其部分ニ廢線ヲ付スヘシ

四 目錄書ニ記スル文字ハ字畫端正ニシテ最モ明瞭ナルヲ要ス若シ誤記シタルトキ

五 目錄書ニ記スル數字ハ壹貳參拾等ノ文字ヲ用ユヘシ決シテ一二三十等ノ文字ヲ

用ユヘカラス

○公達第四百拾七號 十月二十四日

今般公達第四百拾五號同第四百拾六號ヲ以テ爲替貯金ニ關スル書類發送方相定候ニ

付テハ明治二十一年(五月)公達第四百七號郵便貯金預所書留信書取集ノ件同第四百九號書

類目錄書ノ件及從來ノ令達中爲替貯金書類書留ヲ以テ發送スヘキ件ニ關スル條項ハ

郵便電信局 郵便局 郵便貯金預所

總テ廢止ス

○公達第四百拾八號 十月二十四日

定期開閉スヘキ電信局物品出納順序左ノ通相定ム

一 電信局事務用備品事業用器具器械及事業用諸品ハ開設前豫メ其區一等郵便電信局

ヨリ受取ルヘシ

一 電信局閉局ノ際其局現在ノ諸物品ハ物品出納規程第六條ニ準據シ該局長ニ於テ物

品引繼調書ヲ作り之ヲ現在品ニ對照シ立會官吏ノ證明ヲ得テ該調書ヲ以テ其區一

等郵便電信局ニ引繼ヲ爲スヘシ

一 其區一等郵便電信局ニ於テ前項ニ依リ現在物品ノ引繼ヲ受クルトキ通信器械ハ其

局ニ於テ保管シ其他ノ備品器具器械及事業用諸品ハ便宜電信局所在地ニ預ケ入ヲ

定メ相當ノ取締法ヲ設ケ之ヲ格護セシメ該預リ人ヨリ品名員數等ヲ詳記シタル預

リ證ヲ徴シ置クヘシ

一 電信局長ハ閉局ノ際物品出納規程第二十八條第五號書式ニ據リ出納報告書ヲ調製

シ其區一等郵便電信局ヲ經テ遞信大臣ニ差出スヘシ

一 物品會計官吏ハ閉局ノ際物品出納規程第三十一條ニ準據シ物品會計規則第十二條

ニ定メタル物品出納調書ヲ調製スルトキハ検査官吏ノ連署ヲ得閉局後直ニ其區一

等郵便電信局長ニ差出スヘシ

一 一等郵便電信局長前項ノ物品出納調書ヲ受クルトキハ物品出納規程第三十二條ニ

照據シ之ヲ處理スヘシ

○公達第四百拾九號 十月二十六日

鐵道郵便線路沿道

郵便電信局 郵便局

鐵道郵便係員發病其他事故アリ乘車シ難キ場合ニアリテ臨時代務員ヲシテ乘車印繼

携帶セシメス郵便室ニ乘込マシムルトキハ其地郵便局ヨリ豫メ其事由ヲ乘込地停車

場驛長ニ通報スヘシ

但汽車出發時刻ニ切迫シ本文ノ事故相生シ豫メ郵便局ヨリ通報スルノ暇ナキトキ  
ハ其代務員ヲシテ直ニ驛長ニ通知セシムヘシ

○公達第四百貳拾號十月二十六日

靜岡神戸間小線路沿道  
郵便電信局 郵便局

靜岡神戸間小線路鐵道遞送郵便物取扱方ハ東京神戸間米原敦賀間大線便及大府武豐  
間小線便鐵道郵便取扱手續ニ準據スヘシ

靜岡神戸間小線路沿道  
郵便電信局 郵便局

○公達第四百貳拾壹號十月廿六日

靜岡神戸間小線便鐵道遞送郵便物ハ東京郵便電信局ノ鐵道郵便掛員ヲシテ郵便車ニ  
乘込ミ取扱ハシム

靜岡神戸間小線路沿道  
郵便電信局 郵便局

○公達第四百貳拾貳號十月二十六日

靜岡神戸間小線便鐵道遞送郵便物締切小行差立局及其名宛局ハ本年七月公達第貳  
百六拾五號進ニ準據スヘシ

郵便電信局 郵便局

○公達第四百貳拾三號十月二十六日

本年七月公達第貳百六拾七號進ハ靜岡神戸間小線便鐵道郵便物遞送ノ節各停車場ノ  
郵便函ヨリ取出シタル郵便物ニモ亦之ヲ適用ス

郵便電信局 電信局

○公達第四百貳拾四號十月三十一日

公衆ノ通  
信ヲ取扱  
ハサル取  
扱所ヲ除  
ク

明治十九年四月元電信局乙第壹貳五壹號達局内心得書附則第二條第五項本庄ノ次及  
同第九條附表鴻巣ノ次ニ新町(取扱所ヲ追加ス

○公達第四百貳拾五號十月三十一日

郵便電信局 電信局

公衆ノ通  
信ヲ取扱  
ハサル取  
扱所ヲ除  
ク

來ル十一月一日ヨリ大阪松江線ノ接續ヲ變更シ電信線名稱及電報中繼局ヲ左ノ通り  
改正ス

舊 名 稱	回 線 名	回 線 接 續 局 名	回 線 名	改 正 名 稱
大阪 豐岡 鳥取	大阪 松江線	大阪 洲本線	大阪 兵庫 洲本	大阪 姫路線
倉吉 米子 境		大阪 兵庫 洲本	大阪 兵庫 洲本	大阪 姫路線
大阪 神戸 兵庫		大阪 兵庫 洲本	大阪 兵庫 洲本	大阪 姫路線

電 報 通 路	中 繼 局
自 豐岡 松江間 廣島大阪間四國一圓及 大阪以東各局(元大阪ノ中繼ニ係ルモノ) 其他ハ従前ノ通り	姫 路
自 濱田及萩	松 江
至 松江敦賀間各局生野姫路、園部 敦賀金澤間各局金澤新瀉間各局 直江津小諸間各局(上田ヲ除ク) 新潟弘前間各局(横手ヲ含ム) 其他ハ總テ赤間關ノ中繼	松 江

○公達第四百貳拾六號 十月三十一日

郵便電信局 電信局

電信取扱所 公共ノ通

所ヲ除ク

局内心得書附則第九條附表申洲本ヲ兵庫ノ下明石ノ左傍ニ及ヒ豐岡ノ一行ヲ姫路ノ下岡山ノ左傍ニ改正ス

○公達第四百貳拾七號 十月三十一日

郵便電信局 二等局 郵便局ヲ除ク

三等郵便電信局長郵便局長改氏名及移轉届書ノ義ハ其區一等郵便電信局郵便局經由進達スヘシ

○公達第四百貳拾八號 十月三十一日

栃木縣管内 郵便電信局 郵便局

郵便受取所

栃木縣地方約束郵便規則第一條第二節第五項官林巡視第六項官林巡邏ノ八字ヲ削除ス

○公達第四百貳拾九號 十月三十一日

郵便電信局 郵便局

十九年公達第四百貳拾八號ヲ以テ相定候爲替金受渡事故往復書式紙(二號)ハ自今番號ヲ付セス其區一等郵便電信局郵便局ヲ經テ交付候條該式紙ハ其局ニ於テ使用ノ順序ニ從ヒ番號ヲ付シ使用スヘシ

但十九年公達第四百貳拾八號爲替金受渡事故往復手續第一條但書ヲ廢止ス

○公達第四百三拾號 十月三十一日

一等郵便電信局 一等郵便局

遞信省令第六號ヲ以テ廢止及使川禁止ノ郵便切手葉書封皮帶紙ノ引換ヲ請求スルモノアルトキハ定價ヲ以テ其引換ヲナシ金高ニ端數アルトキハ其買戻ヲ爲スヘシ

但本文買戻ヲナスニハ郵便條例第三十七條ノ例ニ依ラサルモノトス

○公達第四百三拾壹號 十一月二日

郵便電信局 三等局 郵便局ヲ除ク

會計規則第三十三條ニ據リ來二十三年度ヨリ發行スヘキ仕拂命令用紙ノ儀ハ本年八月三十一日大藏省令第拾壹號別冊第六號書式ニ據リ其種類ヲ區分シ一箇年度ノ所用員數取調本月十日迄ニ差出スヘシ

但雜部金仕拂ニ關スル分ハ從前ノ通タルヘシ

○公達第四百三拾貳號 十一月八日

鐵道郵便線路沿道 郵便電信局 郵便局

近來郵便物遞送人中汽車到着ニ差迫リ其前面之線路ヲ通過シ又ハ未タ汽車停車セサルニ郵便物ノ受渡ヲナシ候モノ往々有之趣不都合之次第ニ候條爾後右等之義無之様遞送人ニ嚴達スヘシ

○公達第四百三拾三號 十一月八日

郵便電信局 電信局

電信取扱所 公共ノ通

所ヲ除ク

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第九條附表申川越ノ上ニ浦和(取扱所)ヲ追加ス

○公達第四百三拾四號 十一月八日

郵便電信局 郵便局

郵便事業上所用ノ器械物品々類ハ左ノ通トス其現品交付ト自局調製トノ區分ハ別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ム

但品名ノ下ニ使用局ヲ限ラサルモノハ一般ニ備用スヘキモノトス

一 印刷活字共

日附印

普通日附印

稅濟日附印

歐文日附印

(約東郵便毎日五百通以上取扱局ニ限リ備フ)  
(外國郵便交換局ニ限リ備フ)

二十二年公達第四百八十一號ヲ以テ改正  
二十三年公達第七十四號ヲ以テ改正  
公達第四百二號ヲ以テ追加

(實際ノ必要ニ應  
シテ之ヲ備フ)

- 書留用日附印
- 承認印
- 不足印
- 未納印
- 封蠟印
- 稅濟印
- 開函證印 開函用肉池共
- 鐵道郵便線路印
- 損所修補印
- 事故延著印
- 郵便物浸濕乾燥印
- 郵便事務印
- 書留印
- 書留上封印
- 一種印
- 二種印
- 三種印
- 四種印
- 宛所不明還付印
- 不足收入高印(外國郵便用)
- 未納收入高印(同上)
- 契印

(汽船便若クハ締切行差立局等ニシテ封  
蠟ヲ以テ行囊ノ封印シナス局ニ限リ備フ)  
(稅濟日附印使用局  
ヲ除キ一般ニ備フ)  
(局前ヲ除キ他ニ郵便函ナ  
キ局ヲ除キ一般ニ備フ)  
(實際ノ必用ニ應  
シテ之ヲ備フ)

實際ノ必用ニ應シテ適宜之ヲ備フ

封緘印  
右ニ類スル事業上各種ノ印類

一時計類

- 掛時計
- 遞送時計 外函并鍵共
- 鐵道郵便係員携帶時計
- 集配人携帶時計
- 正午計

一權衡類

- 西洋形三百目掛秤量
- 日本形六貫目掛秤量
- グラム秤量
- 西洋形五百目秤量
- 同十二貫目蜜秤量
- 同十六貫目同
- 同二十貫目同
- 同三十六貫目同

- 一押印及區分用器具類
- 區分棚
- 區分壺
- 押印壺
- 押印用護膜板

(大申線路ノ時計差立元局ニ限リ備フ)  
(又鍵ハ時計卷掛局ヘモ之ヲ備フ)

(鐵道郵便係員ヲ置ケ  
局ニ限リ備フ)

(實際ノ必要ニ應  
シテ之ヲ備フ)

(三等局一般ニ備フ  
但西洋形蜜秤量ヲ備ヘタル局ヲ除ク)

(外國郵便交換局及其他實際ノ  
必用ニ應シテ之ヲ備フ)

(一、二等局及其他ノ  
必要局ニ備フ)

實際ノ必用ニ應シテ之ヲ備フ

(實際ノ必用ニ應シテ  
之ヲ備フ)

- 汽車室内區分棚 (汽車郵便室ニ) (限リ備フ)
- 同區分蓋 附押印謄談板肉池共 (實際ノ必用ニ應シテ之ヲ備フ)
- 一郵便函類 (六等集配以上ノ市内ニ) (限リ設置ス)
- 柱函 鍵共 (一般市外及六等集配以下ノ市内ニ設置ス)
- 掛函 同 (借受人アル局ニ) (限リ備フ)
- 私書函 同 (實際ノ必用ニ應シテ) (之ヲ備フ)
- 一郵便遞送車類 (同上)
- 馬車 附屬品共 (大集配アル局ニ) (限リ備フ)
- 棹車 附桐油 (冬季積雪ノ候棹車若クハ人夫遞送ニ代用ス)
- 函車 (ルモノニシテ實際ノ必用ニ應シテ之ヲ備フ)
- 櫃 (停車場用郵便物積卸及郵便局内郵便物運搬等ニ) (用フルモノニシテ實際ノ必用ニ應シテ之ヲ備フ)
- 三輪車 (同上)
- 一燈器類 (實際ノ必用ニ應シテ) (之ヲ備フ)
- 集配人用角燈 (實際ノ必用ニ應シテ) (之ヲ備フ)
- 遞送人用小田原提灯 (鐵道郵便係員ヲ置ク)
- 鐵道郵便角燈 (局ヘノミ備フ)
- 一行 燈蝦蟆口類 (締切繼越郵便物取扱局ニ) (限リ使用ス)
- 紺網掛行蓋 (差立元局及閉局ニ) (限リ使用ス)
- 漁網掛行蓋 (同上)

- 赤網掛行蓋 (書留郵便物締切取扱局ニ) (限リ使用ス)
- 白行蓋 (差立元局閉局及中間局ト雖モ多數郵便物差立アル局ニ限リ使用ス)
- 赤行蓋 (同上)
- 角行蓋 (汽船便取扱局ニ) (限リ使用ス)
- 橫行蓋 (鐵道郵便取扱局ニ) (限リ使用ス)
- 添行蓋 (差立元局ニ) (限リ使用ス)
- 集配用行蓋 (大集配アル局ニ) (限リ備フ)
- 外國行蓋 (外國郵便交換局ニ) (限リ使用ス)
- 遞送用蝦蟆口 (小線路持戻交換便ノ如キ小數ナル) (差立元局及繼立局ニ限リ備フ)
- 集配用同 (鐵道郵便係員ヲ置ク) (局ニ限リ備フ)
- 一雜具 (鐵道郵便係員ヲ置ク) (局ニ限リ備フ)
- 尺度 (實際ノ必用ニ應シテ) (之ヲ備フ)
- 旗章 (郵便物遞送保護上必用局ニ) (限リ之ヲ備フ)
- 郵便物保護銃 所屬品共 (實際ノ必用ニ應シテ) (之ヲ備フ)
- 集配人 號鈴 (同上)
- 同呼笛 (同上)
- 行蓋掛 (同上)
- 遞送記挾 (差立元局ニ) (限リ使用ス)



- 傳送記挾
- 書留挾板
- 郵便挾板并打紐
- 行囊桐油
- 行囊錠錠類
- 封水
- 木札
- 郵便物區分籠
- 同室內運搬籠
- 郵便物保管函
- 郵便物數登記用亞鉛板
- 同石盤
- 印洗鍋及封蠟鍋
- 揭示板類 額氏名札 壺
- 炭酸紙用鐵板
- 郵便物揚卸器械一式
- 郵便物干燥用鐵網
- 非常用行囊
- 印及活字入函類
- 肉池
- 秤量水平壺
- 同塵除

- (大集配アル局ニ限リ使用ス)
- (同上)
- (同上)
- (人夫送ノ差立元局ニ限リ使用ス)
- (實際ノ必用ニ應シテ之ヲ備フ)
- (行囊ニ封蠟ヲ用ユル局ニ限リ使用ス)
- (行囊ヘ附スヘキモノニシテ必用局ニ限リ使用ス)

實際ノ必要ニ應シテ適宜之ヲ備フ

○公達第四百三拾五號十一月八日

郵便電信局 電信局

東京浦賀線ノ接續ヲ變更シ電信線名稱及電報中繼局ヲ左ノ通り改正ス

電信取扱所ハサレテ除キ  
取扱所ヲ除キ電信建築官

舊 名	種 稱	改正 名	種 稱
回線接續局名	線	回線接續局名	線
東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線
東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線
東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線
東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線
東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線
東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線
東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線
東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線
東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線	東京浦賀線

○公達第四百三拾六號十一月八日

郵便電信局 三等局

本年八月公達第三百貳拾七號物品交付區分表備考第二項末文ニ左ノ但書ヲ追加ス  
但二等郵便電信局ニ要スル遞送用行囊及桐油ハ一等郵便電信局ヘ請求シ同局ヨリ交付スヘシ

○公達第四百三拾七號十一月八日

郵便電信局 電信局  
電信取扱所 電信建築官

電 報 往 復 局 名	中 繼 所
自新町	中繼所
至大野古河小山河原岩沼神奈川	鴻巣取扱所
大磯國府津浦和川越	

自新町	高崎取扱所
至 横川 磯部	
其他ハ總テ高崎取扱所ヲ經テ高崎郵便電信局ノ中繼	
自 浦和 川越	
至 上野、鴻巣、新町、古河、小山	
其他ハ從前ノ通リ	浦和取扱所

舊 名	稱	改正 名	稱
浦和 川越	浦和川越線	川越 浦和 浦和川越線	川越 浦和 浦和川越線
浦和 川越	浦和川越線	川越 浦和 浦和川越線	川越 浦和 浦和川越線

○公達第四百三拾八號十一月十三日

郵便電信局 郵便局

郵便心得第八十五條削除候條一月一日ト雖モ郵便受付及差立配達等平常ノ通取扱フ

郵便電信局 電信局

○公達第四百三拾九號十一月十三日

電信取扱所

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第五項及同第九條

附表中藤澤(取扱所)ノ次ニ平塚(取扱所)ヲ追加ス

郵便電信局 電信局

電信取扱所

平塚電信取扱所發著ノ電報中繼局ハ大磯同様心得ヘシ

郵便電信局 電信局

○公達第四百四拾壹號十一月十三日

電信取扱所

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第五項及同第九條

郵便電信局 電信局

附表小諸ノ次ニ岩村田及白田ヲ順次追加ス

電信取扱所

電信取扱所

岩村田及白田郵便電信局發著ノ電報中繼局及電信線名稱左ノ通相定ム

電 報 往 復 局 名	中 繼 局
自 岩村田及白田	小 諸
至 全國各局各取扱所	
回 線 接 續 局 名	線 名
小 諸 岩村田 白田	小 諸 白田電話線

○公達第四百四拾三號十一月十三日

郵便電信局 郵便局

清國北京宛郵便物ハ上海以外ノ遞送ハ清國郵政局ニ委託シ同局ニ於テ配達ノ際受取

人ヨリ遞送料取立候處右ニテハ受取人ニ於テ不便チ感候向モ有之趣ニ付今般便宜ノ爲メ告示第貳百拾六號ノ通り北京迄前拂ノ方法相設候得共右告示ニ心付カス從前ノ通心得候モ有之哉モ雖計候條該地宛郵便物ハ差出ノ際其便法有之旨ヲ示シ可成丈前拂スヘキ様差出人ヘ注意スヘシ

郵便電信局 電信局  
電信取扱所ハサレ取  
取所チ除

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第五項及同第九條附表申藤澤(取扱所)ノ上ニ戸塚(取扱所)ヲ追加ス

○公達第四百四拾五號十一月十九日  
郵便電信局 爲替チ取  
局チ除ク  
爲替チ取  
局チ除ク  
振替爲替受拂ハ本年公達第貳百六拾九號爲替貯金計算整理手續第二條ニ據リ爲替貯金出納帖(手紙)ハ爲替振出高及拂渡高ニ併算記載スルノ手續ニ有之處來ル十二月一日ヨリ右爲替ノ振出高ハ臨時受高トシ又拂渡高ハ臨時拂高トシテ記帳整理スヘシ

但振替爲替ニ係ル臨時受拂高ニ限リテハ特ニ「ア」號證明書ヲ付スルニ及ハス  
○公達第四百四拾六號十一月十九日  
郵便電信局 三等局  
チ除ク  
明治廿一年(三月)公達第拾五號郵便及電信支局會計例規中第十條及第十二條但書中會計局トアルチ外信局ト改ム

○公達第四百四拾七號十一月十九日  
郵便電信局 爲替チ取  
局チ除ク  
爲替チ取  
局チ除ク  
十八年八月元驛遞局甲第百八十八號ヲ以テ相定候爲替日附印自今左ノ難形通り改定但改定日附印ハ漸次交付スヘキ答ニ付追テ該印ヲ受領スル迄ハ從前ノ日附印ヲ使

難形 圓徑七分



○公達第四百四拾八號十一月廿二日  
郵便電信局 爲替チ取  
局チ除ク  
爲替チ取  
局チ除ク  
郵便爲替事務順序別册ノ通改定ス(別册ハ關係ノ局ニノミ願ツ)

○公達第四百四拾九號十一月廿二日  
郵便電信局 郵便局  
本年七月公達第貳百七拾壹號廢止ス  
一等郵便電信局

○公達第四百五拾壹號十一月二十二日  
大府名古屋間及大府武豐間  
小線路沿道  
郵便電信局 郵便局

大府名古屋間小線便鐵道遞送郵便物取扱方ハ大府武豐間小線路各局ト互ニ遞送スヘキ郵便物モ大府ニ手續ニ準據スヘシ

大府名古屋間小線路各局ト大府武豐間小線路各局ト互ニ遞送スヘキ郵便物モ大府ニ於テ双方接續スヘキ便ニ限リ名古屋武豐間ヲ通シテ前項ニ據ルヘシ  
○公達第四百五拾貳號十一月二十二日  
大府名古屋間及大府武豐間  
小線路沿道  
郵便電信局 郵便局

大府名古屋間小線便鐵道遞送郵便物ハ東京郵便電信局ノ鐵道郵便係員ヲシテ郵便車ニ乘込ミ取扱ハシム

○公達第四百五拾三號十一月二十二日

大府名古屋間小線路沿道 郵便電信局 郵便局

大府名古屋間小線便鐵道遞送郵便物締切行差立局及其名宛局ハ本年七月公達第六拾五號達ニ準據スヘシ

○公達第四百五拾四號十一月二十二日

郵便電信局 郵便局

本年七月公達第貳百六拾七號達ハ大府名古屋間小線便鐵道遞送郵便物遞送ノ節各停車場ノ郵便函ヨリ取出シタル郵便物ニ關シテモ亦々之ヲ適用ス

郵便電信局 電信局

電信取扱所ハ公共ノ通  
信ヲ取扱  
ハサル取  
扱所ヲ除  
ク

郵便電信局 電信局

戸塚電信取扱所發著ノ電報中繼局ハ大磯取扱所同様心得ヘシ

郵便電信局 電信局

○公達第四百五拾六號十一月二十二日  
明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得番附則第十條第四項定期電報ノ次(及)中央氣象臺トマニラトノ間ニ往復スル臨時電報)ノ二十二字ヲ挿入シ及同項但書ヲ左ノ通改正ス

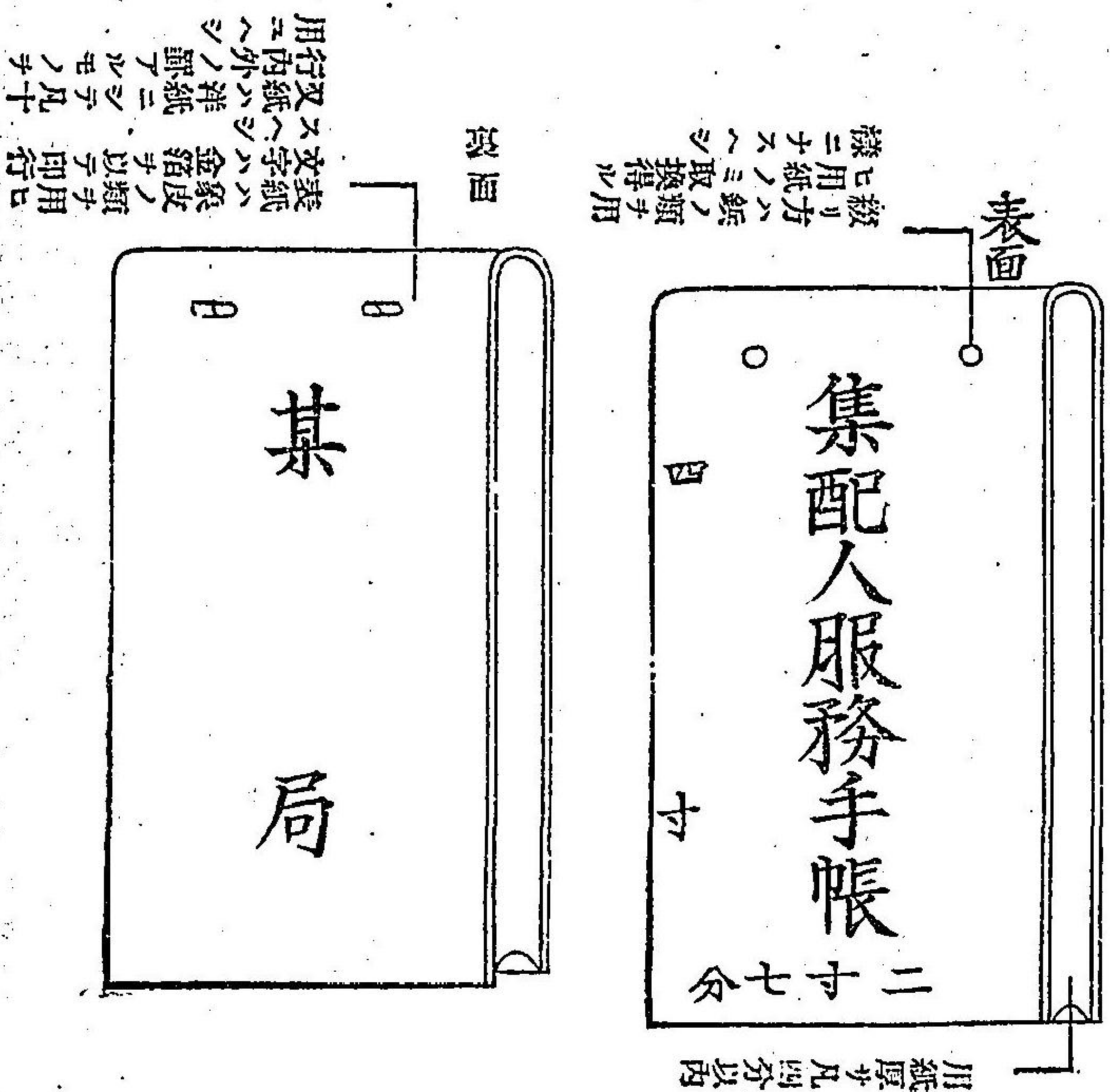
但香港及マニラニ往復スル氣象電報ト雖モ東京長崎間ハ和文ヲ以傳送ノ筈ニ付長崎局ニ於テハ香港及マニラ行并香港及マニラヨリ來リタル分ハ一旦同所測候所ニ配達スヘシ同所測候所ニ於テ翻譯ノ上差出タルトキハ尙本文ノ通取扱フヘシ

○公達第四百五拾七號十一月二十七日

郵便電信局 郵便局

一二等郵便電信局郵便局ニシテ多數ノ郵便物取扱フ局ニ在テハ集配人ニ服務手帳ヲ交付シ郵便物集配配達途中ニ係ル事故ニシテ復命スヘキ要件ヲ該手帳ニ登記セシム

ヘシ其手帳ノ様式ハ左圖ニ據リ自局經費ヲ以テ調製スヘシ  
但三等郵便電信局郵便局ニシテ本文手帳ヲ必用トスルトキハ其局經費ヲ以テ適宜調製携帶セシムルコトヲ得



手帳用紙ノ初丁ニ左ノ文字ヲ記載シ置クヘシ

手帳携帶及筆記心得

一此手帳ハ郵便物集配ノトキ必ス携帶シ集配中ニ起ル必用ノ事故ヲ筆記スルモノトス

一文字ハ成ルヘク細字ニシテ一行チ一課内ニ收メ且讀易キ様筆記スヘシ

一毀損又ハ紛遺失シタルトキハ速ニ届出ツヘシ

一筆記シテ餘白ナキニ至レハ當該局長ノ檢閱ヲ受ケ引替ヲ請フヘシ

一疎虞懈怠ニ依リ毀損又ハ紛遺失シタルトキハ其原價ヲ辨償セシムヘシ

○公達第四百五拾八號十一月二十七日 郵便電信局 郵便局 郵便取扱所

千葉縣地方約束郵便規則第一條第二節上段末項町村長ノ下ニ「町村吏員」ノ四字ヲ追加ス

○公達第四百五拾九號十一月二十七日 郵便電信局 三等局 郵便局 除ク

本年(八月)公達第三百拾貳號ヘ左ノ但書ヲ追加ス

但鐵道郵便掛員ヲ置キタル局ハ其掛員人員并俸給額ヲ朱書區別スヘシ

○公達第四百六拾號十一月二十七日 郵便電信局 郵便局

鐵道遞送郵便物塔載列車定期時刻ニ到着セサルトキハ汽車便持出持込ノ遞送人ヲシテ定期時刻ヨリ四時間迄待合サシムヘシ

前項待合セタル時間一時間ヲ超ユルトキハ(上下)二便併メテ持戻ルヘク規定シタル場所ニ在テハ後便ノ着時刻ヨリ起算ス(符合貨トシテ滿一時間ニ付金貳錢臨時經費ヲ以テ支給ス

但豫メ汽車延著ヲ知リタル場合ニ於テハ受渡方便宜取計フヘシ又直備遞送人ハ本

文待合貨ヲ支給セス

○公達第四百六拾壹號十一月二十七日 郵便電信局 郵便局

爲替及貯金事務ニ關スル書類差立方ノ義ニ付テハ本年(十月)公達第四百拾五號同第四百拾七號ノ趣モ有之候處左ニ記載スル書類ノ義モ自今並郵便ヲ以テ差立ツヘシ

一電信爲替ノ拂渡局ニ於テ其受取人ニ發スル「通知書」

一電信爲替ノ拂渡局ニ於テ爲替受取人ヨリ期限内爲替證書ノ受取方申出サルニ由リ振出局ニ廻送スル爲替證書

一布哇國在留本邦人ヨリ差出シタル爲替ニシテ其拂渡局ニ於テ受取人ニ發スル「ム」號通知書

一銀行爲替ノ便ニ依リ爲替超過金ヲ納付スル局ニ於テ納メ先ヘ納付スル金券

○公達第四百六拾貳號十一月二十七日 郵便電信局 電信局

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號逓局内心得書附則第二條第四項名古屋ノ下及同第九條附表半田ノ上ニ熱田ヲ追加ス

○公達第四百六拾三號十一月二十七日 郵便電信局 三等局及三等原島 郵便局 除ク

本年公達第三百七拾壹號物品出納規程第七條ニ依リ各種物品ノ品目別表ノ通規程ス但別表ハ別ニ頒ツ

常用物品ノ品質及數量制限ハ追テ規程候迄本年三月公達第六拾五號常用物品規程ニ據ルヘシ

○公達第四百六拾四號十一月二十七日 郵便電信局 三等局及三等原島 郵便局 除ク

加

二十三年公達第七號ヲ以テ改正追

加

二十四年公達第四十一號ヲ以テ更正追加

公達

明治廿二年

第四百六十二號至第四百六十四號

七百十一

本年九月公達第三百七拾壹號物品出納規程中第壹號及第貳號書式備考第一項へ左ノ但書ヲ追加ス

第壹號書式備考

但數人ヨリ同種類ノ物品ヲ一時ニ納入スルトキハ其品目毎ニ數量ヲ合計シ集合命令書(納先ノ欄内へ何某外何人ト記載シ)ヲ發行スルモ妨ケナシ

第貳號書式備考

但數人へ同種類ノ物品ヲ一時ニ拂出ストキハ其品目毎ニ數量ヲ合計シ集合命令書(渡先ノ欄内へ何某外何人ト記載シ)ヲ發行スルモ妨ケナシ

○公達第四百六拾五號十一月三十日

郵便電信局

郵便局

明治二十二年(五月)公達第百六拾八號貯金再度通帳交付順序中左ノ通り改正删除ス

名稱ヲ貯金再度通帳發行順序ト改ム

第四條第六條ヲ删除ス

第二條第五條ヲ左ノ如ク改ム

第二條 再度通帳ノ發付ヲ要スルトキハ爲替貯金局ハ其通知書(甲號雜形報告用紙連總)ト預金計算書(乙號雜形)トヲ調製シ尙郵便條例第百九十四條ニ由ルモノハ再度通帳請求書ヲ添ヘ之ヲ郵便局又ハ貯金預所ニ廻付シ且請求人へハ其旨ノ告知書(丙號雜形)ヲ送付スヘシ

第五條 再度通帳ハ貯金通帳取扱手續ニ從テ請求人ニ交付スルモノトス  
通帳交付濟ノ上ハ同時ニ通知書相當ノ位置ニ通帳交付當日ノ日附印ヲ捺シテ之ヲ保存シ懸ニ爲替貯金局ヨリ廻送セル再度通帳請求書ハ之ヲ爲替貯金局ニ返送スヘシ

○公達第四百六拾六號十一月三十日

郵便電信局

郵便局

二十三年公達第四百四十九號ニ依リ

消滅

郵便貯金預所

貯金通帳取扱手續左ノ通改正ス  
但爲替貯金局又ハ其出張所ヨリ拂戻書類ニ目錄書ヲ添ヘ發送スル件ハ本年十二月十六日ヨリ施行ス

貯金通帳取扱手續

第一條 郵便電信局郵便貯金預所ニ於テ貯金預ケ人ヨリ貯金通帳ノ利子記入、再度下付、移轉引換、檢閱、拂戻等ノ爲メ爲替貯金局又ハ其出張所へ差出方ノ申出ヲ受ケタルトキ及之レ等ノ通帳ヲ預ケ人ニ交付スルトキハ此手續ニ從テ取扱フヘシ

第二條 貯金通帳ヲ受取リタルトキハ左ノ通帳受取證明紙ニ式ノ如ク記載シ日附印及取扱主任者ノ印ヲ捺シ且番號ヲ附シ(拂戻通帳ノ受取證明書ニハ番號ヲ要セス)之ヲ預ケ人ニ交付スヘシ

貯第六號甲用紙

貯第六號乙用紙

第三條 前條受取證明書ヲ交付シタルトキハ適宜ノ帳簿ニ請求ノ種別預ケ人ノ氏名通帳記番號并ニ受取證明書ニ番號アルモノハ其番號等ヲ記入スヘシ

第四條 利子記入、再度下付、移轉引換、檢閱ノ爲メ差出ス通帳ニハ表面左方ノ上部ニ附箋用紙ヲ貼附シ之レニ受取證明書ト同一ノ番號并ニ請求ノ種別ヲ記載シ且日附印及取扱主任者ノ印ヲ捺スヘシ

第五條 毎日事務ノ終リニ其日ニ受取リタル總テノ通帳ヲ取纏メ通帳添書(貯第七九號)ニ通帳記番號預ケ人氏名請求ノ種別等式ノ如ク記載シ日附印ヲ捺シ之ヲ通帳ニ添付シ左ノ區別ニ從テ差立ツヘシ

但添書ニハ番號ヲ記スヘシ(番號ハ爲替貯金局及各出張所毎ニ區別シ且毎年改ムルモノトス)若シ一日ニ二枚以上アルトキハ毎紙同一ノ番號ヲ記シ且其内ノ一枚へ當日差出スヘキ總枚數ヲ加記スヘシ

一 爲替貯金局受持區内ニテ渡セシ通帳ハ 爲替貯金局  
 一 爲替貯金局出張所受持區内ニテ渡セシ通帳ハ 爲替貯金局出張所  
 第六條 爲替貯金局又ハ其出張所ニ於テ利子記入檢閱ノ爲メ差出シタル通帳ノ調査  
 ナリタルトキハ預ケ人ニ對シ通帳調査済通達書(貯第八一號)ヲ送付シ通帳ハ送達  
 書(貯第八〇號)ヲ添ヘ經由局所ヘ廻付スヘキニ依リ經由局所ニ於テハ之レヲ送達書  
 ニ引合セ受取置預ケ人受取方申出タルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ  
 一 通帳受取證書ニ通達書ヲ添ヘ差出サセ受取證書ノ番號及日附印主任印等ヲ附  
 箋用紙ニ對照シ尙通達書ノ正否ヲモ検査スヘシ  
 二 右相違ナシト認ムルトキハ通帳ノ附箋ヲ剥取り該通帳ヲ預ケ人ニ交付スヘシ  
 第七條 再度通帳發行順序(明治二十二年五月公達第百六十八號同十一月公達第四百  
 六十五號參看)ニ據リテ調製シタル通帳ハ其調製ノ局所ニ於テ預ケ人受取方申出タ  
 ルトキ左ノ手續ヲ爲スヘシ  
 一 再度下付移轉引換等ニ由ルモノハ通帳受取證書ニ再度通帳下渡告知書(再度通  
 帳發行順序ニ從ヒ爲替貯金局又ハ其出張所ヨリ預ケ人ヘ送達シタル貯第三八號)  
 ヲ添ヘ差出サセ受取證書ノ番號及日附印主任印等ヲ附箋用紙ニ對照シ尙告知書  
 ノ正否ヲモ検査スヘシ  
 二 郵便條例第百九十四條ニ由ルモノハ再度通帳下渡告知書ヲ差出サセ其相當ノ  
 位置ニ通帳受領ノ證トシテ記名調印セシメ其宿所印章等ヲ再度通帳請求書(再度  
 通帳發行順序ニ從ヒ爲替貯金局又ハ其出張所ヨリ發行局所ヘ廻送シタル預ケ人  
 ノ請求書)ニ對照スヘシ  
 三 右相違ナシト認ムルトキハ該通帳ヲ預ケ人ニ交付スヘシ  
 但再度通帳ヲ交付スルトキハ預ケ人ニ族籍住所職業氏名ヲ通帳表面ニ記入ス  
 ヘキ旨ヲ示スヘシ  
 第八條 爲替貯金局又ハ其出張所ニ於テ貯金拂戻ノ手續ヲ了リタルトキハ其書類及

通帳アルモノハ其通帳トモ目錄書ヲ添ヘ拂渡局所ヘ廻付スヘキニ依リ拂渡局所ニ  
 於テハ之ヲ目錄書ニ引合セ受取置拂戻人受取方申出タルトキハ成規ノ手續ヲ爲シ  
 (事務順序第十八條以下見合セ)拂戻金ト共ニ該通帳ヲ交付スヘシ  
 第九條 受取人第六條及第七條第一項及第八條ノ場合ニ於テ通帳受取證書又第七條  
 第二項ノ場合ニ於テ告知書ヲ差出ス能ハサルカ或ハ汚疵毀損ノ爲メ其正否ヲ看別  
 シ難キトキハ左項ニ從テ處理スヘシ  
 但第七條第一項ニ該當スルモノニシテ受取證書ヲ所持シ告知書ノミ本文ノ事故  
 アルモノハ第十一條ニ準據スヘシ  
 一 受取人ヨリ事由書ヲ徴シ其宿所及印章ヲ通帳又ハ再度通帳請求書又ハ拂戻願  
 書等ニ照シテ検査シ相違ナキトキハ通帳ヲ交付スヘシ  
 但見合印鑑ナキ爲メ印章ヲ調査シ能ハサルトキハ爲替貯金局又ハ其出張所ニ  
 事由書ヲ廻送シ印章ノ突合セヲ要ムヘシ  
 二 事由書ノ宿所第一項ノ書類ト符合セザルトキハ其事實ヲ糾シ尙新舊宿所ヲ取  
 調フル等相當ノ調査ヲ送ケ本人ニ相違ナシト認ムルトキハ通帳ヲ交付スヘシ  
 三 事由書ノ印章第一項ノ書類ト符合セザルキハ其事實ヲ糾シ尙舊印鑑又ハ貯金  
 領收通知書ヲ差出サシムル等相當ノ調査ヲ送ケ本人ニ相違ナシト認ムルトキハ通  
 帳ヲ交付スヘシ  
 四 事由書ノ宿所印章第一項ノ書類ト符合セザルカ又ハ見合印鑑ナキ爲メ印章ヲ  
 調査シ能ハサル場合ト雖モ其受取人正當本人ニ相違ナキカ若クハ身元確實ノモ  
 ノヨリ辨償責任ヲ明記シタル保證書ヲ差出スニ於テハ第一項但書及第二項第三  
 項ノ手續ヲ爲スニ及ハス通帳ヲ交付スヘシ  
 五 前第二項第三項ノ場合ニ於テ本人ト認ムルノ證憑ヲ得ス又ハ確實ナル保證人  
 ヲ立ツル能ハサルトキハ預ケ人住居地ノ市町村役場(區ハ區役所)ニ事由書ヲ廻送  
 シ印章ノ突合セヲ要ムル等其他尙充分取調ヲ悉クシタル上通帳ヲ交付スヘシ

第十條 第七條第二項ニ該當スルモノニシテ告知書ノ宿所印章再度通帳請求書ト符  
合セサルトキハ受取人ヨリ事由書ヲ徴シ第九條第四項第五項ニ從テ處理スヘシ

第十一條 受取人通帳調査通達書ヲ差出ス能ハサルカ或ハ汚損毀損ノ爲メ其正否  
ヲ看別シ難キトキハ事由書ヲ徴シ相當ノ調査ヲ送ク通帳ヲ交付スヘシ  
但通達書不達ノ旨ヲ以テ之ヲ差出サ、ルトキ亦同シ

第十二條 貯金金額ノ拂戻ニシテ其拂渡ニ臨ミ受取人通帳受取證書ヲ差出ス能ハサ  
ルカ或ハ汚損毀損ノ爲メ其正否ヲ看別シ難キトキハ第九條ニ準據シ處理スヘシ

第十三條 通帳又ハ拂戻金ノ交付ヲ了リタルトキハ第三條ノ帳簿へ通帳又ハ拂戻金  
交付済ノ月日ヲ記入スヘシ  
但拂戻又ハ再度通帳請求ノ際他ノ局所ヲ經由セルモノ及郵便條例第九十四條  
ニ由リ再度通帳ヲ發行セルモノハ本條ノ場合ニ於テ更ニ第三條ノ帳簿へ預ケ人  
氏名通帳記號番號等ヲ記載スヘシ

通帳又ハ拂戻金交付済ノ受取證書及通達書告知書ニ日附印ヲ捺シ其交付済ノ證ト  
ナスヘシ

第十四條 爲替貯金局又ハ其出張所ヨリ通帳又ハ拂戻書類到達ノ場合ニ於テ左ニ記  
載スル事故アルトキハ直ニ爲替貯金局又ハ其出張所ニ照會スヘシ

- 一 通帳ノ員數送達書ニ記載シタル員數ト符合セサルトキ
- 二 拂戻書類及内拂ニ係ル通帳ノ員數目録書ニ記載シタル員數ト符合セサルトキ
- 三 通帳在中ノ表記アル書狀ニ通帳封入アラサルトキ
- 四 通帳封入ノ書狀ニ送達書又ハ目録書封入アラサルトキ
- 五 送達書又ハ目録書ノ數字ヲ改竄シ其他疑ハシキ形跡アルトキ

第十五條 通帳又ハ拂戻書類到達ノ後又ハ再度通帳調製ノ後十日ヲ過キ預ケ人受取  
方申出サルトキハ本人ニ督促シ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 前各條ニ記載シタル帳簿及書類ハ適宜整理シ左ノ年限ニ從ヒ保存スヘシ

一 帳簿ハ  
一 通帳交付済ニ係ル諸書類ハ  
○公達第四百六拾七號十一月三十日  
滿三年以上  
滿一年以上  
郵便電信局 郵便局  
郵便貯金預所

貯第三十八號用紙及貯第八拾壹號用紙左ノ通改正ス  
但當分ノ内從前ノ用紙ニ訂正ヲ加ヘ使用スルコトアルヘシ

表 (通ノ前從ハ面裏)

再度通帳下渡告知書	
其許再度通帳下渡方 及通知置候條左ノ奥書ノ部ニ宿所及氏名ヲ記載シ調印ノ上速 ニ同ヘ差出シ之ト引換ニ該通帳ヲ受領スヘシ 但通帳ノ受取證書ヲ所持スル者ハ再度通帳受領ノ際其受取 證書ヲ返納スヘシ受取證書ヲ返納スル者ハ左ノ奥書ノ部ニ 受領證印ヲナスニ及ハス	
印附日	逓信省爲替貯金局
右再度通帳本日正ニ受領致候也	
明治 年 月 日	
貯第三十八號	

貯金通帳調査通達書  
其許貯金通帳調査了ニ付發ニ通帳ノ受取證書ヲ交付シタル



面 (裏面ハ從前ノ通)  
局所へ及廻送置候條速ニ同局所ニ出頭シ該受取證書及此通達書ヲ差出シ之ト引換ニ通帳ヲ受領ス可シ

印附日

貯第八一號

逓信省

爲替貯金局

郵便電信局 電信局

○公達第四百六十八號十一月三十日  
電氣通信技術傳習生養成規則左ノ通相定ム

但明治二十一年(七月)公達第五百拾六號電信技術傳習生取扱概則ハ廢止ス

電氣通信技術傳習生養成規則

- 第一條 電氣通信技術傳習生ハ一二等郵便電信局電信局ノ電氣通信助手若クハ三等郵便電信局電信局ノ技術員ニ採用スル目的ヲ以テ養成スルモノトス
- 第二條 電氣通信技術傳習生タルモノハ終業ノ後二ケ年間逓信省ノ電信業務ニ従事スルノ義務アルモノトス
- 第三條 電氣通信技術傳習生ハ東京電信學校若クハ便宜ノ一二等郵便電信局電信局ニ於テ養成スルモノトス
- 第四條 郵便電信局又ハ電信局ニ於テ電氣通信技術傳習生ヲ養成スルノ必要アルトキハ東京電信學校長ヲシテ其郵便電信局長又ハ電信局長ニ養成スヘキ人員ヲ通知セシムルモノトス
- 第五條 東京電信學校ニ於テ電氣通信技術傳習生ヲ養成スルノ必要アルトキ及郵便電信局長又ハ電信局長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其地ニ於テ電氣通信技術傳習生志願者ヲ徵募スヘシ但技術員トナスヘキ傳習生志願者ハ其之ヲ技術員トシテ採用スヘキ三等郵便電信局長又ハ電信局長若クハ其局長トナルヘキ被選者ヲシテ徵募セシムヘシ

第六條 電氣通信技術傳習生トナスヲ得ヘキモノハ左ノ各款ニ合格シ二週間以上試

ニ通信技術ヲ修メシメ成業ノ見込アルモノニ限ル

第一款 通信助手トナスヘキ傳習生ニアリテハ滿十三年以上技術員トナスヘキ傳習生ニ在リテハ滿十五年以上二十二年以下ノ男子

第二款 身軀強健視力聽力完全ナルモノ

第三款 品行方正ナルモノ

第四款 學科試驗ニ及第シタルモノ

第七條 左ノ各款ニ觸ル、者ハ電氣通信技術傳習生トナスコトヲ得ス

第一款 故意ヲ以テ郵便又ハ電信ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルモノ

第二款 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ附セラレ或ハ賭博犯ニヨリ懲罰ノ處分ヲ受ケタルモノ

第三款 懲戒ニヨリ免官トナリ二ケ年ヲ經過セサルモノ

第四款 身代限ノ處分ヲ受ケ賃償ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

第八條 電氣通信技術傳習生志願者アル時ハ身元引受人ト連署シタル志願書(第一號書式)ニ履歷書(第二號書式)ヲ添ヘ差出サシムヘシ

第九條 電氣通信技術傳習生志願者試驗期日及其手續非試驗及落第ハ東京電信學校長又ハ郵便電信局長又ハ電信局長之ヲ定ムヘシ

第十條 電氣通信技術傳習生志願者ノ入學試驗科目及程度左ノ如シ

- 一作 文 普通往復文
- 一筆 蹟 楷行書
- 一英 語 讀方及綴字
- 一算 術(珠算又ハ筆算) 四則
- 一讀 書 電信法規

第十一條 電氣通信技術傳習生トシテ入學ヲ許可セントスルトキハ身元引受人ト連

署シタル警約書(第三號書式)ヲ差出サシムヘシ

第十二條 郵便電信局長又ハ電信局長電氣通信技術傳習生ノ入學ヲ許可シタルトキ

ハ其族籍氏名年齢ヲ東京電信學校長ニ報告スヘシ

第十三條 郵便電信局長又ハ電信局長ハ其局電氣通信技術官ヲシテ電氣通信技術傳

習生ヲ傳習セシメ之ヲ監督スヘシ但事務ノ都合ニ依リ局長自ラ傳習スルヲ得

第十四條 電氣通信技術傳習生傳習ノ科目左ノ如シ但英文讀方及習字ニ習熟スルト

キハ必スシモ之カ傳習ヲ要セス

一電氣通信技術

一電信法規

一電信器械取附及調度ノ概略

一英文讀方及習字

第十五條 電氣通信技術傳習生終業期限ハ入學ノ時ヨリ六ヶ月トシ一週傳習時間ハ

二十四時トス但時宜ニヨリ終業期限ヲ伸縮シ又ハ傳習時間ヲ増減セシムルコトア

ルヘシ

第十六條 電氣通信技術傳習生ニハ都テ授業料ヲ課セス課業用ノ筆墨紙ハ現品ヲ以

テ給與シ其他書籍器械物品ハ之ヲ貸與スヘシ

北海道地方ニ在テハ傳習中ハ尙一日金拾錢ヲ給與スヘシ

第十七條 電氣通信技術傳習生左ノ各款ニ觸ルハトキハ退學ヲ命スヘシ

第一款 第七條第一款第二款第四款ニ觸レタルトキ

第二款 品行不良又ハ怠惰ニシテ矯正ノ見込ナキトキ

第三款 終業試験ニ於テ落第シ第二十八條ニ據リ復修セシメサルトキ

第四款 傷疾疾病ニ罹リ終業ノ見込ナキトキ

第十八條 電氣通信技術傳習生養成中及第二條ニ掲クル電信業務ニ従事スヘキ期限

中ハ退學又ハ辭職セシムルコトヲ得ス但不得止事故アリテ退學又ハ辭職セント欲

スルモノアルトキハ其事由ヲ詳悉シ身元引受人連署證明シタル願書ヲ差出サセ情

狀ニヨリ許可スルコトヲ得

第十九條 第十七條ニ依リ退學ヲ命シ又ハ第十八條但書ニ依リ退學ヲ許可シ又ハ死

亡シタルトキハ當該郵便電信局長又ハ電信局長ヨリ其氏名及事由ヲ東京電信學校

長ニ報告スヘシ

第二十條 第十八條但書ノ事由ニ依リ退學又ハ辭職ヲ許ストキ又ハ第十七條第一款

乃至第三款ニ觸レ退學ヲ命シ又ハ第二條ニ掲クル電信業務ニ従事スヘキ期限中懲

戒ニ依リ職ヲ免シタルトキハ養成中ニ係ル學費一ヶ月金七拾五錢ノ割ヲ以テ身元

引受人ヲシテ償納セシムヘシ但北海道地方ニ於テ養成シタルモノハ尙第十六條ニ

依リ給與シタル金額ヲ償納セシムヘシ

第二十一條 電氣通信技術傳習生ノ身元引受人タルモノハ丁年以上ノ男子ニシテ土

地又ハ家屋ヲ所有シ及電氣通信技術傳習生志願者徵募地又ハ其近傍ニ居住スルモ

ノニシテ第七條ノ各款ニ觸レサルモノニ限ルヘシ

第二十二條 電氣通信技術傳習生ノ身元引受人左ノ各款ニ觸ルハトキハ之ヲ改選セ

シムヘシ

第一款 第七條各款ニ觸レタルトキ

第二款 土地又ハ家屋ヲ失ヒタルトキ

第三款 電氣通信技術傳習生志願者徵募地又ハ其近傍ニアラサル地ニ轉居シタル

トキ

第四款 逃亡又ハ死亡シタルトキ

第二十三條 電氣通信技術傳習生修業期限ニ達シタルトキハ郵便電信局長又ハ電信

局長自試験主任トナリ其局技術官一名若クハ二名立合ノ上修業試験ヲ執行スヘシ

但東京電信學校ニ於テ修業試験ヲ執行スルトキハ同校長便宜其手續ヲ定ムヘシ

第二十四條 修業試験ノ方法左ノ如シ

一和文電報送信 時間五分  
 賴信紙ニ名所本文共片假名凡百五十字并其額表ニ種別其他書式ノ如ク記載シ  
 之ヲ送信セシムルモノトス

一和文電報受信 時間五分  
 賴信紙ニ名所本文共片假名凡百五十字并其額表ニ種別其他書式ノ如ク記載シ  
 試驗立會人之ヲ送り受信セシムルモノトス

一英文電報送信 時間五分  
 賴信紙ニ名所本文共凡三十語并其額表ニ種別其他書式ノ如ク記載シ之ヲ送信  
 セシムルモノトス

一英文電報受信 時間五分  
 賴信紙ニ名所本文共凡三十語并其額表ニ種別其他書式ノ如ク記載シ試驗立會  
 人之ヲ送り受信セシムルモノトス

一電信法規問題 時間凡一時  
 電信法規中ニツキ凡三問題ヲ提出シ之カ答文ヲ筆記セシムルモノトス

一通信器械取附及調度  
 實地ニツキ概略ヲ取扱ハシムルモノトス

第二十五條 試驗主任及立會人ハ前條試驗ノ成績ニ據リ及落第ヲ評決スヘシ  
 郵便電信局長又ハ電信局長ハ試驗成績書類ヲ添ヘ評決ノ趣ヲ東京電信學校長ニ報  
 告スヘシ

第二十六條 東京電信學校長ハ前條ノ報告ニ依リ評決ノ當否ヲ調査シ更ニ及落第ヲ  
 鑑別シ其結果ヲ當該郵便電信局長又ハ電信局長ニ通知スヘシ

第二十七條 東京電信學校長ハ該校ニ於テ養成シタルモノト否ラサルモノトヲ問ハ  
 ス及第者ニハ電氣通信技術修業證書ヲ付與スヘシ但郵便電信局長又ハ電信局長ニ於テ  
 養成シタルモノニハ該局長ヲ經テ之ヲ付與スヘシ

第二十八條 東京電信學校長郵便電信局長電信局長ハ成業ノ見込アルモノニ限リ一  
 タヒ落第シタル者ヲシテ更ニ相當ノ日數間復修セシメタル後再ヒ修業試驗ヲ執行  
 スルコトヲ得但復修日數六十日ヲ超ユルヲ得ス

第二十九條 郵便電信局長又ハ電信局長ニ於テ修業試驗ヲ執行シ及第ト評決シタルモノ  
 ハ直ニ實地練習ノ爲メ電氣通信ニ從事セシメ其他ノモノニハ傳習科業ヲ温習セシ  
 メ置クヘシ

(第一號書式) 電氣通信技術傳習生志願書

道廳何府縣何國何市郡區何町村  
 何番地住又ハ何某方同居又ハ寄留)  
 戶主又ハ戶主何某長次男等  
 華士族又ハ平民  
 何 某

生年月日  
 右  
 何 某印

私議電氣通信技術傳習生志願ニ付御試驗ノ上入學御許可成被下度尤入學御許可ノ上  
 ハ御規則ノ通り更ニ誓約書差出可申履歷書相添ヘ身元引受人連署此段奉願候也

東京電信學校

(又ハ何郵便電信局)

御中

(第二號書式)

履歷書

北海道廳何府縣華士族平民

何

生年月日 某

本籍

一北海道廳何府縣何市郡區何町村何番地戸主又ハ何某兄弟等現ニ本籍地ニ居住ス  
ルトキハ本項中ニ現今本地ニ居住ノ旨ヲ加記スヘシ

現今寄留地

一北海道廳何府縣何市郡區何町村何番地(何某方)寄留

學術技藝

一何年何月ヨリ何地何業ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至  
ル所修ノ科目何々

一何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス所修ノ科  
目大略何々

官位職業

一何年何月何地何學校(何々)ニ於テ何々ノ試験ヲ受ケ及第ス其受驗ノ科目何々

一何年何月何地官公私立何學校何科教員トナリ(月給何圓)教授ニ從事シ何年何月解職  
其間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ從事ス其間俸給ノ増減

一何年何月何官廳ニ於テ何々(月給又ハ日給何圓)拜命何年何月マテ何々ノ事務ニ從事  
シ何年何月解職

一何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何年何月免官

是レハ依願ニアラスシテ免官トナリタルモノヲ云フ其免官ニ至リタルマテノ手續  
ヲ此所ニ詳記スヘシ

一何年何月何位(勤何等)ニ叙セラレ

一何年何月ヨリ何地何會社ニ雇ハシ(月給何圓)何々ノ業務ニ從事シ何年何月ニ至テ解  
雇其間俸給ノ増減

一何年何月ヨリ何年何月マテ何業ニ從事ス

一何年何月ヨリ何々ノ著譯ニ從事シ何年何月ニ至ル其著譯スル所ノ書名左ノ如シ  
著譯書名ヲ掲ク

賞罰

一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ何々ノ賞ヲ受ク

一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ何々ノ罰ヲ受ク(又ハ罰ヲ罰ヲ受ケタルコト  
ナシ)

裁判所ノ宣告書ハ其要ヲ記スヘシ都テ受罰ハ其受罰ノ日數科料罰金額等ヲ詳  
記スヘシ

一何年何月何地ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ケシモ何年何月負債ノ辨償ヲ終ヘタリ(又ハ  
身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ)

右ノ通相違無之候也

年 月 日

右

何

某印

(第三號書式)

誓約書

肩書書願書ニ同シ

何

某

右者今般志願ノ通り電氣通信技術傳習生トシテ入學御許可相成候ニ付テハ御規則相

守り可申ハ勿論修業ノ上ハ二ケ年間遞信省ノ電信業務ニ從事シ何レノ地ヘ在勤ヲ命  
セラレ候トモ決シテ異議申出間敷候若シ不得止事故ニ依リ退學又ハ辭職願出ルカ若  
クハ退學又ハ免職セラレ候節ハ身元引受人ニ於テ御規則ノ通學費金償納可致候依テ  
身元引受人連署誓約如斯候也

年月日

右

何

某印

肩書志願書ニ同シ

右身元引受人

何

某印

東京電信學校  
(又ハ何郵便電信局)

御申

郵便電信局三等局電信局三等局  
ヲ除ク

○公達第四百六拾九號十一月三十日

電氣通信助手採用規則左ノ通相定ム

電氣通信助手採用規則

第一條 一二等郵便電信局長又ハ電信局長ハ其局電氣通信助手ノ從事スヘキ職務ヲ  
補助セシムル爲メ此規則及別ニ定ムル人員ニ依リ本省ノ認可ヲ得テ電氣通信助手  
ヲ採用スヘシ

第二條 電氣通信助手ノ身分ハ傭員トス

第三條 電氣通信助手ニ採用スヘキモノハ東京電信學校長ノ付與シタル電氣通信技  
術修業證書ヲ有スルモノ又ハ遞信省ノ電氣通信技術官タリシモノ又ハ電氣通信技  
術傳習生養成規則ニ依リ電氣通信技術修業證書ヲ付與スヘキ者ノ學術程度ト同等  
以上ノモノニシテ左ノ各款ニ觸レサルモノニ限ルヘシ

第一款 故意ヲ以テ郵便又ハ電信ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルモノ  
第二款 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ附セラレ或ハ賭博犯ニヨリ懲罰ノ處  
分ヲ受ケタルモノ

第三款 懲戒ニ依リ免官トナリ二箇年ヲ經過セサルモノ

第四款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

第四條 電氣通信助手ヲ採用セントスルトキハ其本人ヨリ履歷書(第一號書式)及身元  
保證書(第二號書式)ヲ徵スヘシ但東京電信學校長ヨリ電氣通信技術修業證書ヲ付與  
シタルモノヲ直ニ採用スルトキハ身元保證書ヲ徵スルノ限ニアラス

第五條 電氣通信助手ノ身元保證人トナスヘキモノハ丁年以上ノ男子ニシテ土地又  
ハ家屋ヲ所有シ第三條各款ニ觸レサルモノニ限ルヘシ

第六條 電氣通信助手採用ノ認可ヲ本省ニ請フトキハ其書面ニ履歷書ヲ添付スヘシ  
第七條 左ニ掲ケルモノヲ採用セントスルトキハ電氣通信技術傳習生養成規則ノ終  
業試驗方法ニ依リ試験ヲナシ採用ノ認可ヲ請フトキ其試験成績書類ヲ添付スヘシ

一東京電信學校長ノ付與スヘキ電氣通信技術終業證書ヲ有セサルモノ  
二東京電信學校長ノ付與シタル電氣通信技術終業證書ヲ有シ又ハ遞信省ノ電氣通  
信技術官タリシモノ採用ノ時マテ三箇年以上ノ間遞信省ノ電信業務ニ從事セサル  
モノ

第八條 電氣通信助手ヲ命免黜陟シタルトキハ本省ニ其旨ヲ届出ヘシ  
(第一號書式)

履歷書

北海道廳何府縣華士族平民

何

某

生年月日

本籍

一 北海道廳何府縣何市郡區何町村何番地戶主又ハ何某兄弟等現ニ本籍地ニ居住ス  
 ルトキハ本項中ニ現今本地ニ居住ノ旨ヲ加記スヘシ

一 北海道廳何府縣何市郡區何町村何番地(何某方)寄留  
 學術技藝

一 何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官立私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至  
 ル所修ノ科目何々

一 何年何月ヨリ何地官立私立何學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス所修ノ科  
 目大略何々

一 何年何月何地何學校(何々)ニ於テ何々ノ試験ヲ受ケ及第ス其受験ノ科目何々

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何々所ニ於テ電氣通信技術ノ教授ヲ受ケ何年何月何日  
 電氣通信技術終業證書ヲ得(此ニ其證書ノ全文ヲ掲記スヘシ)

官位職業

一 何年何月何地官公私立何學校何科教員トナリ(月給何圓)教授ニ從事シ何年何月解職  
 其間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ從事ス其間俸給ノ増減

一 何年何月何官廳ニ於テ何々(月給又ハ日給何圓)拜命何年何月マテ何々ノ事務ニ從事  
 シ何年何月解職

一 何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何年何月免官  
 是レハ依願ニアラスシテ免官トナリタルモノヲ云フ其免官ニ至リタルマテノ手  
 續ヲ此所ニ詳記スヘシ

一 何年何月何位(勤何等)ニ叙セララル

一 何年何月ヨリ何地何會社ニ雇ハレ(月給何圓)何々ノ業務ニ從事シ何年何月ニ至テ解  
 雇其間俸給ノ増減

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何業ニ從事ス

一 何年何月ヨリ何々ノ著譯ニ從事シ何年何月ニ至ル其著譯スル所ノ書名左ノ如シ  
 著譯書名ヲ掲ケ

賞 罰

一 何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ何々ノ賞ヲ受ケ

一 何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ何々ノ罰ヲ受ケ(又ハ曾テ罰ヲ受ケタルコト  
 ナシ)

裁判所ノ宣告書ハ其要ヲ記スヘシ都テ受罰ハ其受罰ノ日數科料罰金額等ヲ詳記  
 スヘシ

一 何年何月何地ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ケシモ何年何月負債ノ辨償ヲ終ヘタリ(又ハ  
 身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ)

右之通相違無之候也

年 月 日 右 何 某印

(第二號書式) 身元保證書

道廳何府縣何國何市郡區何町村何  
 番地住(又ハ何某方同居又ハ寄留)戶  
 主(又ハ戶主何某長次男等)  
 華士族又ハ平民 何 某  
 生年月日

右ハ本人履歷書ニ記載有之候通り何年何月電氣通信技術修業何年何月マテ何局技術  
 員奉職(又ハ何年何月ヨリ何年何月マテ遞信省ニ於テ電氣通信技術官又ハ何局電氣通  
 信助手奉職又ハ何官廳又ハ何社ニ於テ電氣通信技術ニ從事品行方正ニシテ電氣通信

助手採用規則第三條各款ニ觸レサルモノニ有之候間御局電氣通信助手ニ御採用ノ上  
ハ御用辨可相成ト確信仕候依テ本人身上ノ儀私ニ於テ保證仕候也

道廳何府縣何國何市郡區町村何番  
地住

華士族又ハ平民

身元保證人 何 某印

年月日 何地郵便電信局 御 申

○公達第四百七拾號十一月三十日

郵便電信局三等局 電信局三等局  
電氣通信助手給料規則左ノ通相定ム

二十三年公達第四  
百六十二號ヲ以テ  
改正

電氣通信助手給料規則

第一條 電氣通信助手ノ俸給ハ月額金五圓以上拾貳圓以下トス  
但北海道地方ニ在テハ月額金拾五圓マテ支給スルコトヲ得

第二條 初メテ採用スル電氣通信助手ノ俸給ハ月額金七圓以内トス但北海道地方ニ  
在テハ月額金八圓マテ支給スルコトヲ得

第三條 電氣通信助手ノ俸給ヲ増サントスルトキハ本省ノ認可ヲ請フヘシ

第四條 初メテ採用シタルトキノ俸給額并増給シタルトキノ年月日ハ其時々本省ニ  
報告スヘシ

第五條 三等郵便電信局電信局ニ電氣通信助手ヲシテ在勤セシメタルトキ其俸給文  
具料及賄料ハ之カ在勤ヲ命シタル一等二等郵便電信局又ハ電信局經費ヲ以テ支辨  
スヘシ

○公達第四百七拾壹號十一月三十日 郵便電信局 電信局  
三等郵便電信局電信局技術員採用規則左ノ通り相定ム  
但明二十一年六月公達第百三拾七號三等電信局技術員採用規則ヲ廢止ス

二十四年公達第四  
百三十九號ヲ以テ  
改正

第一條 三等郵便電信局電信局技術員採用規則  
省ノ許可ヲ得テ採用スヘシ

第二條 三等郵便電信局電信局技術員ニ採用スヘキモノハ東京電信學校長ノ付與シ  
タル電氣通信技術終業證書ヲ有スルモノ又ハ遞信省ノ電氣通信技術官タリシモノ  
又ハ電氣通信技術傳習生養成規則ニ依リ電氣通信技術終業證書ヲ付與スヘキモノ  
學術程度ト同等以上ノモノニシテ左ノ各款ニ觸レサルモノニ限ルヘシ

第一款 故意ヲ以テ郵便又ハ電信ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルモノ  
第二款 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ或ハ賭博犯ニヨリ懲罰ノ處  
分ヲ受ケタルモノ

第三款 懲戒ニ依リ免官トナリ二ケ年ヲ經過セサルモノ  
第四款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

第三條 三等郵便電信局電信局技術員ヲ採用セントスルトキハ其本人ヨリ履歷書(第  
一號書式)及身元保證書(第二號書式)ヲ徴スヘシ但東京電信學校長ヨリ電氣通信技術  
終業證書ヲ付與シタルモノヲ直ニ採用スルトキハ身元保證書ヲ徴スルノ限ニアラ  
ス

第四條 三等郵便電信局電信局技術員ノ身元保證人トナスヘキモノハ丁年以上ノ男  
子ニシテ土地又ハ家屋ヲ所有シ第二條各款ニ觸レサルモノニ限ルヘシ

第五條 三等郵便電信局電信局技術員採用ノ認可ヲ本省ニ請フトキハ其書面ニ履歷  
書ヲ添附スヘシ

第六條 左ニ掲クルモノヲ採用セントスルトキハ電氣通信技術傳習生養成規則ノ修  
業試驗方法ニ據リ試験ヲ受クルタメ本人ヲシテ本省ノ指示ニ從ヒ東京電信學校又  
ハ一二等郵便電信局又ハ電信局ニ出頭セシムヘシ

一 東京電信學校長ノ付與スヘキ電氣通信技術終業證書ヲ有セサルモノ

二 東京電信學校長ノ付與シタル電氣通信技術終業證書ヲ有シ又ハ遞信省ノ電氣通信技術官タリシモ採用ノ時マテ三ヶ年以上ノ間遞信省ノ電信業務ニ從事セサルモノ

第七條 電氣通信技術傳習生養成規則第二條ニ掲クル電信業務ニ從事スヘキ期限内ニアル技術員ノ職務ヲ免シ又ハ辭職ヲ許可セントスルトキハ其技術員ヲ養成シタル東京電信學校長又ハ郵便電信局長又ハ電信局長ニ其事由ヲ通知シ承認ヲ受クヘシ

第八條 三等郵便電信局電信局ノ技術員ヲ命免黜陟シタルトキハ本省ニ其旨ヲ届出ヘシ

(第壹號書式)

履 歷 書

北海道廳何府縣華士族平民

何 某

生年月日

本 籍

一 北海道廳何府縣何市郡區何町村何番地戸主又ハ何某男兄弟等(現ニ本籍地ニ居住スルトキハ本項中ニ現今本地ニ居住ノ旨ヲ加記スヘシ)

現 今 寄 留 地

一 北海道廳何府縣何市郡區何町村何番地(何某方)寄留

學 術 技 藝

一 何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至ル所修ノ科目何々

一 何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス所修ノ科目大略何々

一 何年何月何地何學校(何々)ニ於テ何々ノ試験ヲ受ケ及第ス其受験ノ科目何々

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何々所ニ於テ電氣通信技術ノ教授ヲ受ケ何年何月何日電氣通信技術修業證書ヲ得(此ニ其證書ノ全文ヲ掲記スヘシ)

官 位 職 業

一 何年何月何地官公私立何學校何科教員トナリ(月給何圓)教授ニ從事シ何年何月解職其間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ從事ス其間俸給ノ増減

一 何年何月何官廳ニ於テ何々(月給又ハ日給何圓)拜命何年何月マテ何々ノ事務ニ從事シ何年何月辭職

一 何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何年何月免官

是レハ依願ニアラスシテ免官トナリタルモノヲ云フ其免官ニ至リタルマテノ手續ヲ此所ニ詳記スヘシ

一 何年何月何位(勳何等)ニ叙セラレ

一 何年何月ヨリ何地何會社ニ雇ハレ(月給何圓)何々ノ業務ニ從事シ何年何月ニ至テ解雇其間俸給ノ増減

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何業ニ從事ス

一 何年何月ヨリ何々著譯ニ從事シ何年何月ニ至ル其著譯スル所ノ書名左ノ如シ

著 譯 書 名 ヲ 掲 ぐ

賞 罰

一 何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ何々ノ賞ヲ受ケ

一 何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ由リ何々ノ罰ヲ受ケ(又ハ曾テ罰ヲ受ケタルトナシ)裁判所ノ宣告書ハ其要ヲ記スヘシ都テ受罰ハ其受罰ノ日數料額金額等ヲ詳記スヘシ

一 何年何月何地ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ケシモ何年何月負債ノ辨償ヲ終ヘタリ(又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ)



右之通相違無之候也

年月日

右

何

某印

(第二號書式)

身元保證書

道廳何府縣何國何市郡區何町村何  
番地住(又ハ何某方同居又ハ寄留)  
戸主(又ハ戸主何某長次男等)  
華士族又ハ平民

何

某

生年月日

右ハ本人履歷書ニ記載有之候通り何年何月電氣通信技術修業何年何月マテ何局電氣通信助手奉職(又ハ何年何月ヨリ何年何月マテ選信省ニ於テ電氣通信技術官又ハ何局技術員奉職又ハ何官廳又ハ何社ニ於テ電氣通信技術ニ從事)品行方正ニシテ三等郵便電信局電信局技術員採用規則第二條各款ニ觸レサルモノニ有之候間御局技術員ニ御採用ノ上ハ御用辨可相成ト確信仕候依テ本人身上ノ義私ニ於テ保證仕候也

道廳何府縣何國何市郡區何町村何  
番地住  
華士族又ハ平民  
身元保證人 何 某印

年月日

何地郵便電信局

御中

郵便電信局 電信局

二十三年公達第四百六十二號ヲ以テ改正

○公達第四百七拾貳號十一月三十日  
三等郵便電信局電信局技術員定員規則左ノ通相定ム

但明治二十一年(六月)公達第三百七拾七號三等電信局技術員規則ハ廢止ス

三等郵便電信局電信局技術員定員規則

第一條 電信器械ヲ使用スル三等郵便電信局電信局ニハ此規則ニ從ヒ技術員ヲ置ク  
ヘキモノトス但北海道地方ノ三等郵便電信局電信局ニハ技術員ヲ置カス其區一二  
等郵便電信局又ハ電信局ノ電氣通信助手シテ在勤セシムルコトアルヘシ其定員  
ハ此規則ニ準據スルモノトス

第二條 三等郵便電信局電信局技術員定員ハ二名トス

第三條 三等郵便電信局長電信局長技術ノ職務ヲ取扱フトキハ其局長ヲ技術定員中  
ニ算スルモノトス

○公達第四百七拾三號十一月三十日

郵便電信局 電信局

三等郵便電信局電信局電信經費給與規則左ノ通相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

但明治二十一年(六月)公達第三百七拾七號三等電信局經費給與規則其他此達ニ關係ス  
ル從前ノ達及指令ハ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

三等郵便電信局電信局電信經費給與規則

第一條 三等郵便電信局電信局電信經費ハ電信事務ニ關スル備員給料其他一切ノ費  
用ニ充ツルモノトス但左ニ記載スルモノハ別ノ達ニ依リ實費ヲ給與シ又ハ現品ヲ  
交付ス

一 電報別配塗料

一 電報配塗船料

一 電話室新調費

一 事業用器械物品修繕費

一 事業用器械物品

第二條 三等郵便電信局電信局電信經費給與額ハ當該郵便電信局電信局ニ於テ前年  
中取扱ヒタル平均一箇月發着電報通數(局報ヲ除ク)并中繼通數ニ據リ左ノ割合ニ從

二十三年公達第五  
號ヲ以テ追加  
第三百七十九號ヲ  
以テ改正  
二十四年公達第三  
百九十一號ヲ以テ  
改正

テ其月額ヲ算定スルモノトス

一 電信ヲ取扱フ局ニアリテハ其電報通數三百通以内ハ月額金拾七圓五拾錢トシ其通數三百通ヲ超ユルモノハ超過百通以内毎ニ金貳拾錢ヲ加フルモノトス

一 電話ヲ取扱フ局ニアリテハ其電報通數三百通以内ハ月額金六圓五拾錢トシ其通數三百通ヲ超ユルモノハ超過百通以内毎ニ金五拾錢ヲ加フルモノトス

第三條 新設三等郵便電信局電信經費額ハ新設ノ時ヨリ四箇月間ハ左ノ金額ヲ以テシ五箇月以後ハ新設ノ時ヨリ三箇月間取扱ヒタル平均一箇月電報通數ニ依リ第二條ノ例ニ照シテ其經費額ヲ改定スルモノトス但一箇月ノ中途ニ於テ新設シタルトキ其一箇月分ハ現在取扱ヒタル通數ノ比例ニ依リ積算スルモノトス

一 電信ヲ取扱フ局ハ 一箇月 金拾七圓五拾錢

一 電話ヲ取扱フ局ハ 一箇月 金六圓五拾錢

第四條 二等級以上ノ郵便電信局電信局ヲ三等ニ改メタルトキ其三等郵便電信局電信局電信經費額ハ改等ノ前々月以前ノ三箇月間取扱ヒタル平均一箇月電報通數ニ依リ第二條ノ例ニ照シテ算定スルモノトス

第五條 電信電話ヲ併セ取扱フ局ノ電信經費額ハ電信ヲ取扱フ局ノ例ニ依リ之ヲ給與シ尙第六條ニ照シテ増給スルモノトス

第六條 使用器械數ニ坐アル局ノ電信經費ハ第二條ニ掲ケル金額ノ外尙月額金壹圓七拾五錢ヲ増給スルモノトス

第七條 北海道地方ノ三等郵便電信局電信局電信經費ハ此規則ニ定ムル額ノ十分ノ二ヲ増給スルモノトス

第八條 三等郵便電信局電信局電信經費額ハ毎會計年度之ヲ定メ其年度内ハ改定セサルモノトス

第九條 三等郵便電信局電信局電信經費ハ月額ヲ以テ毎月局長ニ給與スルモノトス但局長ノ廢置シ又ハ局長ヲ更換シ又ハ事務ノ變更ニヨリ其給額ヲ増減スルトキハ日

割ヲ以テ計算スルモノトス

第十條 此規則ニヨリ給與シタル經費ハ實費ニ對シ過不足ヲ生スルト雖モ追徴又ハ追給セサルモノトス

第十一條 三等郵便電信局電信局ニ技術員ヲ置カス電氣通信助手ヲシテ在勤セシメタルトキ又ハ技術員欠員等アル場合ニ於テ一時代員ヲ派遣シタルトキハ電氣通信助手又ハ代員一名ニ付一箇月金七圓ノ割ヲ以テ在勤又ハ派遣執務日數ニ應シ其金額ヲ經費中ヨリ控除スルヲアルヘシ但北海道地方ノ三等郵便電信局電信局ニアリテハ本文ノ金額ニ十分ノ二ヲ増シタル金額ヲ經費中ヨリ控除スルモノトス

第十二條 局長ノ服務ヲ停止シタル場合ニ於テ其區一等級郵便電信局ヨリ特ニ官吏ヲ派遣シ局長ヲ取扱ハシメタルトキハ其日數中ハ總テ經費ヲ給與セス

○公達第四百七拾四號十一月三十日

郵便電信局 電信局

電信取扱所 公共ノ通 電信建築官

○公達第四百七拾五號十一月三十日

熱田郵便電信局發著ノ電報中繼局ヲ名古屋局トシ泊町郵便電信局發著ノ電報中繼局ハ魚津局同様心得ヘシ

○公達第四百七拾六號十二月七日

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第二條第四項魚津ノ次及同第九條附表系魚川ノ次ニ泊町ヲ追加ス

○公達第四百七拾六號十二月七日

電氣通信技手ニシテ在勤局未定ノ者又ハ在勤局既定ノ者ニシテ出張若クハ臨時在勤スル者アルトキ經費支出方等總テ其出張又ハ在勤地ヲ監督スル一等級郵便電信局ニ於

郵便電信局 電信局

電信取扱所 公共ノ通 電信建築官

テ處理スヘシ

○公達第四百七拾七號十二月七日

郵便電信局 郵便局  
郵便貯金預所

貯金通帳ニ押捺スル貯金取扱主務者印形ニ付テハ元驛遞局甲第貳拾八號(十九年二月一日)ヲ以テ相違置タル次第モ有之候處自今該印ハ左ノ雜形ニ據リ成ルヘク之ヲ調製押捺シ其調製費ハ局所經費ヲ以テ支辨スヘシ但局所名多數ノ文字ニテ其雜形ニ據リ調製シカタキモノハ便宜長方形ト爲スヲ得

曲尺  
何郵便局  
方三分  
長

曲尺  
何郵便貯金預所  
取扱入  
方三分

郵便電信局 電信局  
電信取扱所ハサル取扱所ヲ除ク

明治十九年(四月)元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第十一條第十項及第四十六條左ノ通改正追加ス

第十一條第十項改正

着信局ニ於テ爲替電報ヲ受信スルトキハ名所欄内ニ郵便局名ノミヲ記シ其他ノ名所ハ本文欄内ニ本文ト錯雜セサル様記入シ(別紙乙第六號書式)之ヲ電報配達簿(別紙第八號書式)ニ添ヘテ郵便局へ配達スヘシ但受取紙ハ添ヘサルモノトス

第四十六條書式第六號ノ次へ追加  
乙第六號 爲替電報着送紙書式

乙第六號

受午後 人信受	時分		局		發第		官報 號	明治		著局	局	技手					
	ヤマトノクニ	ナラユウビンキヨク	ナラユウビンキヨク	ミカヲノクニ	トヨハシユウビンキヨク	日本府電信著局紙		符囁	ヨム				一	二	三	四	五
人信發																	

○公達第四百七拾九號十二月七日

郵便電信局 電信局

公衆ノ通  
信ヲ取扱  
電信取扱所  
ハサル取  
扱所ヲ除  
電信建築官

明治廿一年(四月)公達第七拾六號直江津富山線回線接續局名中糸魚川ノ次へ泊町ヲ明治廿二年(七月)公達第貳百貳拾六號名古屋西尾線回線接續局名中名古屋ノ次へ熱田ヲ追加ス

○公達第四百八拾號十二月七日

郵便電信局 電信局

公衆ノ通  
信ヲ取扱  
電信取扱所  
ハサル取  
扱所ヲ除  
電信建築官

電報中繼局ヲ左ノ通り改正ス

電報	往復局名	中繼局
自洲	石神戶三宮本	大阪

○公達第四百八拾壹號十二月七日

郵便電信局 郵便局

本年(十一月)公達第四百三拾四號郵便事業上所用ノ器械物品々類申左ノ通り改正ス

一 歐文日付印括弧内局ノ下(及外國郵便物又ハ外國爲替ヲ直接ニ受授スル局)ノ二十

一字ヲ挿入ス

一 書留用日付印ノ一項ヲ削除ス

一 外國行囊括弧内局ノ下(及外國郵便物ヲ直接ニ受授スル局)ノ十五字ヲ挿入ス

一 日本形六貫目掛秤秤量括弧内ノ二十三字ヲ(實際ノ必用ニ應シテ之ヲ備フ)ノ十三字ニ改ム

○公達第四百八拾貳號十二月十四日

郵便電信局 三等局

郵便物集配電信配達事務監視專務者ニハ時計壹個ツ、交付シ執務中必ス携帯セシムルモノトス其保管責任ハ本省物品出納規程ニ從フヘシ

○公達第四百八拾三號十二月十四日

郵便電信局 郵便局

本年八月公達第三百貳拾號郵便私書函貸與及ヒ變更報告ハ自今其區監督一等局ヲ經由スヘシ

○公達第四百八拾四號十二月十四日

郵便電信局 郵便局

他官衙ヨリ郵便爲替貯金等ノ統計其他常務外ニ係ル取調方依託有之節ハ秘密ニ關スル事項ヲ除ク外其局事務ノ支障有無ニ依リ便宜處分スヘシ

○公達第四百八拾五號十二月十四日

一等郵便電信局 一等郵便局

遞信省令第七號ヲ以テ使用禁止ノ電信切手引換ヲ請求スルモノアルトキハ定價ニヨリ郵便切手ト引換ヲナスヘシ

○公達第四百八拾六號十二月十四日

郵便電信局 電信局

明治十九年元電信局乙第一二五一號達局内心得書附則第四十六條第四號電報類別總計表書式別紙ノ通り改正候條來明治二十三年一月分ヨリ該表記入心得ニ據リ調製スヘシ

但明治二十年(十二月)公達第三百三拾號ハ廢止ス

(別紙)

二十三年公達第三百四十八號ヲ以テ追加

電信局 內國電報類總計

種類	電報數	和文		歐文		通數計
		信數	通數	語數	通數	
發報	官報					
	私報					
	工商用					
	銀行用					
	新聞用					
料	雜用					
	計					
信	官私報計					
	官報					
	警報					
	鐵道報					
料	局報					
	計					
着	合計					
	有料官私報					
	官報					
	警報					
料	鐵道報					
	局報					
計	計					
	合計					
計	內國發著電報					
	外國發著電報					
總	中繼信					
	計					

相違無之候也

明治十年月日差立

表 明治十年月分

種類	料金	和文		歐文		計
		圓	錢	圓	錢	
發報	官報					
	私報					
	工商用					
	銀行用					
	新聞用					
料	雜用					
	計					
信	官私報料					
	受取證					
	正寫					
	配達料					
料	計					
	合計					
着	官私報					
	略號					
	正寫					
	配達料					
料	計					
	合計					
計	內國料金					
	外國電報ノ內國料金					
總	計					
	外國電報ノ外國料金					

(第一號紙)

電信局長

電信局 外國電報類別總

種類	電報數	和文		歐文		通數計
		信數	通數	語數	通數	
發信	有料	官報				
		私報	工商用			
			銀行用			
			新聞用			
			雜用			
	計					
	官私報計					
	無料	警報				
		局報				
		計				
合計						
着信	有料	官私報				
		警報				
	無料	局報				
		計				
合計						
發著信總計						

相違無之候也  
明治十年月

(別紙)

計表 明治十年月分

種類	料金	和文		歐文		計
		圓	錢	圓	錢	
發信	官報					
	私報	工商用				
		銀行用				
		新聞用				
		雜用				
計						
官私報計						
信	手數料	正寫				
		配達料				
	計					
合計						
著信	手數料	官私報				
		略號				
	正寫	配達料				
		計				
合計						
總計						
外國電報ノ外國料金						

(第二號紙)

日差立

電信局長

電報類別總計表記入心得

- 一本表ハ亞刺比亞數字ヲ以テ正シク記載シ千位毎ニ必ス句點ヲ附スヘシ
- 一表中ニ空欄ヲ生スルモ斜線ヲ引又ハ圓形印ヲ押捺セスシテ空欄ノマヽニスヘシ
- 一左ニ記載シタル類別記入方ハ主トシテ内國ノ部ニ就テ説明セリ外國ノ部ハ之ニ準シテ記入スヘシ

電報數 發信

(官) 報發信官報ヲ和歐文ノ二種ニ分チ信語通數ヲ區別シ各其適當欄内ニ且和歐文通數ヲ合算シテ其計欄内ニ記スヘシ(和歐文ノ二種ニ分チ信語通數ヲ區別シ云々以下各項畧之)

發信私報ノ内工商用ノ分ノミ記入スヘシ  
但農業ニ關スル分モ合算スヘシ

發信私報ノ内發信人又ハ受信人名ヲ各銀行若クハ銀行員ノ名ヲ以テ記載アル分ノミヲ記入スヘシ

發信私報ノ内發信人又ハ受信人名ヲ各新聞社若クハ雜誌社名又ハ其社員名ヲ以テ記載アル分ノミヲ記入スヘシ

前三類別外ノ發信私報ヲ記入スヘシ  
但暗號電報ニモ前三類ニ組入ルヘキ望ミアル分ハ之ヲ區別算入シ妄リニ雜用ニ入ルヘカラ

前四類ヲ合算記入スヘシ

報	私		
	工商用	銀行用	新聞用
雜用			
計			

(官) 報發信官報及私報ヲ合算記入スヘシ

(無) 報發信電取扱所ト直通郵便電信局又ハ電信局間ノ通信ニ止マリ料金を徵收セサル官報ヲ記入スヘシ

(警) 報發信鐵道報ノ例ニ依リ取扱フ發信氣象警報ヲ記入スヘシ

(鐵) 報發信鐵道報ヲ記入スヘシ

(局) 報發信公用電報ハ有料官報ニ合算シ更ニ此欄ニ朱記スヘシ

(合) 報發信局報ヲ記入スヘシ

著信

(有) 報發信官報及私報ノ合算高ヲ記入スヘシ

(無) 報發信無料官報ヲ記入スヘシ

(警) 報發信警報ヲ記入スヘシ

(鐵) 報發信鐵道報ヲ記入スヘシ

(局) 報發信公用電報ハ有料官報ニ合算シ更ニ此欄ニ朱記スヘシ

(合) 報發信局報ヲ記入スヘシ

計

(內) 報發信電報發信合計及著信合計ヲ合算記入スヘシ

(外) 報發信電報外國電報類別總計表ノ發著信總計ヲ附記スヘシ

(中) 報發信中繼信ハ内外和歐等ノ區別ヲナサズ唯總通數ノミ記入スヘシ

(總) 報發信內國發著電報外國發著電報及中繼信ヲ合算記入スヘシ

料金

發信

(官) 報發信官報ノ電報料ヲ和歐文ノ二種ニ分チ其適當欄内ニ且和歐文電報料ヲ合算シテ其計欄内ニ記入スヘシ(和歐文ノ二種ニ分チ云々以下各項畧之)

私		報	
工商用	銀行用	新聞用	雜用
發信私報ノ電報料ノ内工商用ノ分ノミ記入スヘシ 但農業ニ關スル分モ合算スヘシ	發信私報ノ電報料ノ内發信人又ハ受信人名ヲ各銀行若クハ銀行員名ヲ以テ記入アル分ノミヲ記入スヘシ	發信私報ノ電報料ノ内發信人又ハ受信人名ヲ各新聞社若クハ雜誌社名又ハ其社員名ヲ以テ記載アル分ノミヲ記入スヘシ 前二類別外ノ發信私報ノ電報料ヲ記入スヘシ 但暗號電報ニテモ前三類ニ組入ルヘキ望アル分ハ之ヲ區別算入シテ誤リニ雜用ニ入ヘカラス 前四類ヲ合算記入スヘシ	發信私報ノ電報料ノ内發信人又ハ受信人名ヲ各新聞社若クハ雜誌社名又ハ其社員名ヲ以テ記載アル分ノミヲ記入スヘシ 前二類別外ノ發信私報ノ電報料ヲ記入スヘシ 但暗號電報ニテモ前三類ニ組入ルヘキ望アル分ハ之ヲ區別算入シテ誤リニ雜用ニ入ヘカラス 前四類ヲ合算記入スヘシ

- (官私報計) 官報及私報ノ電報料ヲ合算記入スヘシ
- (受取) 電報受取證ノ手数料ヲ記入スヘシ
- (正) 寫發信ニ關スル正寫手数料ヲ記入スヘシ
- (配達) 料發信ニ關スル別使郵便及解船配達料ヲ合算記入スヘシ  
(受取證正寫及配達料) 合算記入スヘシ
- (合) 計官私報計及手数料計ヲ合算記入スヘシ
- (著信) 報追尾又ハ發信人ヨリ取立得サルトキ受信人ヨリ取立タル不足電報料其  
他總テ著信局ニテ取立タル電報料ヲ合算記入スヘシ  
號其月收入セシ略號常用料ヲ記入スヘシ  
但外國電報ニ通シ用ユルモノハ外國ノ一方ニ記入スヘシ
- (正) 寫著信ニ關スル正寫手数料ヲ記入スヘシ
- (配) 料著信局ニテ取立タル別使郵便及解船配達料ヲ合算記入スヘシ
- (合) 計官私報計及手数料計ヲ合算記入スヘシ

二十三年公達第十  
三號ヲ以テ改正  
第四百十五號ヲ以  
テ廢

- (内) 國料 金内國電報ノ發信合計及著信合計ヲ合算記入スヘシ
- (外) 國料 金外國電報類別總計表ノ料金總計ヲ合算記入スヘシ
- (總) 計 内國料金及外國電報ノ内國料金ヲ合算記入スヘシ
- (外) 國料 金外國電報類別總計表ノ外國電報ノ外國料金ヲ合算記入スヘシ
- 一 關外ニハ局名及何年何月分ト記載シ且此表ヲ調製シ其地ヲ差立ル年月日及局長ノ  
官氏名ヲ明記調印スヘシ
- 一 内國電報ノミニテ外國電報又ハ中繼信無之共總計關ニハ其内國電報ノミヲ記入ス  
ヘシ
- 一 内國電報ノミニテ外國電報無之カ又ハ外國電報ノミニテ内國電報無之トキハ孰レ  
カ一方ノ類別總計表ノミヲ調製差出スヘシ
- 公達第四百八拾七號十二月十四日 郵便電信局 郵便局
- 郵便空行遞送手續ニ定ム  
但從前ノ令達等ニシテ本手續ニ抵觸シタルモノハ消滅ト心得ヘシ
- 郵便空行遞送手續
- 第一條 郵便用各種ノ空行遞送ハ各地ノ便宜ニ依リ内國通運會社又ハ日本郵船會社大  
阪商船會社ヲシテ遞送セシムルモノトス  
但東京府下大島八丈島小笠原島沖繩縣下一般及鹿兒島縣下大隅國諸島ハ内國通  
運會社ノ便ナキヲ以テ其遞送方ハ從來ノ例ニヨリ便宜處理スヘシ
- 第二條 前條ニ依リ行遞送各會社員ニ交付スルトキハ其品目員數并ニ適用損傷等  
ノ區別ヲ記載シタル送付書ヲ作り開封ノ儘之ヲ添付スヘシ
- 第三條 局名記入アル各種行遞送網掛行遞送除クハ其記名局へ送付セシメ否ラサルモ  
ノハ其區一等郵便電信局郵便局へ送付セシムルヘシ
- 第四條 網掛行遞送ハ其區一等郵便電信局郵便局へ送付セシムルモノトス但甲乙互地



間差立度數平均ヲ得サル爲メ一方ニ於テ需用頗多ノ場合其他線路ノ都合ニ依リ遞送上著シク迂回シ實地運轉上差支ヲ生スル等止チ得サル事由アルモノニ限リ其差立元局へ送付セシムルヲ得尤モ此場合ニ於テ内國通運會社便ニ付スルモノハ一等郵便電信局ヨリ其旨豫メ同會社支店又ハ代理店へ通知シ置クヘシ

第五條 網掛行遞及角遞橫遞ハ一等郵便電信局郵便局ニ於テ運轉上剩餘ヲ生シ又ハ前數條ニ依リ受入タルトキハ將來使用又ハ交付スヘキ相當ノ豫備ヲ存シ其餘ハ速ニ本省會計局へ送付セシムヘシ

第六條 前數條ニヨリ二等及三等郵便電信局又ハ郵便局ヨリ各會社ヲシテ遞送セシメタル行遞ハ其種類員數等ヲ區分シ每半ケ年度(四月一日ヨリ九月三十日迄十月一日ヨリ三月三十一日迄)分取摺メ各會社毎ニ甲號調表ヲ製シ毎年四月及十月五日迄ニ發送其區一等郵便電信局郵便局へ報告スヘシ

第七條 一等郵便電信局郵便局ハ第六條ノ報告ヲ統括シ自局ノ員數ヲ加ヘ各會社毎ニ乙號統計表ヲ製シ五月三十一日迄ニ發送本省內信局へ報告スヘシ

第八條 第六條第七條ニ記載スル行遞種類員數ハ本年度上半季分ヲモ取調其報告書ニ限リ二三等郵便電信局郵便局ハ來ル二十三年一月末日一等郵便電信局郵便局ハ來ル二十三年二月末日迄ニ差出スヘシ

(甲號)

明治自何年何月何月六ヶ月間某會社ヲシテ遞送セシメタル郵便空行遞類員數調表

品名	本省へ	一等局へ	差立元	二等局へ	計
網掛大行遞					
網掛小行遞					
大桐油					
小桐油					

添行遞	大角遞	小角遞	大橫遞	小橫遞	白大行遞	白中行遞	白小行遞	赤大行遞	赤中行遞	赤小行遞	計

右報告ス

明治 年 月 日

某局長名宛

某局長名印

備考

遞信管理局廢止前同局へ向ク既ニ報告シタルモノハ本報告表ト抵觸ノ廉ノミ更ニ報告スルモノトス

(乙號)

明治自何年何月何月六箇月間某會社ヲシテ遞送セシメタル郵便空行遞類員數統計表

品名	本省ヨリ	一等局ヨリ	二等局ヨリ	三等局ヨリ	計
網掛大行遞					
網掛小行遞					
	二等局ヨリ	一等局ヨリ	二等局ヨリ	三等局ヨリ	
	局へ	局へ	局へ	局へ	



郵便物日計表記入心得

一 表中物數ハ數字ヲ以テ堅ニ書下シ例之ヘ百三十一個ナレハ(一三一)千百三十一個ナレハ(一三)ト記スヘシ

一 甲號日計表ハ其日ノ郵便物總數ヲ掲クルモノナレハ約束郵便ヲ取扱フ局ニ於テハ約束郵便物モ普通郵便物ト共ニ各種別ニ從ヒ合算掲記シ而シテ取集ノ部ニ係ル約束郵便物ノ三再ヒ乙號日計表ニ記載スヘシ

一 取集ノ部ニハ差出人ヨリ直チニ自局若クハ受取所ニ差出セシモノ及ヒ郵便函ヨリ取集メタルモノハ初メテ郵便物數ニ上ルヘキモノヲ記ス故ニ一旦配達セシモ届能スハ即チ受取人移轉等ニ依リ肩書ノ家ヨリ附箋ヲ以テ再ヒ差出セシモノハ入ノ部事故物ノ數ニ入レ此計數ニ算入スヘカラス

一 書留郵便物ハ各其種類ニ從ヒ並郵便物ノ次欄ニ記シ之ヲ合セテ其種類ノ計ヲ付スヘシ

一 配達ノ部ニハ自局取集及到達ノ内初メテ配達ノ數ニ上ルヘキモノヲ記ス故ニ自局ニ於テ一旦配達セシモ届能ハス再ヒ配達シ又ハ他局ヨリ再達ノ爲メ移シ來リ配達シ或ハ返戻スルモノハ出ノ部事故處分ノ數ニ入ルヘシ

一 配達物數ハ種類ヲ分タス式紙ニ設クル項目ニ從ヒ記入スヘシ其項目中私書函渡トアルハ私書函ヲ以テ受取人ニ配達スルモノヲ云ヒ留置ハ受取人ヲ待テ交付シ及受取人ノ請願ニ依リ留置クモノ非ニ事故ニ依リ受取人又ハ差出人ヲ召換シ渡スモノヲ云ヒ自局到達トハ自局ヘ到達セシモノ及自局ノ肩書ヲ用ヒテ其局請ノ職員ニ宛テタルモノヲ云フ

一 出入日計ハ其日ノ取扱總數ニシテ越高トハ前日出ノ部翌日廻シノ數ヲ云フ

一 事故物トハ到達又ハ取集ノ内一度配達ノ數ニ上リシモ届ケ能ハス更ニ他局ニ移シ又ハ自局區内ニテ再達或ハ返戻スヘキモノ及他局ヨリ再達返戻ノ爲メ到達セシモノヲ云フ

二十三年公達第百五十號ヲ以テ改正  
二十四年公達第百七十三號ヲ以テ更正

一 差立ハ自局取集物數中差立ノ數ヲ自局トアル欄ニ到達物數中一旦自局ニ受取更ニ他ノ線路ニ向ケ差立ツルモノヲ繼越ノ欄ニ記ス(交換局ニ於テモ亦此例ニ據ル)一線路中甲局ヨリ差立乙局ヲ越ヘ丙局ニ到着スルモノハ乙局ニ於テハ記載セサルモノトス

一 事故處分トハ入ノ部事故物中再達返戻沒書又ハ他局ニ再達返戻ノ爲メ移送セシモノヲ云フ

一 翌日回シハ其日處分ヲ了ラサルモノ例之ハ甲線ヨリ到達又ハ自局取集ノ内ニテ乙線ニ差立ツヘキモノ其差立後ニ係ルカ或ハ自局區内ニ配達スヘキモノ最終配達後ニシテ即日遞送配達シ能ハサルモノ或ハ紛來ノ分翌日便ヲ以テ繼戻ス如キモノ又通運會社巡回便ヲ待テ差立ツヘキモノヲ云フ

一 郵便心得第七十三條ニ據リ自局ニテ納稅消印ノ上私送セシムル郵便物ハ市内ノ集配數ニ算入シ若シ其手續ヲ了リシ後郵便ニ差出セシモノハ入ノ部事故物ニ入レ其郵便物ヲ遞送配達セシトハ出ノ部事故處分ニ算入スヘシ

一 前條ノ通り記載セハ出入ノ計同數ナルハ勿論ト雖萬一遺難紛失差押其他ノ事故ニテ計數差違ヲ生スルハ其事由詳細附箋スヘシ

○公達第四百八拾九號十二月十九日 郵便電信局 郵便局  
郵便物數報告表別表ノ通更正シ明治二十三年一月ヨリ施行ス  
但當分ノ内從前ノ用紙ヲ訂正使用スヘシ  
郵便物數報告表 用紙半紙

郵便物數報告表				明治(何)年(何)月分	
種別	取集ノ部		配達ノ部	市並配達	(何)個
	通常	書留			
書狀	(何)個	(何)個			

